

平成27年度
全国学力・学習状況調査結果について

平成27年9月
山口県教育庁義務教育課

目 次

1 教科に関する結果	P 1
① 全体の結果	P 1
② 各教科の結果	P 1
③ 具体的な問題と解答状況	P 17
2 質問紙調査の結果	P 50
① 授業づくりに関する児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問	P 50
② 児童生徒質問紙	P 62
③ 学校質問紙	P 76
④ 理科の指導に関すること	P 85

《平成27年度全国学力・学習状況調査の概要》

- 目 的
- ・義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査期日 平成27年4月21日（火）
- 調査方式 悉皆調査
- 実施学校数・児童生徒数（山口県）
- 【小学校6年】公立小学校293校、特別支援学校3校 11,540人
- 【中学校3年】公立中学校150校、中等教育学校1校、特別支援学校5校 11,331人
- 調査内容
- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・問題A：主として「知識」に関する問題
 - ・問題B：主として「活用」に関する問題
 - ※理科は「知識」と「活用」を一体的に出題
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

平成27年度全国学力・学習状況調査結果について

1 教科に関する結果

① 全体の結果

平均正答率を山口県と全国とで比べると、小学校は、国語、算数のA・B、理科の全区分で全国平均を上回る結果である。中学校は、国語、数学のA・Bの全区分で全国平均を上回り、理科は全国平均と同じである。

② 各教科の結果

ア 全国の平均正答数、平均正答率との比較

【小学校】

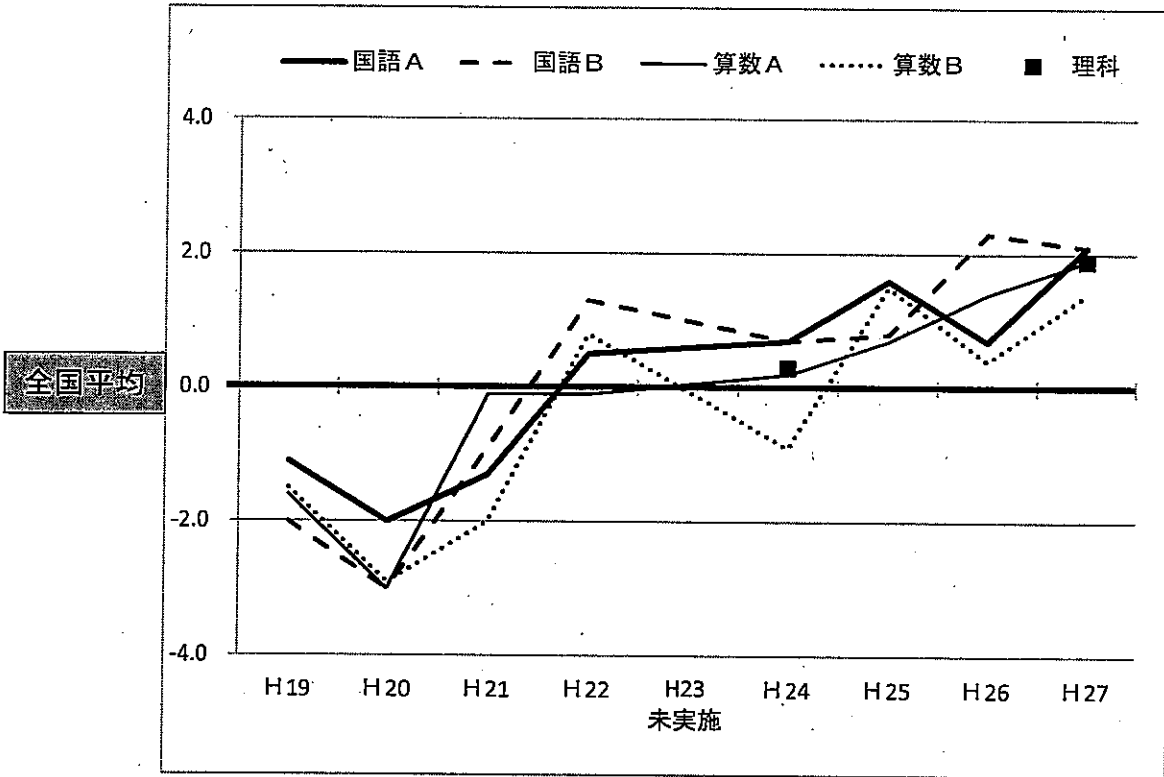
	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)		
	山口県	全 国	山口県	全 国	全国との比較
国語A	10.1/14	9.8/14	72.1	70.0	+2.1
国語B	6.1/9	5.9/9	67.5	65.4	+2.1
算数A	12.3/16	12.0/16	77.1	75.2	+1.9
算数B	6.0/13	5.9/13	46.4	45.0	+1.4
理 科	15.0/24	14.6/24	62.7	60.8	+1.9

【中学校】

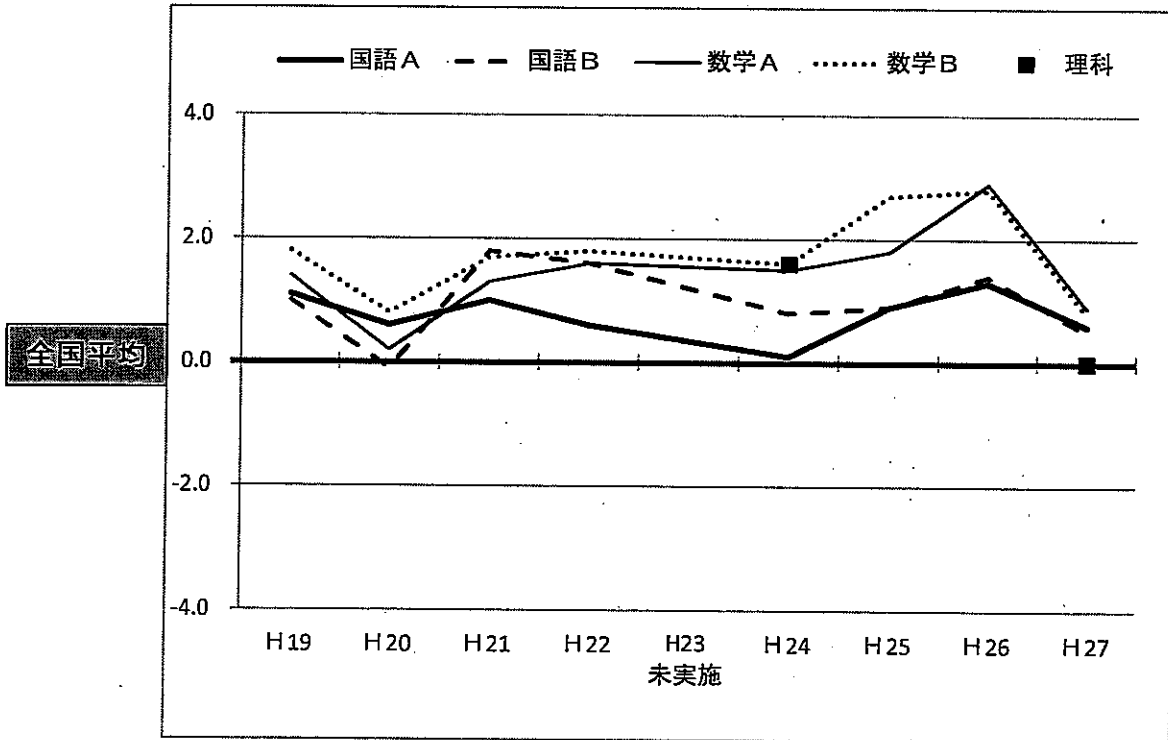
	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)		
	山口県	全 国	山口県	全 国	全国との比較
国語A	25.2/33	25.0/33	76.4	75.8	+0.6
国語B	6.0/9	5.9/9	66.3	65.8	+0.5
数学A	23.5/36	23.2/36	65.3	64.4	+0.9
数学B	6.4/15	6.2/15	42.4	41.6	+0.8
理 科	13.3/25	13.3/25	53.0	53.0	±0

イ 全国の平均正答率との経年変化

【小学校】



【中学校】



〔参考〕過去の調査での平均正答数及び平均正答率

【平成26年度】

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.0/15	10.9/15	73.6	72.9
国語B	5.8/10	5.5/10	57.8	55.5
算数A	13.5/17	13.3/17	79.5	78.1
算数B	7.6/13	7.6/13	58.6	58.2

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	25.8/32	25.4/32	80.7	79.4
国語B	4.7/9	4.6/9	52.4	51.0
数学A	25.3/36	24.3/36	70.3	67.4
数学B	9.4/15	9.0/15	62.6	59.8

【平成25年度】

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	11.6/18	11.3/18	64.3	62.7
国語B	5.0/10	4.9/10	50.2	49.4
算数A	14.8/19	14.7/19	77.9	77.2
算数B	7.8/13	7.6/13	59.9	58.4

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	24.7/32	24.4/32	77.3	76.4
国語B	6.1/9	6.1/9	68.3	67.4
数学A	23.6/36	22.9/36	65.5	63.7
数学B	7.1/16	6.6/16	44.2	41.5

【平成24年度】

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (95%信頼区間) (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	14.0/17	13.9/17	82.3 (81.7~82.9)	81.6 (81.4~81.7)
国語B	6.2/11	6.1/11	56.3 (55.3~57.4)	55.6 (55.4~55.8)
算数A	14.0/19	13.9/19	73.5 (72.6~74.4)	73.3 (73.1~73.5)
算数B	7.5/13	7.7/13	58.0 (57.0~59.1)	58.9 (58.7~59.1)
理 科	14.7/24	14.6/24	61.2 (60.3~62.2)	60.9 (60.8~61.1)

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (95%信頼区間) (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国語A	24.1/32	24.0/32	75.2 (74.7~75.8)	75.1 (75.0~75.2)
国語B	5.8/9	5.7/9	64.1 (63.4~64.8)	63.3 (63.2~63.4)
数学A	22.9/36	22.4/36	63.6 (62.8~64.4)	62.1 (62.0~62.3)
数学B	7.6/15	7.4/15	50.9 (49.8~51.9)	49.3 (49.2~49.5)
理 科	13.7/26	13.3/26	52.6 (51.9~53.3)	51.0 (50.9~51.1)

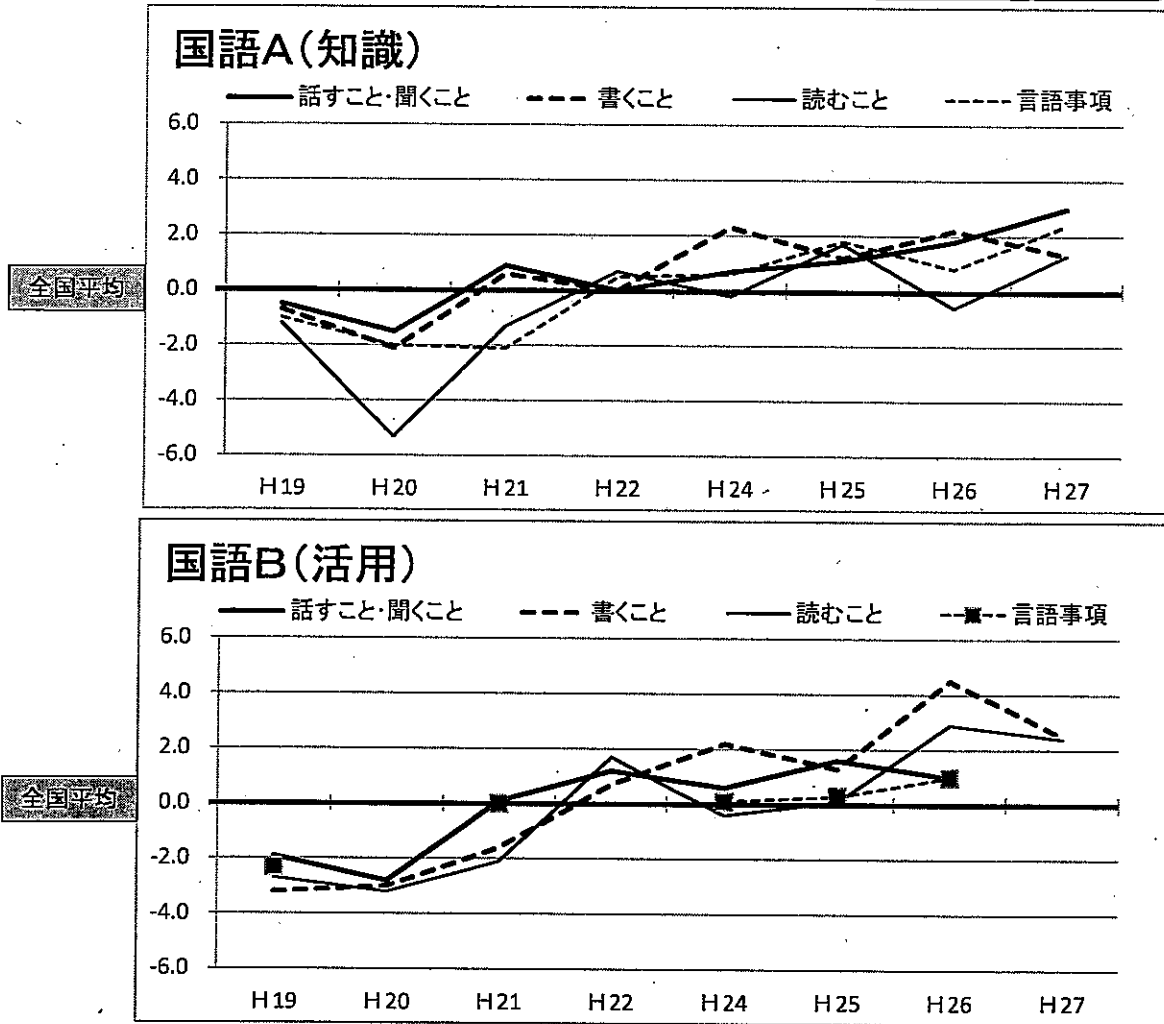
※ 平成24年度は理科を実施。

※ 平成24年度については、文部科学省は、抽出調査であることを踏まえ、「平均正答率 (推計値)」と誤差を含めた幅をもった数値「平均正答率の95%信頼区間」を併せて公表している。

ウ 領域別平均正答率の全国との比較【小学校】

〔国語〕

国語「知識」に関する問題については、すべての領域で全国平均を上回っている。また、国語「活用」に関する問題については、すべての領域で全国平均を上回っているものの、全国平均との差が小さくなっている。



〔国語A:主として「知識」に関する問題〕

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
話すこと・聞くこと	-0.5	-1.5	0.9	0.0	0.7	1.1	1.8	3.0
書くこと	-0.7	-2.1	0.6	0.0	2.3	1.2	2.2	1.3
読むこと	-1.2	-5.3	-1.3	0.7	-0.2	1.7	-0.6	1.3
言語事項	-1.0	-2.0	-2.1	0.5	0.6	1.8	0.8	2.4

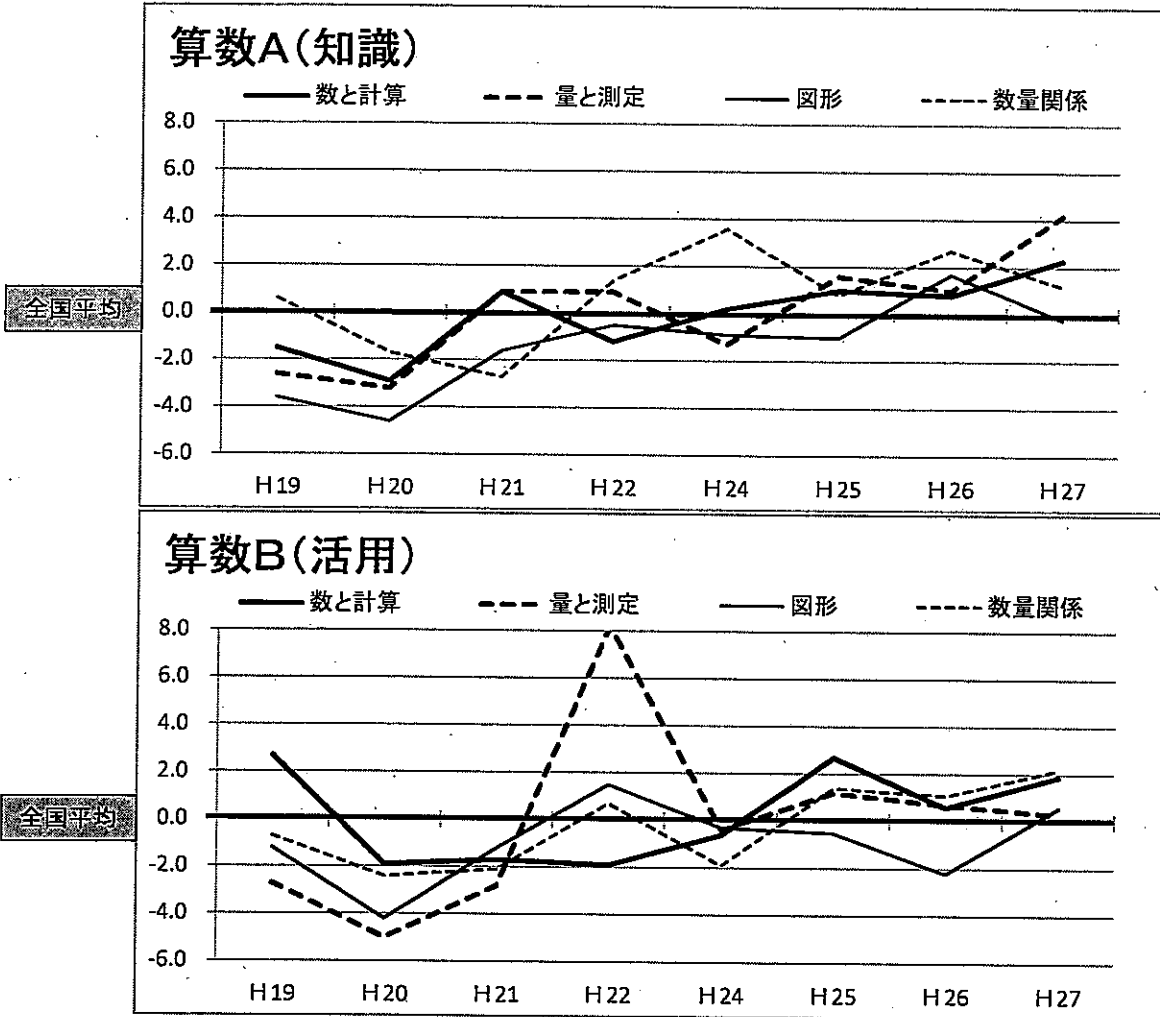
〔国語B:主として「活用」に関する問題〕

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
話すこと・聞くこと	-1.9	-2.8	0.1	1.2	0.6	1.6	1.0	
書くこと	-3.2	-3.0	-1.6	0.7	2.2	1.3	4.5	2.5
読むこと	-2.7	-3.2	-2.1	1.7	-0.4	0.1	2.9	2.4
言語事項	-2.3		0.0		0.1	0.3	1.0	

※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成24年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

[算数]

算数「知識」に関する問題については、「図形」以外の領域で全国平均を上回っている。また、算数「活用」に関する問題については、初めてすべての領域で全国平均を上回った。



[算数A:主として「知識」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
数と計算	-1.5	-2.9	0.9	-1.2	0.2	1.0	0.8	2.3
量と測定	-2.6	-3.2	0.9	0.9	-1.3	1.6	1.0	4.2
図形	-3.6	-4.6	-1.6	-0.5	-0.9	-1.0	1.7	-0.2
数量関係	0.6	-1.7	-2.7	1.4	3.6	0.8	2.7	1.2

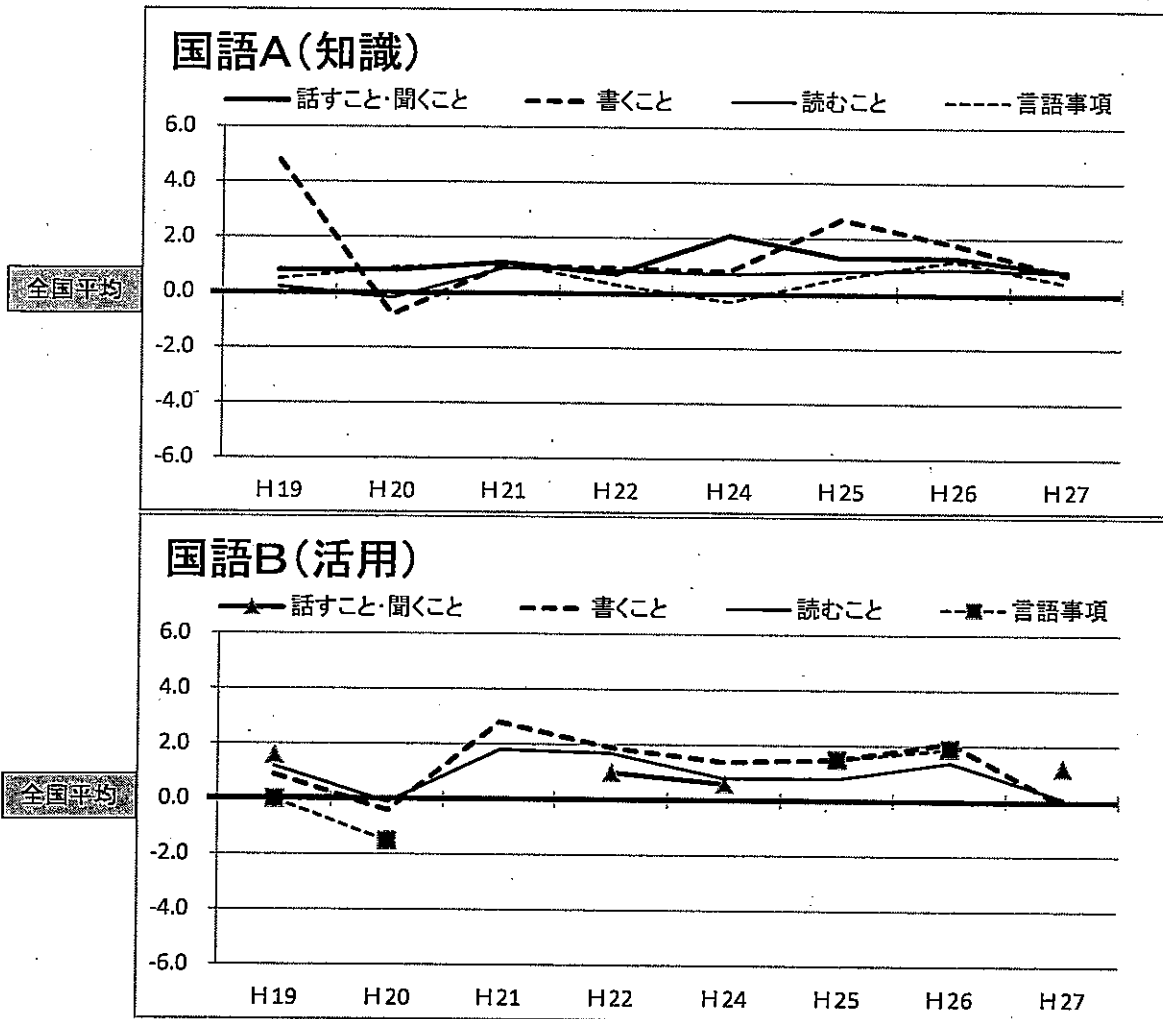
[算数B:主として「活用」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
数と計算	2.7	-1.9	-1.7	-1.9	-0.6	2.7	0.6	1.9
量と測定	-2.7	-5.0	-2.8	8.2	-0.4	1.2	0.7	0.3
図形	-1.2	-4.2	-1.2	1.5	-0.3	-0.5	-2.2	0.6
数量関係	-0.7	-2.4	-2.1	0.7	-1.9	1.4	1.1	2.2

エ 領域別平均正答率の全国との比較【中学校】

〔国語〕

国語「知識」に関する問題については、すべての領域で全国平均を上回っているものの、全国平均との差が小さくなっている。また、国語「活用」に関する問題については、「書くこと」以外の領域で全国平均を上回っている。



〔国語A:主として「知識」に関する問題〕

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
話すこと・聞くこと	0.8	0.8	1.1	0.7	2.1	1.3	1.3	0.8
書くこと	4.8	-0.8	1.0	0.9	0.8	2.7	1.8	0.7
読むこと	0.2	-0.2	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8
言語事項	0.5	0.9	1.1	0.3	-0.3	0.6	1.2	0.4

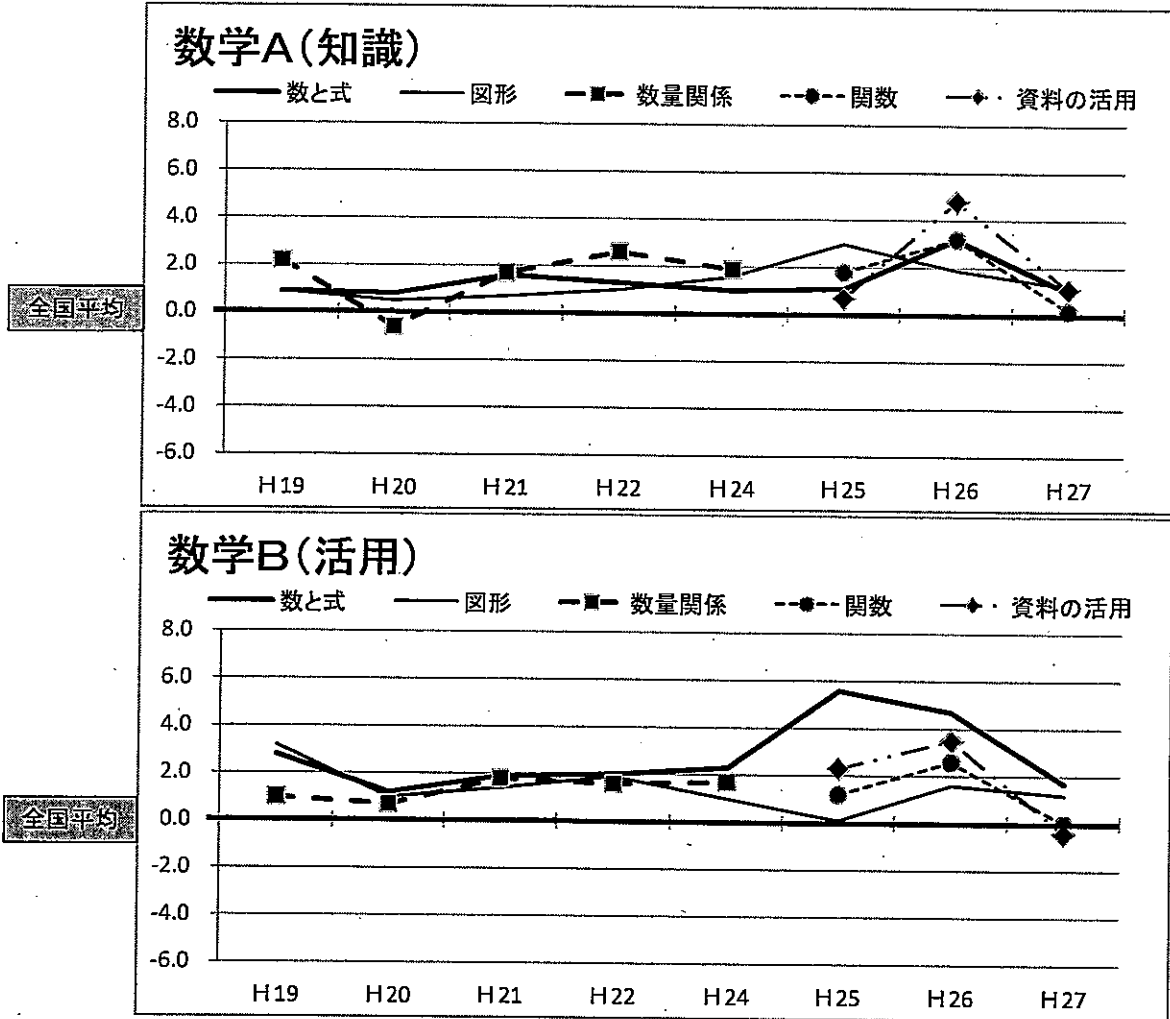
〔国語B:主として「活用」に関する問題〕

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
話すこと・聞くこと	1.6	0.0	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.2
書くこと	0.9	-0.4	2.8	1.9	1.4	1.5	2.1	-0.1
読むこと	1.2	-0.1	1.8	1.7	0.8	0.8	1.4	0.1
言語事項	0.0	-1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	1.9	0.0

※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成25年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

[数学]

数学「知識」に関する問題については、すべての領域で全国平均を上回っているものの、全国平均との差が小さくなっている。また、数学「活用」に関する問題については、「数と式」「図形」で全国平均を上回っているものの、すべての領域で全国平均との差が小さくなっている。



[数学A:主として「知識」に関する問題]

領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
数と式	0.9	0.8	1.6	1.3	1.0	1.1	3.2	1.0
図形	0.9	0.5	0.7	1.0	1.6	3.0	1.9	1.2
数量関係	2.2	-0.6	1.7	2.6	1.9	1.8	3.2	0.2
関数						0.7	4.8	1.1
資料の活用								

[数学B:主として「活用」に関する問題]

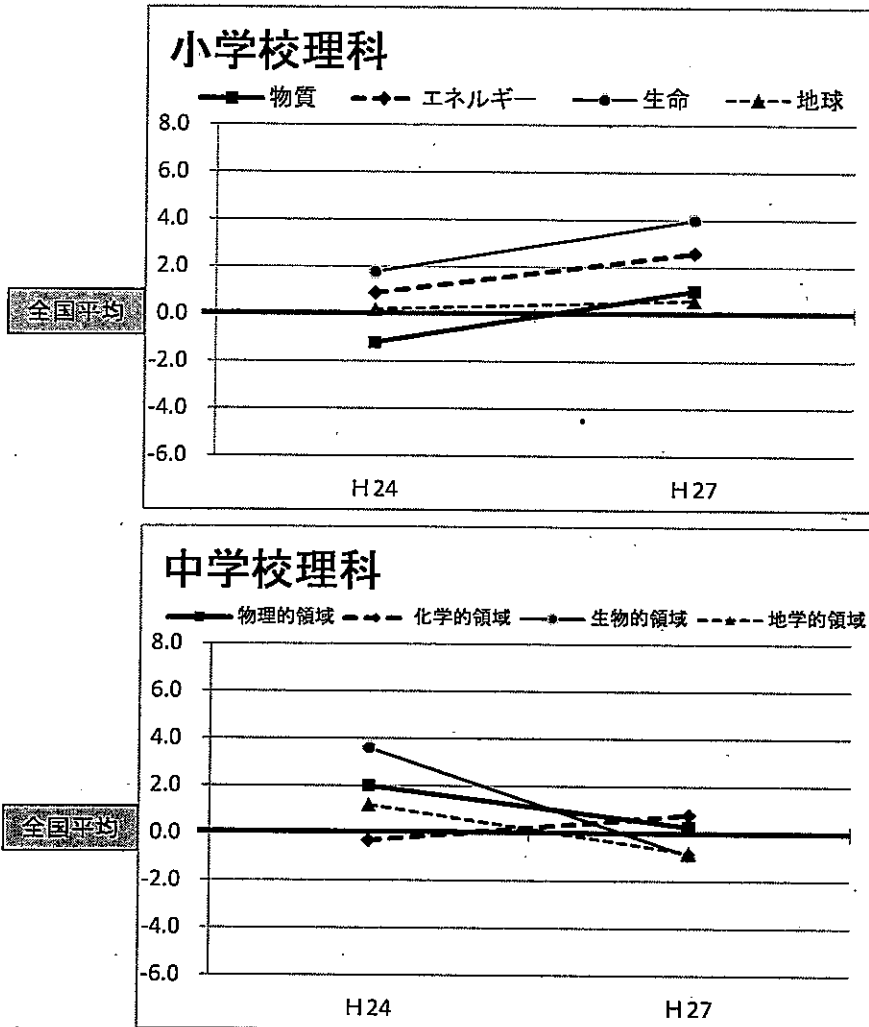
領域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27
数と式	2.8	1.2	1.9	2.0	2.3	5.6	4.7	1.7
図形	3.2	1.0	1.4	1.9	1.0	0.1	1.6	1.2
数量関係	1.0	0.7	1.8	1.6	1.7	1.2	2.6	±0
関数						2.3	3.5	-0.4
資料の活用								

※「数量関係」の領域は、平成25年度から「関数」と「資料の活用」の2領域に分けられている。

オ 領域別平均正答率の全国との比較【小・中学校】

[理科]

小学校理科においては、初めてすべての領域で全国平均を上回り、平成24年度と比べて伸びが見られる。中学校理科においては、「物理的領域」「化学的領域」で全国平均を上回っているものの、「物理的領域」では、全国平均との差が小さくなっている。



[小学校理科]

領域	H24	H27
物質	-1.2	1.0
エネルギー	0.9	2.6
生命	1.8	4.0
地球	0.2	0.6

[中学校理科]

領域	H24	H27
物理的領域	2.0	0.3
化学的領域	-0.3	0.8
生物的領域	3.6	-0.9
地学的領域	1.2	-0.8

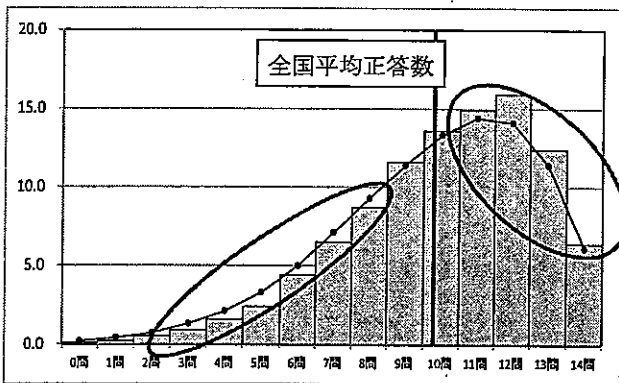
カ 正答数ごとの分布

【小学校 国語】

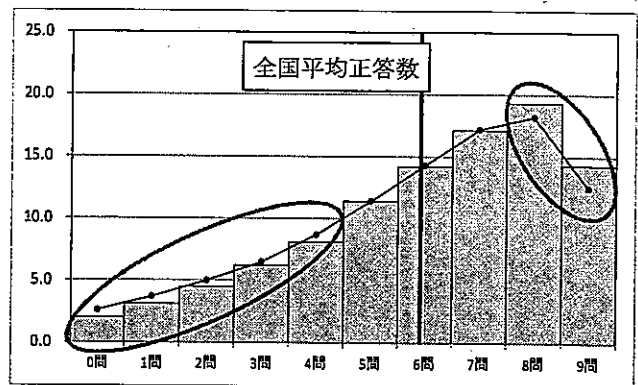
- 「知識」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。
- 「活用」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い児童の割合がやや高く、正答数の少ない児童の割合がやや低い。

平成27年度

〔国語A〕（知識）

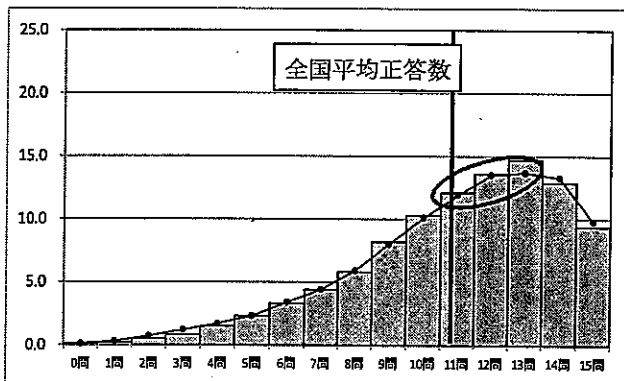


〔国語B〕（活用）

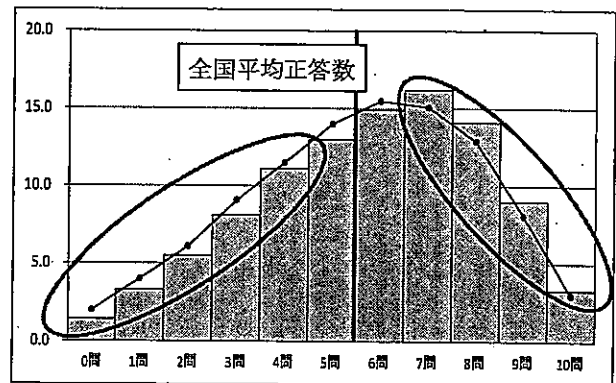


(参考) 平成26年度

〔国語A〕（知識）

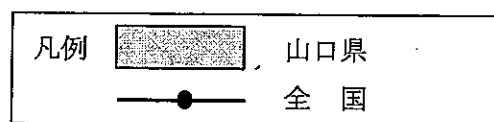
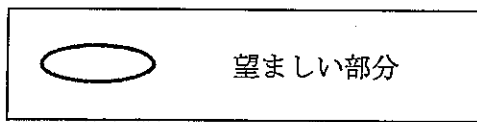


〔国語B〕（活用）



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

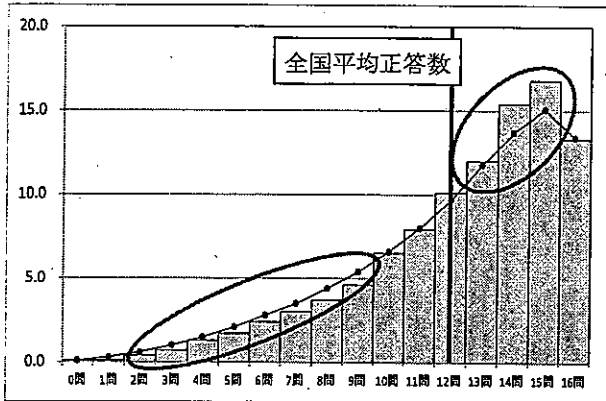


【小学校 算数】

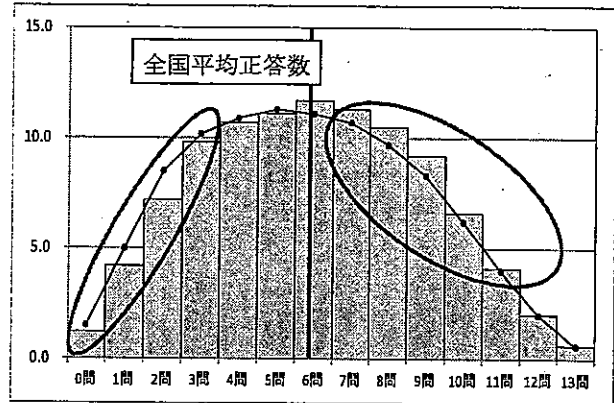
- 「知識」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。
- 「活用」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。

平成27年度

〔算数A〕（知識）

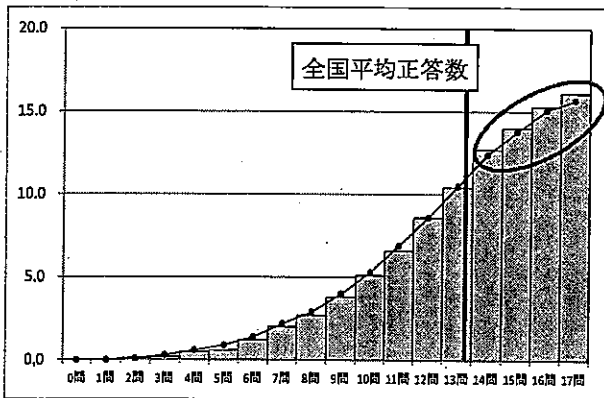


〔算数B〕（活用）

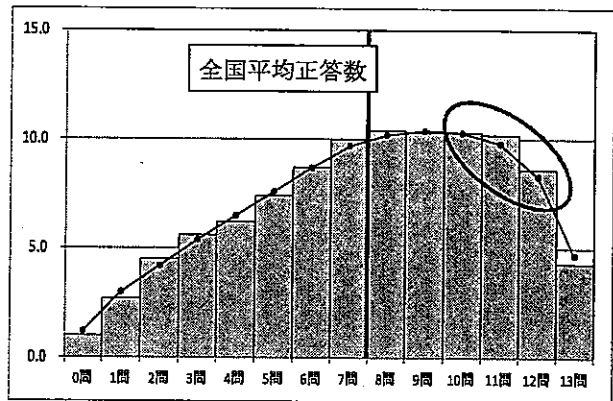


(参考) 平成26年度

〔算数A〕（知識）

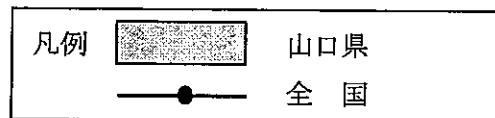
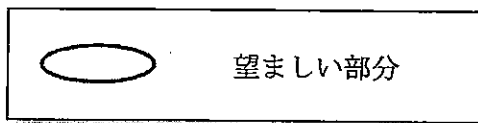


〔算数B〕（活用）



〔グラフについて〕

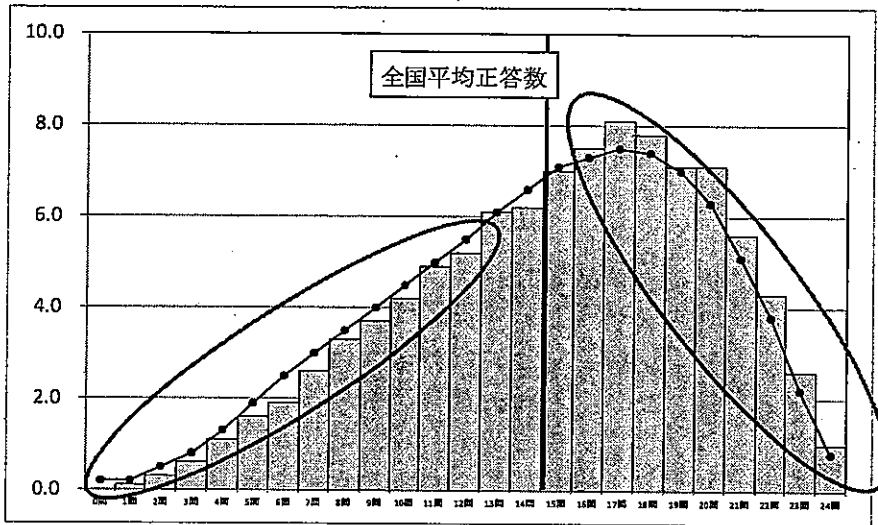
横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。



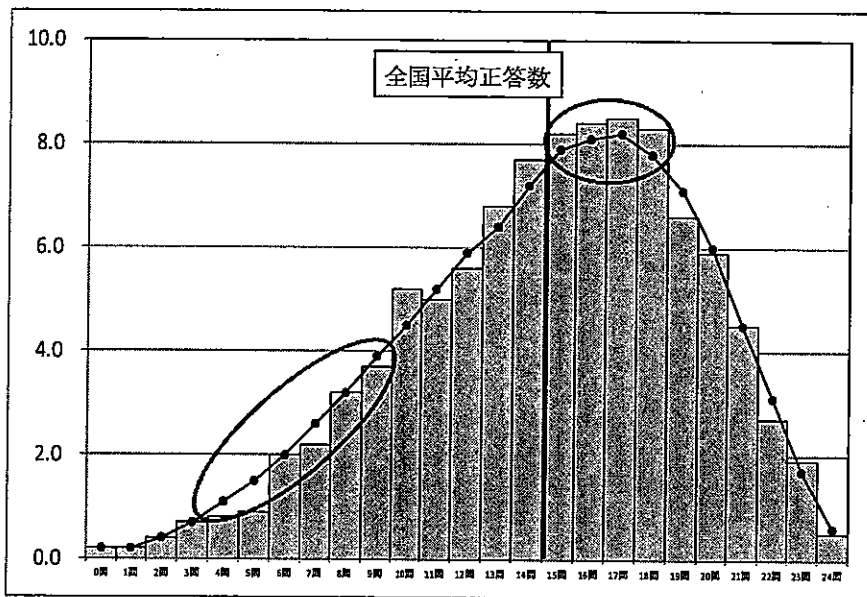
【小学校 理科】

- 全国と比べ正答数の多い児童の割合が高く、正答数の少ない児童の割合が低い。

平成27年度



(参考) 平成24年度



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合 (%) を示している。

○ 望ましい部分

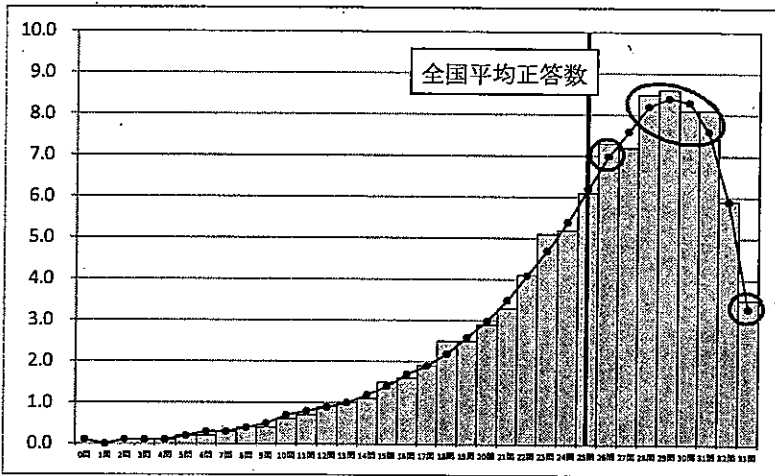
凡例
 山口県
 ● 全国

【中学校 国語】

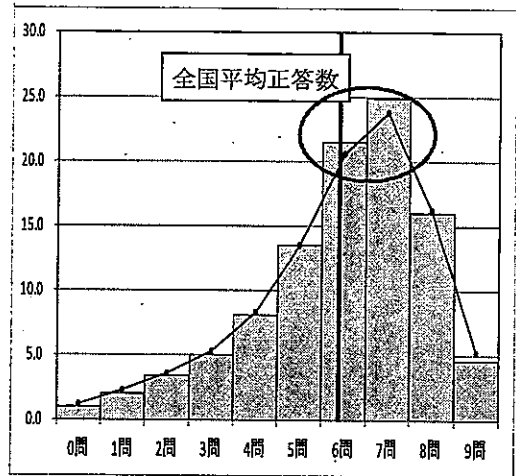
- 「知識」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高い。
- 「活用」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高い。

平成27年度

〔国語A〕（知識）

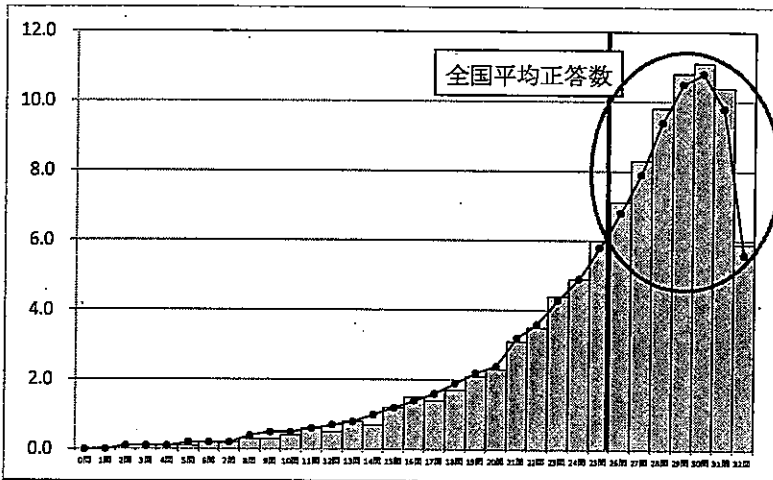


〔国語B〕（活用）

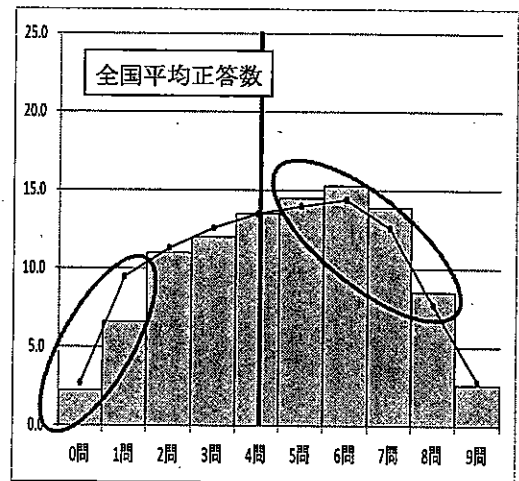


(参考) 平成26年度

〔国語A〕（知識）

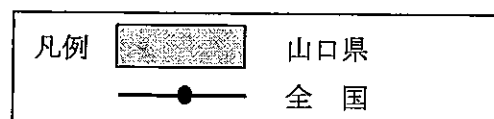
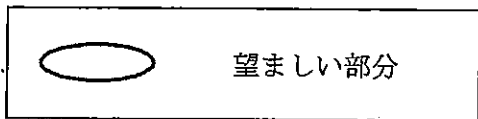


〔国語B〕（活用）



〔グラフについて〕

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。



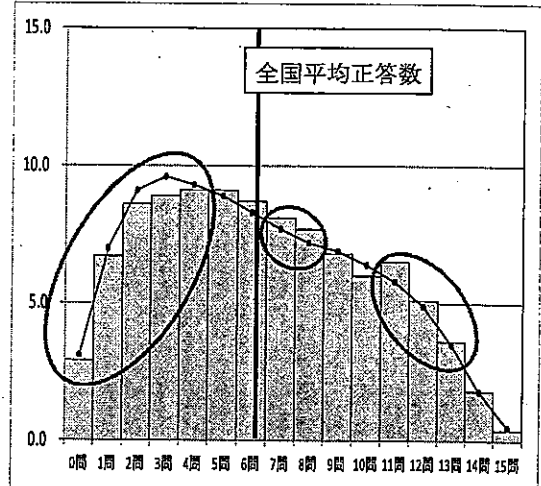
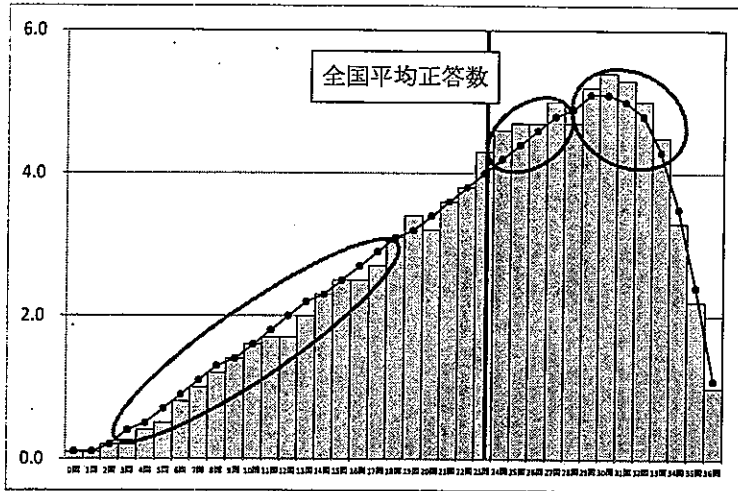
【中学校 数学】

- 「知識」に関する問題については、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高く、正答数の少ない生徒の割合がやや低い。
- 「活用」に関する問題については、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高く、正答数の少ない生徒の割合がやや低い。

平成27年度

〔数学A〕（知識）

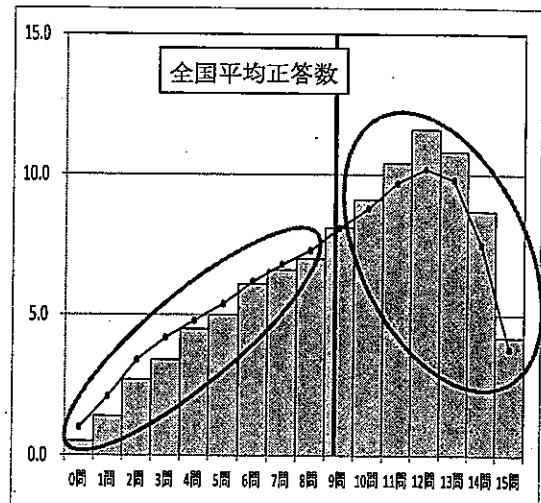
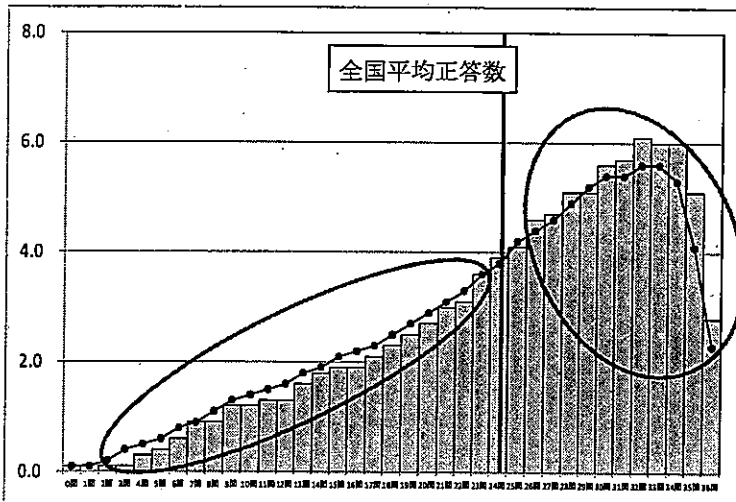
〔数学B〕（活用）



(参考) 平成26年度

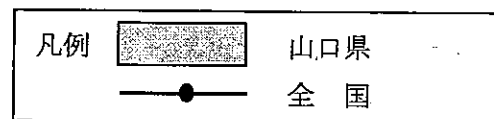
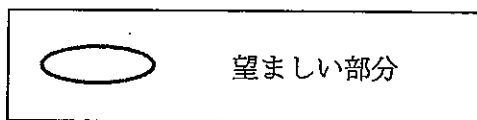
〔数学A〕（知識）

〔数学B〕（活用）



〔グラフについて〕

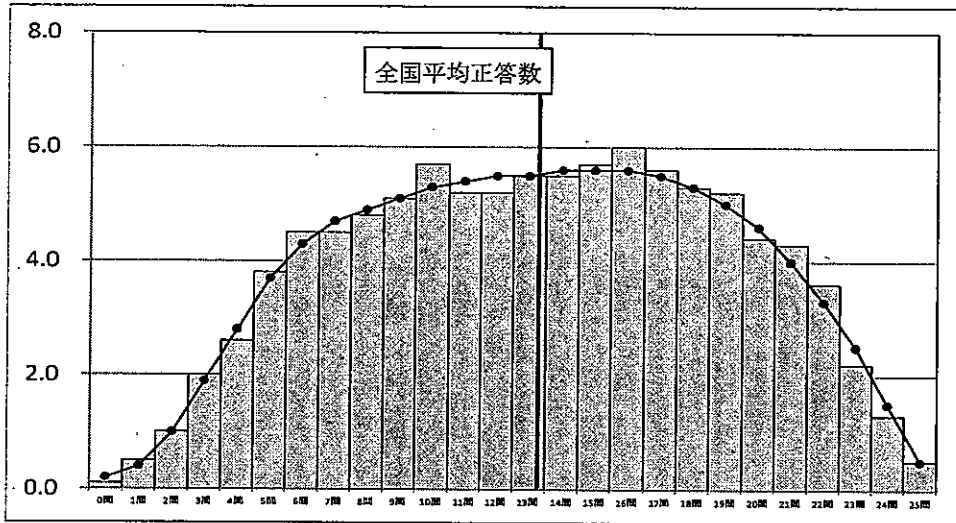
横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。



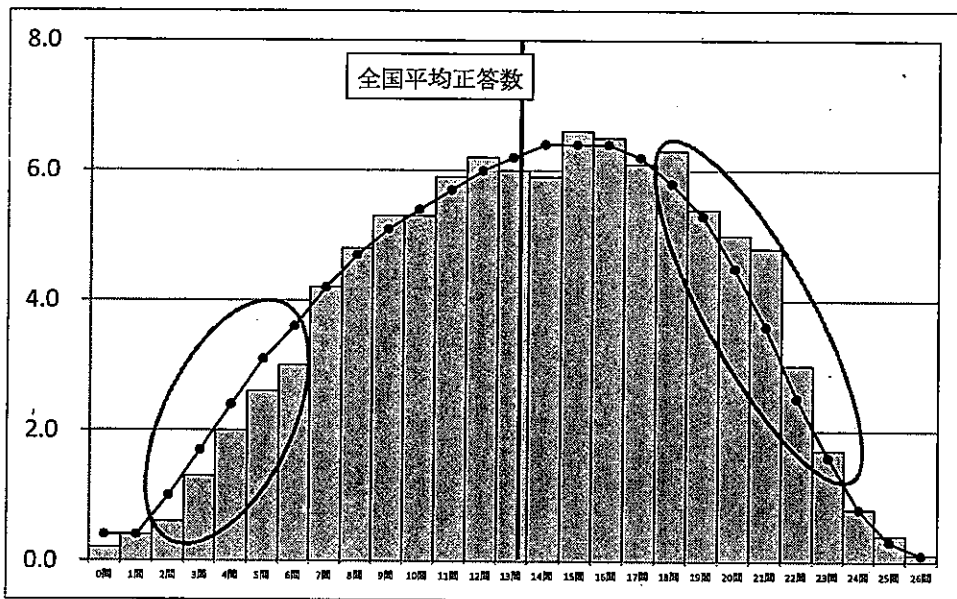
【中学校 理科】

- ほぼ全国と同様の分布状況にある。

平成27年度




(参考) 平成24年度



〔グラフについて〕

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合 (%) を示している。

○ 望ましい部分

凡例  山口県
 全国

キ 各教科の特徴

【小学校国語】

国語Aについては、平均正答率が72.1%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。国語Bについては、平均正答率が67.5%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

○相当数の児童ができている点

- (A) 第5学年までに学習した漢字を読むこと (P17)
- (A) 説明の文章の書き方の工夫を捉えること (P17)

●課題のある点

- (A) コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くこと (P18)
- (B) 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと (P20)

【小学校算数】

算数Aについては、平均正答率が77.1%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。算数Bについては、平均正答率が46.4%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

○相当数の児童ができている点

- (A) 整数や分数の四則計算をすること (P22)
- (B) 平行四辺形の性質を基に平行四辺形を構成すること (P22)

●課題のある点

- (A) 図形の性質の根拠として、円の性質を用いること (P24)
- (B) 示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること (P25)

【小学校理科】

理科については、平均正答率が62.7%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着と活用に課題が見られる。

○相当数の児童ができている点

- ・ メダカの雌雄を見分ける方法を理解すること (P29)
- ・ 打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析すること (P29)

●課題のある点

- ・ 顕微鏡の適切な操作方法を身に付けること (P30)
- ・ 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述すること (P31)

【中学校国語】

国語Aについては、平均正答率が76.4%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。国語Bについては、平均正答率が66.3%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

○相当数の生徒ができている点

- (A) 相手の反応を踏まえて話すこと (P33)
- (A) 文章から適切な情報を得て、考えをまとめること (P33)

●課題のある点

- (A) 品詞の類別について理解すること (P34)
- (B) 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと (P35)

【中学校数学】

数学Aについては、平均正答率が65.3%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着に課題が見られる。数学Bについては、平均正答率が42.4%であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

○相当数の生徒ができている点

- (A) 計算のきまりにしたがって、加減乗除を含む正の数と負の数の計算をすること (P39)
- (A) 与えられた投影図から空間図形を読み取ること (P39)

●課題のある点

- (A) 数量の関係を文字式に表すこと (P40)
- (B) 事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて証明すること (P42)

【中学校理科】

理科については、平均正答率が全国平均と同じ53.0%であるものの、知識・技能の定着と活用に課題が見られる。

○相当数の生徒ができている点

- ・ 塩化ナトリウムを化学式で表すこと (P44)

●課題のある点

- ・ 他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明すること (P45)
- ・ 音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画すること (P47)

③-(1) 具体的な問題と解答状況 一小学校国語一

○相当数の児童ができている点

【小学校 国語A】

○ 第5学年までに学習した漢字を読むことについて、正答率が高い。

1 一 _____ 部の漢字の読みを、ひらがなでいねいに書きましょう。

1 友人を家に 招く。

【正答】 1 -1 まね(く)

	正答率
山口県	98.2%
全国	97.5%

○ 説明の文章の書き方の工夫を捉えることについて、正答率が高い。

4

4

次は、島田さんが「汁三菜」のよさについて書いた「説明の文章の一部」です。* 辞では、このようなくふうをして書いていますか。そのくふうを説明したものととして最も適切なものを、おどの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【説明の文章の一部】

昔から、日本の食卓には「汁三菜」というこんだてが取り入れられてきました。「汁三菜」とは、主食のご飯に、汁物と三種類のおかずを組み合わせたものです。組み合わせることで、一度にいろいろな栄養素をとることができます。

* このことについて、下のわが家の昨夜のこんだてを例にして説明します。主食のご飯からは主に炭水化物を、とうふとわかめが入ったみそ汁からは、たんぱく質と無機質をとることができます。さばの塩焼きからは主にたんぱく質を、かぼちゃのものときゅうりのすのものからは、ビタミンをとることができます。

5 (文章が続く) 5

〈わが家の昨夜のこんだて〉

1 自分の考えを強調するために、複数の事柄に共通する点をまとめている。

2 読み手に自分のこととしてとらえてもらうために、疑問を投げかけている。

3 自分が伝えたいことをくわしく示すために、具体的な事例を取り上げている。

4 読み手を説得するために、表やグラフを用いながら自分の考えを書いている。

【正答】 4 3

	正答率
山口県	87.3%
全国	86.0%

●課題のある点

【小学校 国語A】

●コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くことについて、課題が見られる。

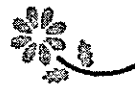
5

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのまともまりに分かれています。これをよく読んで、あとの一と二の問いに答えましょう。

【コラム】

記事の中の▼は、まともまりを表す印です。



1▼四月二十三日
は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2▼子供ころ、宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4▼先日、「セロ弾きのゴーシュ」を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事な描写に、賢治のすばらしさを実感した。5▼世界の人々が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

※1「描写」…かき表すこと。
※2「童心」…子供の心。

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。)や読点(、) 、かぎ(「」) は字数にふくみません。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

【正答】 5 二 読書という

	正答率
山口県	21.6%
全国	19.8%

2

【下書きの一部】※一人一人が分組して書いた内容を一枚に構成したもの
※ここから読み始めましょう。

1 打ち上げ花火の歴史

【1613（慶長18）年】
中国人が打ち上げた花火を、
徳川家康が見物した。

↓

【1733（享保18）年】
東京の高田川で、花火が打ち
上げられた。

↓

A

【1879（明治12）年ごろ】
海外から強素酸カリウムなど
が輸入されるようになった。

↓

【1910（明治43）年】
事故防止のため、花火の製造
と打ち上げに、めん許や許可を
必要とする法りができた。

1ページ

2 打ち上げ花火の種類

打ち上げ花火は、「夏花火」と
「夜花火」に分けられる。
「夏花火」は、行事などの開始
の合図として打ち上げられる。
「夜花火」は、大きく「わり物」
「ボカ物」に分けられる。
「わり物」は代表的な打ち上げ
花火で、球状になった時に星が球状
に飛び散るものである。
「わり物」の中には、「キク物」
や「ボタン物」などがある。

～「キク物」
星がきくの花のよう
に、おを引いて広がるもの。

～「ボタン物」
星がぼたんの花のよう
に、おを引かないもの。

現在における打ち上げ花火の
特徴として、「夏物」の間接
が遠んでいることが挙げられる。
「夏物」とは、あるものの形になっ
て星が飛び散るもので、最近では、
土星や人の顔の形などになるよう
にくふうされている。

2ページ

3 花火師の小野さんの声

A いろいろな苦勞をこえて

小野さんは、「
B
」
と話していました。花火の打ち
上げのうちは、花火師さんの
いろいろな苦勞がある
ことを初めて知りま
した。

3ページ

4 まとめ

打ち上げ花火は、およそ600年
もの歴史をもった、日本のすば
らしい伝統といえます。

C

4ページ

2 今村さんの学校では、グループごとに日本の伝統と文化について調べ、リーフレットにまとめています。今村さんたちのグループでは、「打ち上げ花火の伝統」について分組して調べ、次の「下書きの一部」を書き直しました。そして、グループで「編集会議」を開いたときに書かれた意見をもとに書き直しています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【編集会議での西村さんの意見】

見出しの「A いろいろな苦勞をこえて」に合わせて、「ずかんの一部」の中から、小野さんの苦勞が具体的に書かれている文を引用したほうが良いと思う。

【ずかんの一部】

～花火師の小野さんの声～

みなさんは、花火師が花火を打ち上げるまでにどのような苦勞があるか知っていますか。わたしは、花火師のわざを身に付けるために、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを学ばし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも熱くなく取り組んできました。多くの方々に喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがか、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。

～（内容が続く）～

二 今村さんたちは、「3 花火師の小野さんの声」の「A いろいろな苦勞をこえて」のBについて、「編集会議での西村さんの意見」を受け、そこに書く内容を考えました。そこで、「ずかんの一部」の内容を引用して書くことにしました。引用する二つの文を採り、それぞれ別の文のはじめの五文字を書き直しましょう。なお、「・」も字数にふくみます。

【正答】 2ニ わたしは、そのわざを

	正答率
山口県	26.7%
全国	26.2%

● 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことについて、課題が見られる。

1

1 「ふれあい新聞（六月号）」

東小 学校の新聞委員会の木村さんたちは、月ごとの学校の様子や行事を新聞にまとめて地域のみなさんに伝えています。木村さんたちは、次の「ふれあい新聞（六月号）」を書いていきます。これによく読んで、あとの問いに答えましょう。

1

○ 書き出しに続けて、四十文字以上、七十文字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

三 「ふれあい新聞（六月号）」の **ア** の中には、あやどりのコーナーに参加した中田とよさんの感想をのせることにしました。次の「中田とよさんへのインタビューの様子」の内容をまとめて書きます。おどの条件に合わせて書きましょう。

【中田とよさんへのインタビューの様子】

〈話した内容〉

あやどりのコーナーに参加してよかったわ。それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。みなさんも準備が大変だったことだしよね。町で会ったときにはいつでも声をかけてください。今度の来内も楽しみにして待っていますね。

中田とよさん

〈表情や声の調子〉

- 目を細めている
- 明るい声

○ 那についての理由が分かる言葉を、〈話した内容〉の中から「」を使って取り出し、その言葉と〈表情や声の調子〉の中の内容を合わせて、一文で書くこと。

【正答例】 1三 「一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれた」と、目を細めながら明るい声で話してくださいました。(69字)

	正答率
山口県	36.8%
全国	34.7%

③-② 具体的な問題と解答状況 —小学校算数—

○相当数の児童ができている点

【小学校 算数A】

○ 異分母の分数の減法や除数が整数である場合の分数の除法について、正答率が高い。

2

(3) $\frac{5}{9} - \frac{1}{4}$

【正答】 2 (3) $\frac{11}{36}$

	正答率
山口県	82.9%
全国	81.4%

(4) $\frac{5}{6} \div 7$

【正答】 2 (4) $\frac{5}{42}$

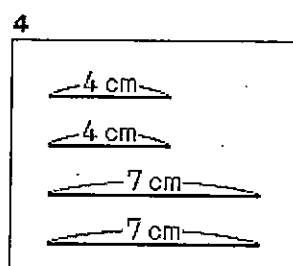
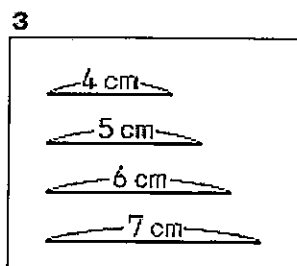
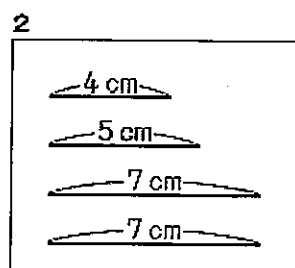
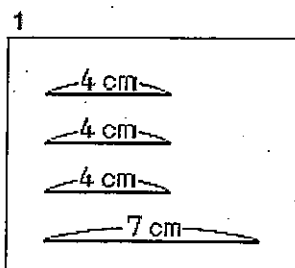
	正答率
山口県	88.7%
全国	84.2%

【小学校 算数B】

○ 平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解することについて、正答率が高い。

1

(1) 平行四辺形になる辺の組み合わせを、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



【正答】 1 (1) 4

	正答率
山口県	95.2%
全国	95.2%

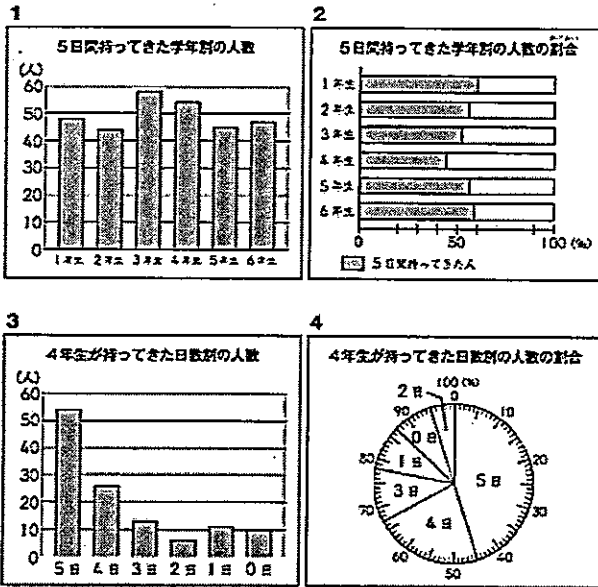
【小学校 算数A】

○ グラフに表されている事柄を読み取ることについて、正答率が高い。

7

全学年の児童について、ハンカチを持ってきた人数を5日間調べ、その結果を下の4つのグラフに表しました。

左の4つのグラフを見て、あるグラフから、次のことがわかりました。



わかったこと
ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけである。

このことがわかるグラフはどれですか。
左の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

【正答】 7 2

	正答率
山口県	82.2%
全国	81.8%

【参考】類似過去問題 平成26年度 全国学力・学習状況調査 算数Bより

2

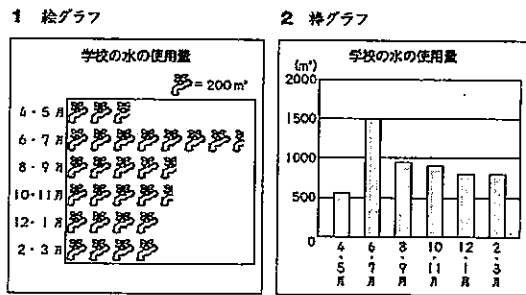
あきらさんは、学校の水の使用量について調べるために、事務室で下の資料をもらいました。

学校の水の使用量

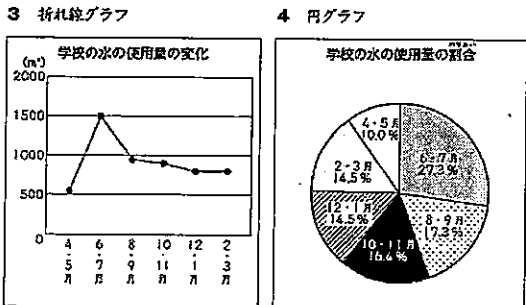
月	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	1年間
使用量(m ³)	550	1500	950	900	800	800	5500

※ 「4・5月」は、「4月と5月の合計」を表しています。

(3) あきらさんは、6・7月の水の使用量が1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明します。下の1から4までのどのグラフを使うと最もわかりやすいですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。



【正答】 2 (3) 4



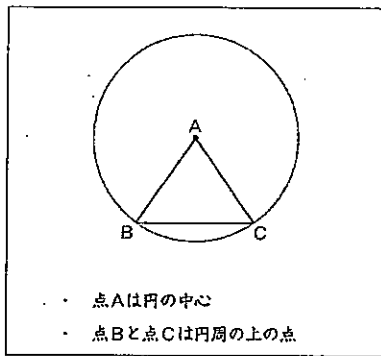
	正答率
山口県	58.7%
全国	61.5%

●課題のある点

【小学校 算数A】

●示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することについて、課題が見られる。

5 次の図のように、円を使ってかいた三角形ABCは、二等辺三角形になります。



(1) 三角形ABCが二等辺三角形になるのは、円にどのような特ちょうがあるからですか。

下の 1 から 4 までの中から最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1つの円の半径の長さは、どれも同じ長さになる。
- 2 円周の長さは、直径の長さの約3.14倍になる。
- 3 1つの円の直径の長さは、半径の長さの2倍になる。
- 4 1つの円の直径の長さは、円周上の2つの点を結ぶ直線の中でいちばん長い。

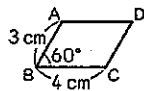
【正答】 5 (1) 1

	正答率
山口県	47.6%
全国	50.6%

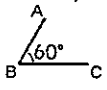
【参考】類似過去問題 平成26年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数Aより

6

下の平行四辺形ABCDをかきます。



まず、辺ABと辺BCをかきました。



コンパスを使ったかき方

<p>① 点Aを中心として、半径4 cm (辺BCの長さ) の円の一部分をかく。</p>	<p>② 点Cを中心として、半径3 cm (辺ABの長さ) の円の一部分をかく。</p>
<p>③ 交わった点をDとする。</p>	<p>④ 点Aと点D、点Cと点Dを直線で結ぶ。</p>

左のコンパスを使ったかき方は、平行四辺形のどの特ちょうを使っていますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

平行四辺形は、

- 1 向かい合っている辺が平行である。
- 2 向かい合っている辺の長さが等しい。
- 3 向かい合っている角の大きさが等しい。
- 4 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる。

【正答】 6 2

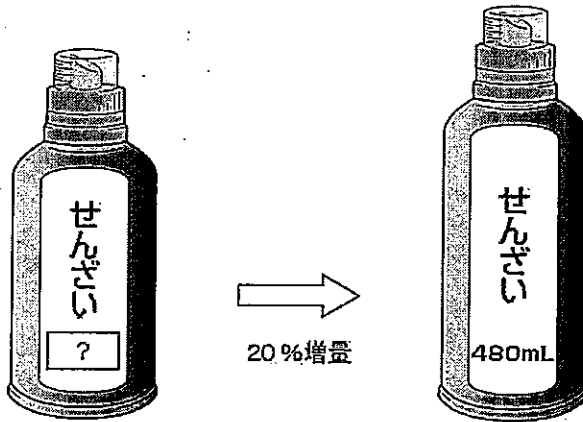
	正答率
山口県	55.8%
全国	52.0%

【小学校 算数B】

● 示された情報から比較量と割合を見だし、基準量を求めることについて、課題が見られる。

2

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480 mLです。
増量前のせんざいの量は何 mL ですが、求める式と答えを書きましょう。



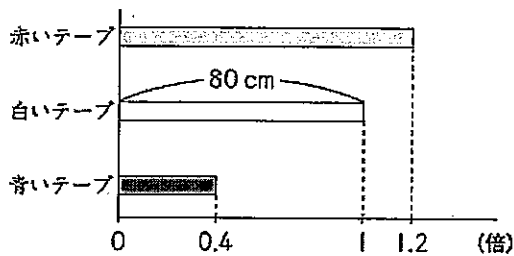
【正答】 2 (2) $480 \div 1.2$
400mL

	正答率	無答率
山口県	14.3%	2.8%
全国	13.1%	4.5%

【参考】類似過去問題 平成26年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数Aより

2

下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。



(1) 赤いテープの長さを求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 $80 \div 0.2$
- 2 $80 - 0.2$
- 3 80×1.2
- 4 $80 \div 1.2$

【正答】 2 (1) 3

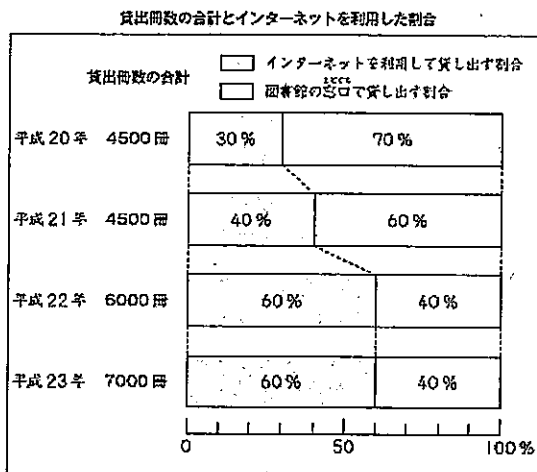
	正答率
山口県	73.5%
全国	71.9%

【参考】類似過去問題 平成25年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数Bより

5

(2) 次に、図書館の人が、表ではインターネットを利用して本を貸し出す割合が増えていることを教えてください。

そして、次の帯グラフを見てください。帯グラフは、平成20年から平成23年までの貸出冊数の合計とインターネットを利用した割合を表しています。



【正答】5(2) 番号1

例) 60%を小数で表すと0.6になります。6000×0.6と7000×0.6を比べると、割合は同じで、もとにする量は大きくなっています。だから、平成23年度のほうが増えています。

かずやさんたちは、実際にインターネットの貸出冊数が増えているかどうかを調べます。

インターネットの貸出冊数は、次の式で求められます。

$$\text{貸出冊数の合計} \times \text{インターネットを利用した割合} = \text{インターネットの貸出冊数}$$

この式を使って、かずやさんとたまきさんは、平成20年と平成21年を比べました。



かずやさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。
 $4500 \times 0.3 = 1350$ なので平成20年は1350冊です。
 $4500 \times 0.4 = 1800$ なので平成21年は1800冊です。
 だから、平成21年のほうが増えています。



たまきさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。
 4500×0.3 と 4500×0.4 を比べると、もとにする量は同じで、割合は大きくなっています。
 だから、平成21年のほうが増えています。

平成22年と平成23年を比べると、インターネットの貸出冊数は増えていますか。下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、2人の考えのどちらか一方をもとにして、言葉と数や式を使って書きましょう。

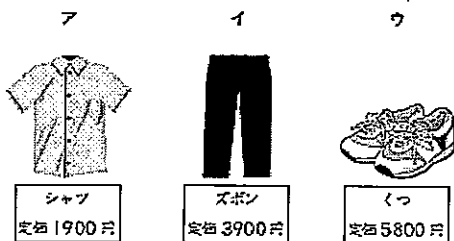
- 1 平成22年より平成23年のほうが増えている。
- 2 平成22年より平成23年のほうが減っている。
- 3 平成22年と平成23年は変わらない。

	正答率
山口県	46.3%
全国	44.4%

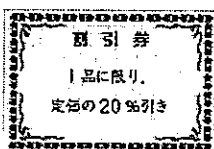
【参考】類似過去問題 平成22年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数Bより

5

(2) ひろしさんは、下のような定価で売られているシャツ、スボン、くつを1品ずつ買います。



ひろしさんは、右の図のような割引券を1枚持っています。その割引券には、「1品に限り、定価の20%引き」と書かれています。



シャツ、スボン、くつのうち、どれに割引券を使うと、値引きされる金額がいちばん大きくなりますか。

上のアからウまでの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号の商品に割引券を使うと、値引きされる金額がいちばん大きくなるわけを、言葉や式を使って書きましょう。

【正答例】5(2)

値引きされる金額は、定価×値引きの割合で求められる。どの商品に割引券を使っても、値引きの割合は20%で同じなので、定価が高いほど値引きされる金額も大きくなる。3つの商品の中で定価が一番高いのはくつなので、くつに割引券を使うと値引きされる金額がいちばん大きくなる。

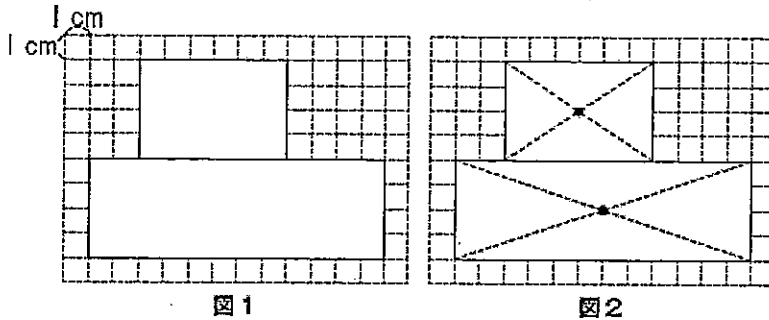
	正答率
山口県	17.0%
全国	17.1%

【小学校 算数B】

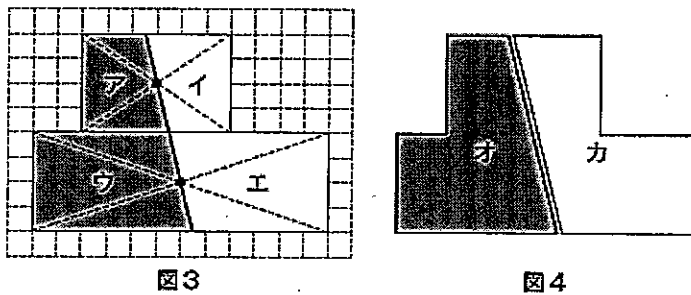
- 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することについて、課題が見られる。

5

- (1) 図1のような2つの長方形を組み合わせた図形の面積を2等分します。
 まず、図2のように、2つの長方形について対角線が交わる点をそれぞれ見つけます。



次に、図3のように、2つの点を通る直線を引きます。すると、2つの長方形を組み合わせた図形は、図4のように、オとカに分けることができます。



このようにすると、オとカ的面積は等しくなります。なぜ、オとカの面積が等しくなるのですか。

そのわけを、言葉や数、アからカまでの記号を使って書きましょう。

【正答例】5 (1)

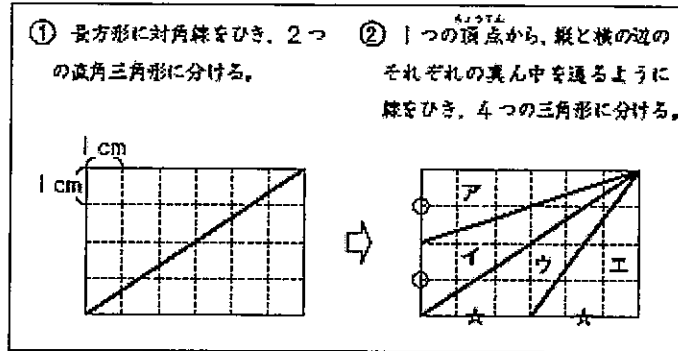
アとイの面積は等しく、ウとエの面積も等しいです。オは、アとウを合わせた図形で、カは、イとエを合わせた図形です。同じ面積を合わせているので、オとカの面積は等しくなります。

	正答率	無答率
山口県	12.6%	19.6%
全国	12.5%	21.0%

3

(2) たかしさんは、下の様な分け方を考えました。

たかしさんの分け方



たかし

三角形ア、イ、ウ、エは、もとの長方形の面積の半分の半分になっているのかな。

たかしさんの分け方を見て、なおみさんが次のように言いました。

三角形ウとエは、☆の部分を感じとすると、どちらも底辺が3cm、高さが4cmです。
だから、三角形ウとエの面積は等しくなります。



なおみ

たかしさんは、なおみさんの説明を聞いて、三角形アとイの面積も等しくなることに気がつきました。

三角形アとイの面積が等しいことを、言葉と数を使って書きましょう。

【正答例】 3(2)

アとイの面積は等しく、ウとエの面積も等しいです。オは、アとウを合わせた図形で、カは、イとエを合わせた図形です。同じ面積の図形を合わせているので、オとカの面積は等しくなります。

	正答率
山口県	46.9%
全国	42.7%

③- (3) 具体的な問題と解答状況 一小学校理科一

○相当数の児童ができている点

【小学校 理科】

○ メダカの雌雄を見分ける方法を理解することについて、正答率が高い。

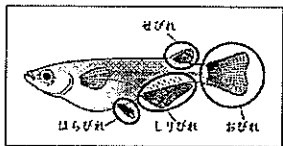
2 よし子さんは、メダカや人、インゲンマメの成長の様子を調べることにしました。



メダカの卵が育まれるように、おすどのすを調おう。



(1) よし子さんは、水の中におすどのすのメダカがいるかどうかを調べることにしました。メダカのどの部分を見ると、おすどのすを見分けることができますか、下の 1 から 4 までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 セビレ
- 2 はらびれ
- 3 しりびれ
- 4 おびれ

【正答】 2 (1) 1

	正答率
山口県	87.8%
全 国	78.0%

○ 打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析することについて、正答率が高い。

(5) 次の日、ゆりえさんは、家の人が家の前で水をまいているのを見かけました。



これは「打ち水」というんだよ。地面にまいた水が水蒸気になって空気中に出ていくと気温が下がるんだよ。昔から暑い日ですずしく過ごすために行われているんだよ。

家の人が言った「水が水蒸気になって空気中に出ていく」ことを何といいますか、そのことばを書きましょう。

(6) ゆりえさんは、「地面に水をまくと気温が下がるかどうか」について調べるために、次のような実験をしました。

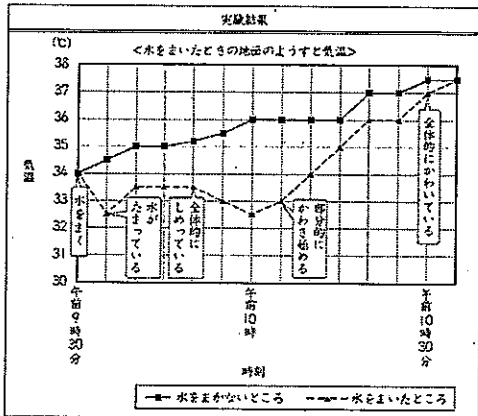
実験方法

1 日なたに水をまく。 2 水をまいたところとまかないところの地面の様子と気温を調べ、比べる。

水をまく

水をまいたところ
地面の様子と気温を調べる

水をまかないところ



ゆりえさんの実験の結果から、どのようなことがわかりますか、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 水をまくと、気温は下がりはじめます。
- 2 水をまくと、水をまかないところに比べて気温が高い。
- 3 水をまくと、水をまかないところに比べて地面がかわかるときの気温が低い。
- 4 水をまいても、水をまかないときと気温は同じである。

【正答】 4 (6) 3

	正答率
山口県	84.3%
全 国	84.2%

●課題のある点

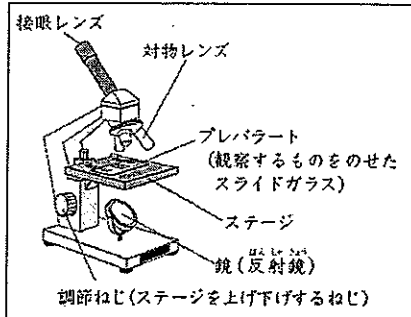
【小学校 理科】

●顕微鏡の適切な操作方法を身に付けることについて、課題が見られる。

2 (4)

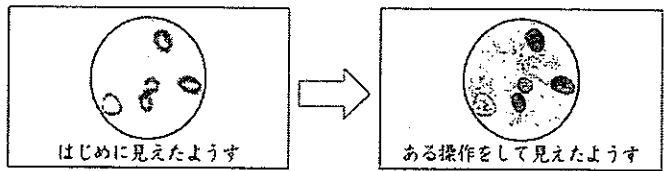
(3) よし子さんは、インゲンマメの子葉の中にある養分を調べるために、下の図のような器具を使って観察することにしました。

よし子さんが使った器具の名前を書きましょう。



よし子さんが使った器具

(4) (3)の器具を使って観察したところ、はじめは左下の図のように明るいのにぼやけて見えました。そこで、器具を操作したところ、右下の図のようにはっきり見えるようになりました。どのような操作をしましたか。下の1から4までの中から、1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 鏡の向きを調節した。
- 2 調節ねじを回した。
- 3 プレパラートを動かした。
- 4 対物レンズをちがう倍率のものにした。

【正答】 2 (4) 2

	正答率
山口県	42.0%
全国	37.9%

4 三郎さんは、5月20日の1日の太陽の位置と木のかけの動きや長さを調べました。下の3枚の図はその時のようすです。

午前9時

正午

午後1時

(1) 午後1時の太陽の方位を、正しく調べているのはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その時の太陽の方位を書きましょう。

1

2

3

4

【参考】類似過去問題

平成24年度 全国学力・学習状況調査
小学校理科より

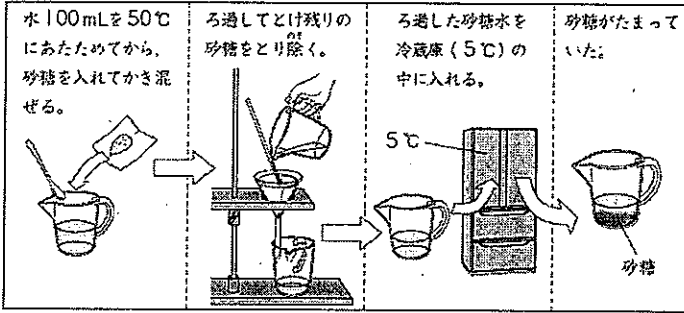
【正答】 4 (1) 1 南西

	正答率
山口県	24.5%
全国	27.3%

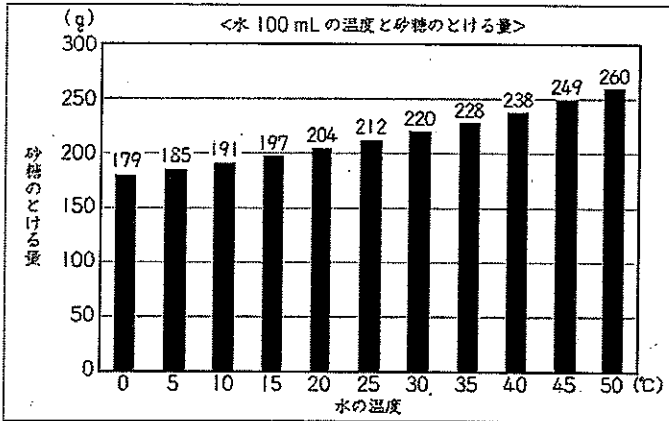
【小学校 理科】

● 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述することについて、課題が見られる。

(6) としおさんは、20℃の水 100 mL を 50℃にあたためてから、砂糖を入れてかき混ぜました。すると、とけ残りが出たので、ろ過してから砂糖水を冷蔵庫で保管しました。次の日、冷蔵庫からとり出すと、底に砂糖がたまっていました。



そこで、としおさんは、水の温度と砂糖が水にとける量との関係を調べました。



グラフから、ろ過してとけ残った砂糖をとり除いた 50℃の砂糖水には、260gの砂糖がとけていることがわかるね。

水の温度が下がると、砂糖のとける量が減っていくんだね。



前のページのグラフから考えると、砂糖水を 5℃の冷蔵庫からとり出したとき、とけきれなくなってたまっていた砂糖は約何gだと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

- 1 約 19 g
- 2 約 75 g
- 3 約 185 g
- 4 約 260 g

	正答率
山口県	31.9%
全国	28.9%

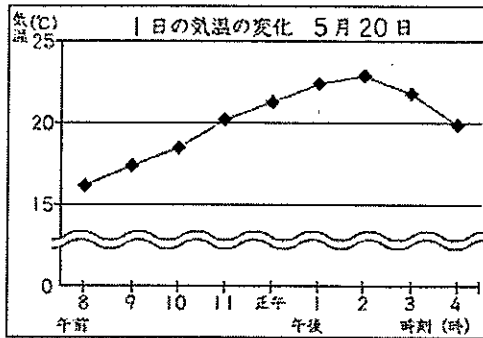
【正答】 2 三
 【番号】 2
 【わけ】 例) 5℃まで冷やすと 185g までしかとけず、とけきれなくなって出てくるのは、50℃と 5℃のときのとける量の差だから。

【参考】類似過去問題 平成24年度 全国学力・学習状況調査 小学校理科より

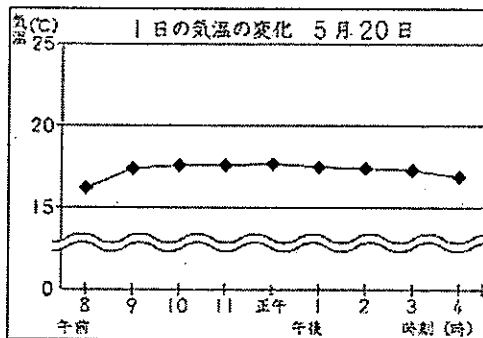
(5) 三郎さんは、同じ日に気温をはかりました。

この日のかげのようすから1日の天気を考えると、気温の変化を表したグラフはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

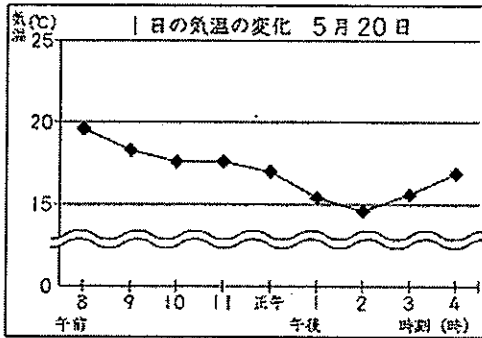
1



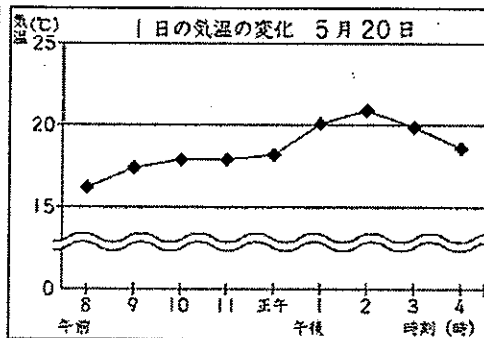
2



3



4



【正答】 4 (5)

【番号】 4

【わけ】 例) 午前10時から正午前まではくもっていたので気温はあまり変わらないが、それ以外の時間は晴れていた所以気温は上がるから。

	正答率
山口県	16.6%
全国	16.9%

●課題のある点

【中学校 国語A】

● 品詞の類別について理解することについて、課題が見られる。

9四② 次の文章の①と②に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

私は伝えたい内容が明確になるように、次のアの文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことが伝わります。これは「青い」という①を、「青さ」という②に変えて、主語にしているためです。

ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。

↓

イ 大きな器の青さが私の目を引き付けた。

- 1 名詞
- 2 動詞
- 3 形容詞
- 4 形容動詞

【正答】 9 四① 3

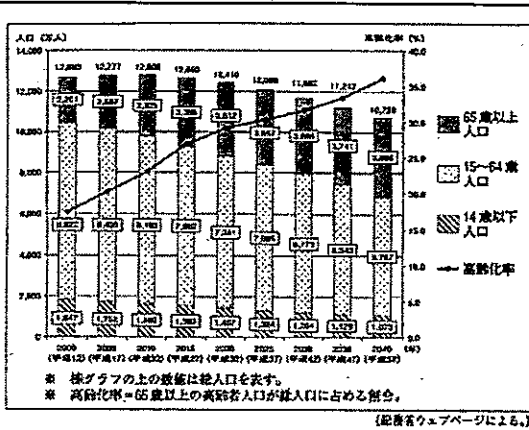
	正答率
山口県	62.4%
全国	62.3%

【正答】 9 四② 1

	正答率
山口県	32.0%
全国	33.7%

● 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことについて、課題が見られる。

2三



生活を支援するロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する搭乗型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でのパトロールなどに使われている。現在、日本では、「生活支援ロボット」の開発が行われている。誰でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける搭乗型ロボットの開発に加え、装着型ロボットの開発も進んでいる。これは、装着した人の意思を読み取って身体の動きをサポートするロボットである。身体機能の回復のためのリハビリテーションなどで既に一部導入されているが、今後は、足腰の弱った人の多歩支援、車いすの荷物持ち上げ、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。

このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、日夜進められているのだ。

搭乗型ロボットの例

装着型ロボットの例

【B】日本の人口推移を表したグラフ

【C】雑誌の記事の一部

Discover Tomorrow

～未来(あした)をつかもう～

世界のスポーツ界が急速な変化や様々なチャレンジに直面する中で、東京は「素晴らしい大会を確実に開催し、オリンピックとパラリンピックの両方を次世代に受け継いでいく」ことを訴え、招致の成功を実現することができました。そのメッセージは、世界に約束できる3つの強みによって支えられています。

まず、安心、安全、確実な大会開催。世界有数のインフラやセキュリティを誇る東京の都市力に加え、大会は政府のバックアップを受けて開催されます。数々の国際競技大会開催経験に基づく日本の運営能力も、円滑な大会運営に貢献します。

次に、オリンピック・パラリンピックへの日本の情熱。大都市東京の中心で、多くのファンによって選手に大歓声が送られる大会は、かつて類を見なかったような素晴らしい祝祭となって、世界中の人々を熱狂に燃立たせます。

3つめに、イノベーション。最先端都市東京の中心で、日本のテクノロジーや想像力を結集し革新に導かれた大会を開催することで、オリンピック・パラリンピックのインスピレーションを世界中の若者たちへ届けることができます。

また、招致が決定したブエノスアイレスのIOC総会では、日本のプレゼンターが、東日本大震災以降、日本人があらためて気づいたスポーツの真の力についても訴えました。

震災復興に際して、多くのアスリートたちが被災地に足を運んでいます。活動の中で、子供たちがスポーツを通じて少しずつ笑顔になっていく様子を目の当たりにし、私たちはスポーツやアスリートが社会において果たせる役割についてあらためて気づくことができました。2020年の大会開催に向けて、今度はそのスポーツの力を世界に伝えて、社会におけるスポーツの価値向上に貢献する、それが日本の決意です。

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブサイトによる。)

(注1) インフラ・インフラストラクチャーの強、道路、鉄道、学校、病院など、社会生活の基盤となる優越的な地位。
 (注2) イノベーション＝技術革新、これまでとは異なった新しい発見。
 (注3) インスピレーション＝ここでは、オリンピックやパラリンピックがもたらす勇気のこと。
 (注4) IOC総会＝国際オリンピック委員会の会議。

【A】ウェブページの文章

② 次の資料は、「A ウェブページの文章」、「B 日本の人口推移を表したグラフ」、「C 雑誌の記事の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

三 あなたは、二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていきたいと思いますか。あなたの考えを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 資料【A ウェブページの文章】、【B 日本の人口推移を表したグラフ】、【C 雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選び(どの資料を選んでもかまいません。)、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書くこと(解答用紙に書かれている書き出しの字数を含みます。)

【正答例】 2三

・AとB

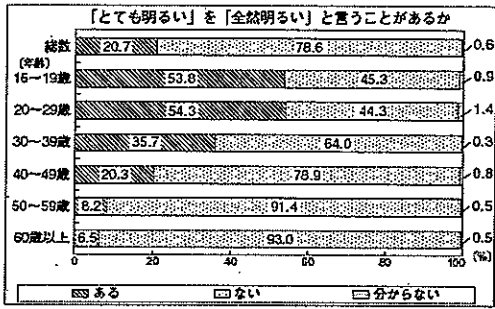
(二〇二〇年の日本は、) オリンピック・パラリンピックの影響で様々なスポーツに注目が集まるだろう。今後増えていく高齢者もスポーツに関心をもつと思われる。そのような社会に、私は、スポーツ関連のボランティアをすることで積極的に関わっていきたい。(118字)

	正答率
山口県	22.2%
全国	23.0%

【参考】類似過去問題 平成24年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語Bより

2 国語に関する世論調査

インターネットで検索した結果、文化庁の「平成15年度 国語に関する世論調査」に「全然」の使い方に関するアンケートがあることが分かった。そこで、市の図書館へ行き、「国語に関する世論調査」についての報告書を探した。「全然」に関する調査結果は、日常会話の中でそのような言い方をするかどうかを尋ねた項目の中にあった。次のグラフは、「全然」の使い方に関するアンケートの結果である。



(文化庁「平成15年度 国語に関する世論調査」による。)

(このグラフから分かること)

4 まとめ

「全然」について

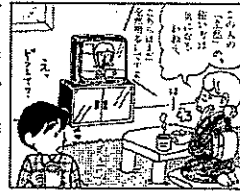
氏名 中西 健一

1 「全然」を取り上げた理由

先日、テレビ番組で若いレポーターが「こちらはまだ全然明るいですよ。」と話していた。それを聞いていた祖母が「この人の「全然」の使い方は気になるわねえ。」と言っていた。

塚かに授業では、「全然」は「全然～ない」のように、後ろに特別な言い方を伴う副詞として、「もし～なら」「まるで～ようだ」と一緒に学習した。

しかし、私自身も「全然明るい」という言い方をするところがあるので、この言葉を取り上げて、調べてみようと思った。



2 調査方法

- ① 「全然」の意味を、学校図書館にある国語辞典で調べた。
- ② 「全然」の使い方に関する情報を、インターネットや市の図書館の資料で調べた。

3 調査結果と考察

(1) 国語辞典
学校図書館にあった2冊の国語辞典で「全然」を引いた。どのように説明されているか整理してみると、次の2種類の使い方に分けることができた。

一つめは、打ち消しや否定的な意味の語を伴う使い方であり、二つめは、くだけた言い方で、肯定的な意味で強調する使い方である。

先日のテレビの若いレポーターは、二つめの意味の使い方をしていることになる。

国語辞典A ぜんぜん(全然) ①(副)全面的に否定する意味をもつ。全く、少しも、 ▼あとに打ち消しや否定的表現を伴って用いる。単に、否定表現を伴わず「非常に」「とても」の強調で用いられることがある。「全然平気」 ともある。	国語辞典B ぜんぜん(全然) ②(副)あとに打ち消しや否定的表現を伴って用いる。単に、否定表現を伴わず「非常に」「とても」の強調で用いられることがある。「全然平気」 ともある。
---	---

3 中学生の中西さんは、国語の授業で「気になる日本語」をテーマに、身近な言葉の中から疑問に感じたことや興味をもったことについて調べる学習に取り組みました。次は、中西さんが作成したレポートの一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

三 中西さんのレポートを読みながら、南さんと原さんは、「全然」の使い方について次のように話しています。

南 私は、「全然明るい」という言い方をしてもいいと思う。
原 私は、「全然明るい」という言い方はしない方がいいと思う。

あなたは、南さん、原さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を、解答用紙に書かれている書き出しの文の□に書きなさい。その上で、あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 レポートにある国語辞典の記述やグラフの内容を根拠にして書くこと。
- 条件2 根拠とした国語辞典の記述やグラフの内容を具体的に挙げて書くこと。
- 条件3 「なぜなら、」に続けて、七十字以上、百字以内で書くこと。(解答用紙に書かれている書き出しの文の字数を含みます。)

【正答例】 3 三
私は、南さんの考えに賛成します。なぜなら、どちらの国語辞典にも「全然」のあとに否定的表現を伴う場合と伴わない場合の二種類の使い方が載っているの、どちらの使い方をしても良いと思うからです。
(95字)

	正答率
山口県	53.5%
全国	53.7%

● 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、課題が見られる。

③ 次の文章は、『小糸八郎』が素材で書かれた佳話「蝸」の翻訳の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(…)までである。東京の雑居にある紀伊國屋は、昔、日が暮れた後には人通りが少なく静しい場所であつた。ある日の夜、急ぎ足で紀伊國屋をのぼっていた一人の男が、お婆のそばで若い女がうそをまわっていることに気がついた。男は心配して若い女に声をかけたが、返事はなかった。

「お女中」
 と男はできるだけやさしい口調でまた声をかけた。
 「まあ、どうか、私の言うことをお聞きなさい。……この辺は、どう見ても若い女が夜分に歩き出す場所ではない。お願いだから、お話をなさるな。さすれば私は私がなにかお役に立つか、それを聞いてみるわい。」

「お女中、お女中……まあ私の言うことをお聞きなさい、ほんのちよつと聞きたいから。……お女中、お女中」
 ……するとその時、女はこちらを振り向いて顔を背すと、自分の髪をその手でつかむと舞った。……と見れば女の髪には何もなく、髪は、奥もない、口もない。……と男は恐怖を覚えて逃げ出した。

紀伊國屋の上の方へ、上の方へ無防備で逃げ出した。あたりは一面の真鍮色の闇で、前方は遠くまで一つ見えない。荷さのあまりうしろを振り向くこともできず男はひとりに死んだ。するとやうつとこの中で、提灯の火が見えたが、遠くの方でさうして、火の火くらの大きさに見えた。男が一目見てそれに驚いて逃げると、遠くで屋台を隔いた藁火の煙とわかつた。しかしあんな大目にあつた後では、どんな死であれ、どんな人であれ、とにかくその口の利ける人がいるというだけでそれで良かつた。男は腹をみまき腐れ足のもとにへなへなと崩れ落ちた。たまたま「ああ、ああ、ああ」となぐさめられた。

「これ、これ」
 と藁火の煙は突進した。
 「これ、いったいどうしました？ 誰かあなたに性根でも負わせましたか？」
 「いや、誰も私に性根をさせたのじゃない」
 と男は、はあ、はあ、喘ぎながら返した。
 「ただ……」

「ただあなたをおどしたのですか？」
 と男は、お婆の髪をいって指差した。男は、それではお婆ですか？」
 「いや、お婆ではない、お婆ではない」
 とお婆はおびえた男は返した。

「出たんだ……出たんだよ女中。……お婆で。……そしてあの女が見せたもの……ああ、あの女が私に見せたものをお婆さんにも口で言つたつて話にならない」
 「へえ……もし、ひょいとして女があなたに見せたものは……なんの……何ですか？」
 と一生懸命と藁火の煙は、その自分の顔を手でつかむと舞った。……と遠くには藁火の煙は大きな群のようにのっぺらばつとなつた。……そして、それと同時に、屋台の火も消えた。

（注1） 小糸八郎と明倫堂の小説で、英文学者、邦文者フアン・オ・ハーン。
 （注2） お女中、当時のお家の女中。
 （注3） 女は、髪をいって指差した。男は、それではお婆ですか？
 （注4） 五十字以上、八十字以内で書くこと。

三 中学生の山田さんは、以前に読んだ昔話「のつぺらぼう」の最後は、蕎麦屋がのつぺらぼうになつたところで終わっていたことを思い出しました。あなたは、「蝸」の「……そして、それと同時に、屋台の火も消えた。」という最後の一文は、あつた方がよいと思いますか、ない方がよいと思いますか。あなたの考えとその理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 最後の一文があつた方がよいか、ない方がよいかを明確にして書くこと。
- 条件2 話の展開を取り上げて、理由を書くこと。
- 条件3 五十字以上、八十字以内で書くこと。

【正答例】③ 三

最後の一文はあつた方がよいと思います。なぜなら、最後が真っ暗で終われば、暗闇の恐ろしさが繰り返される展開になるため、読み手の恐怖感が一層増すと思うからです。(80字)

	正答率	無答率
山口県	30.8%	9.5%
全 国	31.1%	11.2%

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日のことでございます。お釈迦様は畜養の蓮池のほとり、独りてふらふらお歩きになっていらつしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何ともいえない好い匂いが、絶え間なくあたりへ流れております。蓮華はちょうど朝分の色でございます。

やがてお釈迦様はその池のふちにお休みになって、水の面を覗いている蓮の葉の間から、ふと下の空子を御覧になりました。この蓮葉の裏には、ちよと地獄の底に当たってありますから、水晶のような水を透き通して、三途の河や針の山の景色が、ちよと目を覗くように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、健陀多という男が一人、ほかの罪人と一緒におぼろおぼろに隠れている姿が、お眼に止まりました。この健陀多という男は、人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事を働いた大泥坊でございますが、それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございます。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りまして、小さな蜘蛛が一匹、路ばたを這って行くのを見えました。そこで健陀多は早速足を止めて、踏み殺そうとしたしましたが、「いや、いや、これもおかしいながら、命のあるものに殺さない。その命をむやみにとるといふことは、いくら何でも可哀な事だ」と、こう急に思い返して、どうしよう蜘蛛を殺さず助けてやったかろでございます。

お釈迦様は地獄の空を御覧になりながら、この健陀多には蜘蛛を助けたことがあるのを思い出しました。そうしてそれだけの善いことをした根拠には、であるなら、この男を地獄から救い出してやうとお考えになりました。幸い、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸を一つと上手にお取りになって、玉のすく白蓮の間から、流か下にある地獄の底へ、まっすくにそれをおおきくお下ろしなさい。

二

この蜘蛛の糸のまわりを歩くと、いろいろな穴があいていたり、また蜘蛛の糸を引くと、いろいろな音が聞かれます。お釈迦様は、この音も聞いて、いろいろなことがわかった。お釈迦様は、この音も聞いて、いろいろなことがわかった。お釈迦様は、この音も聞いて、いろいろなことがわかった。お釈迦様は、この音も聞いて、いろいろなことがわかった。

三

お釈迦様は蓮池のほとりにいらつしやいました。池の中には、蓮の花が咲いていて、その匂いが、何ともいえない好い匂いが、絶え間なくあたりへ流れております。蓮華はちょうど朝分の色でございます。

やがてお釈迦様はその池のふちにお休みになって、水の面を覗いている蓮の葉の間から、ふと下の空子を御覧になりました。この蓮葉の裏には、ちよと地獄の底に当たってありますから、水晶のような水を透き通して、三途の河や針の山の景色が、ちよと目を覗くように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、健陀多という男が一人、ほかの罪人と一緒におぼろおぼろに隠れている姿が、お眼に止まりました。この健陀多という男は、人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事を働いた大泥坊でございますが、それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございます。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りまして、小さな蜘蛛が一匹、路ばたを這って行くのを見えました。そこで健陀多は早速足を止めて、踏み殺そうとしたしましたが、「いや、いや、これもおかしいながら、命のあるものに殺さない。その命をむやみにとるといふことは、いくら何でも可哀な事だ」と、こう急に思い返して、どうしよう蜘蛛を殺さず助けてやったかろでございます。

お釈迦様は地獄の空を御覧になりながら、この健陀多には蜘蛛を助けたことがあるのを思い出しました。そうしてそれだけの善いことをした根拠には、であるなら、この男を地獄から救い出してやうとお考えになりました。幸い、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸を一つと上手にお取りになって、玉のすく白蓮の間から、流か下にある地獄の底へ、まっすくにそれをおおきくお下ろしなさい。

三 中学生の中山さんと木村さんは、以前に読んだ「蜘蛛の糸」は、「三」の場面が省略されていたことを思い出しました。そして、次のような会話を交わしました。

中山さん 私はこの「三」はないほうがいいと思うな。
 木村さん いや、この作品には「三」があったほうがいいと思うよ。

あなたは、中山さん、木村さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を解答用紙に書かれている書き出しの文の□に書きなさい。そのうえで、あなたがそのように考える理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 書き出しの文に続けて書くこと。
- 条件2 本文中の表現や内容に触れること。
- 条件3 八十字以上、百二十字以内で書くこと。(解答用紙に書かれている書き出しの文の字数を含む。)

【正答例】 2 三
 私は、中山さんの考えに賛成します。「三」の場面がないと蜘蛛の糸が「短く垂れているばかり」で終わるため、話が印象的で余韻が残るし、どうして蜘蛛の糸が切れて健陀多が地獄に落ちてしまったのか、自分で考えてみる事ができるので (113字)

	正答率
山口県	77.6%
全国	74.8%

③- (5) 具体的な問題と解答状況 —中学校数学—

○相当数の生徒ができている点

【中学校 数学A】

◎ 加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって、計算できることについて、正答率が高い。

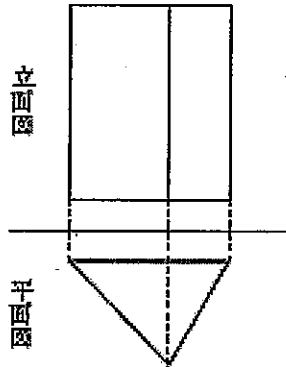
1 (2) $12 - 2 \times (-6)$ を計算しなさい。

【正答】 1 (2) 24

	正答率
山口県	85.7%
全国	83.7%

◎ 与えられた投影図から空間図形を読み取ることについて、正答率が高い。

5 (3) 右の図は、ある立体の投影図で、正面から見た図（立面図）と真上から見た図（平面図）で表したものです。この投影図が表す立体が下のアからオまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



- ア 三角柱
- イ 四角柱
- ウ 三角錐
- エ 四角錐
- オ 円錐

【正答】 5 (3) ア

	正答率
山口県	85.2%
全国	83.8%

【中学校 数学B】

◎ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることについて、正答率が高い。

2 連続する3つの整数の和がどんな数になるかを調べます。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- 1. 2, 3 のとき $1 + 2 + 3 = 6 = 3 \times 2$
- 3. 4, 5 のとき $3 + 4 + 5 = 12 = 3 \times 4$
- 10. 11, 12 のとき $10 + 11 + 12 = 33 = 3 \times 11$

(1) 連続する3つの整数が19, 20, 21のとき、予想が成り立つかどうかを下のように入力欄に確かめます。下の に当てはまる式を書きなさい。

これらの結果から、次のように予想できます。

19, 20, 21 のとき $19 + 20 + 21 = 60 = \text{$

予想

連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になる。

【正答】 2 (1) 3×20

	正答率
山口県	79.2%
全国	78.8%

●課題のある点

【中学校 数学A】

● 数量の関係を文字式に表すことについて、課題が見られる。

2

(2) 赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは a cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。

【正答】 2 (2)
 $\frac{5}{3}a$

白いテープの長さは何 cm ですか。 a を用いた式で表しなさい。

	正答率	無答率
山口県	21.3%	7.5%
全国	22.2%	9.0%

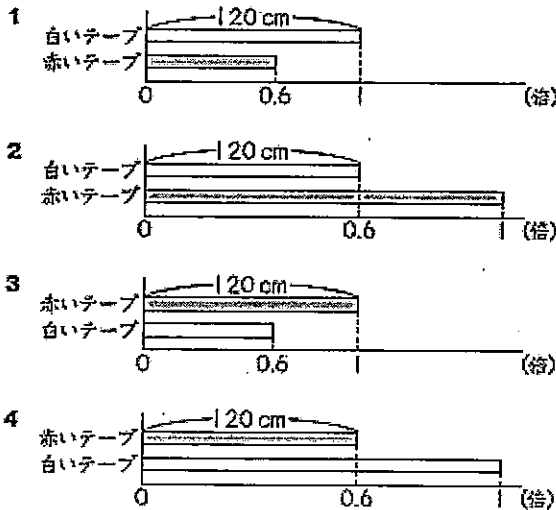
【参考】 関連過去問題 平成24年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数Aより

3

赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは 120 cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの 0.6 倍です。

(1) 赤いテープと白いテープの長さを正しく表している図はどれですか。次の 1 から 4 までの図から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



【正答】 3 (1)
4

	正答率
山口県	35.7%
全国	34.0%

【正答】 3 (2)
式 $120 \div 0.6$

(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

	正答率
山口県	42.0%
全国	40.8%

● 証明の必要性和意味を理解することについて、課題が見られる。

8

ある学級で、「対頂角は等しい」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。



①
下の図のように直線 l と直線 m が交わっているとき、

$\angle a = 180^\circ - \angle c$ $\angle b = 180^\circ - \angle c$

よって、 $\angle a = \angle b$
したがって、対頂角は等しい。

②
下の図のように直線 l と直線 m が交わっているとき、
2つの角の大きさをそれぞれ測ると、

$\angle a = 60^\circ$ $\angle b = 60^\circ$

よって、 $\angle a = \angle b$
したがって、対頂角は等しい。

2つの直線がどのように交わっても「対頂角は等しい」ことの証明について、正しく述べたものが下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア ①も②も証明できている。
- イ ①は証明できており、②は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになる。
- ウ ①は証明できているが、②は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめても証明したことはない。
- エ ①も②も2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになる。
- オ ①は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになるが、②はそれでも証明したことはない。

【正答】 8 ウ

	正答率
山口県	25.4%
全国	25.8%

【参考】類似過去問題 平成21年度 全国学力・学習状況調査 中学校数学Aより

8

ある学級で、「三角形の内角の和は 180° である」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。

①
下の図の $\triangle ABC$ で、
辺 BC を延長した直線上の点を D とし、点 C を通り辺 BA に平行な直線 CE をひく。

平行線の錯角は等しいから、 $\angle a = \angle e$
平行線の同位角は等しいから、 $\angle b = \angle d$
したがって、
 $\angle a + \angle b + \angle c = \angle e + \angle d + \angle c = 180^\circ$
よって、三角形の内角の和は 180° である。

②
下の図の $\triangle ABC$ で、
3つの角の大きさをそれぞれ測ると、

$\angle A = 72^\circ$
 $\angle B = 64^\circ$
 $\angle C = 44^\circ$

したがって、
 $\angle A + \angle B + \angle C = 72^\circ + 64^\circ + 44^\circ = 180^\circ$
よって、三角形の内角の和は 180° である。

どんな三角形でも内角の和は 180° であることの証明について、下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア ①も②も証明できている。
- イ ①は証明できており、②は形の違うたくさんさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになる。
- ウ ①は証明できているが、②は形の違うたくさんさんの三角形で同じように確かめても証明したことはない。
- エ ①も②も形の違うたくさんさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになる。
- オ ①は形の違うたくさんさんの三角形で同じように確かめれば証明したことになるが、②はそれでも証明したことはない。

【正答】 8 ウ

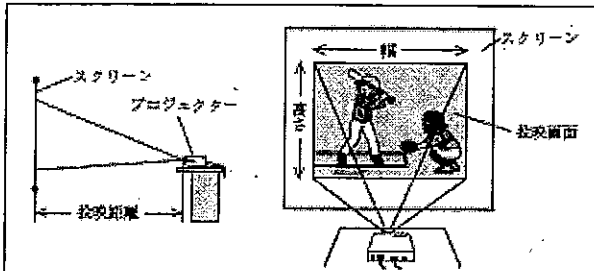
	正答率
山口県	29.2%
全国	28.9%

● 事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することについて、課題が見られる。

3

健治さんの学校では、新入生歓迎会のときに、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出します。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと



投影距離 (m)	投影画面の大きさ		
	高さ(m)	幅(m)	面積(m ²)
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

- 投影画面の大きさは、投影距離によって変わる。
- 投影画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。
- 投影画面の高さや幅は、投影距離に比例する。

(3) 健治さんは、映像が暗くて見えにくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを変えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投影画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。

$$\left(\begin{array}{l} \text{映像の} \\ \text{明るさ} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{プロジェクターの} \\ \text{光源の明るさ} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{l} \text{投影画面の} \\ \text{面積} \end{array} \right)$$

このとき、映像の明るさを2倍にするにはどうすればよいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの原因を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

ア 投影画面の面積を2倍にする。

イ 投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にする。

【正答】 3 (3) 選択 イ

例1)

映像の明るさは投影画面の面積に反比例するから、投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にすると、映像の明るさは2倍になる。

例2)

投影画面の面積を変える前の光源の明るさを a 、投影画面の面積を b とすると、

$$\text{映像の明るさは、 } a \div b = \frac{a}{b}$$

投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にすると、

$$\text{映像の明るさは、 } a \div \frac{b}{2} = a \times \frac{2}{b} = \frac{2a}{b}$$

よって、投影面積を $\frac{1}{2}$ 倍にすると、映像の明るさは2倍になる。

	正答率	無答率
山口県	11.5%	4.7%
全国	11.7%	5.6%

【参考】類似過去問題 平成25年度 全国学力・学習状況調査 中学校数学Bより

1

優子さんは、運動不足のお父さんにウォーキングを始めようと考えています。そこでウォーキングについて調べたことを、次のようにまとめました。

ウォーキングで運動不足を解消！
目標心拍数を決めて、よい歩き方をしましょう！
<歩き方のポイント>

<歩くペースの決め方>

① ウォーキングを行う際の目標心拍数を、次の式で決めます。

$$(\text{目標心拍数}) = 99 - 0.4 \times (\text{年齢}) + 0.6 \times (\text{安静時心拍数})$$

「安静時心拍数」は、安静にした状態で、手首の脈拍数を1分間数えて求めます。

② ウォーキング中に安全なところで立ち止まり、1分間の脈拍数を数えます。運動中の脈拍数が「目標心拍数」を超えないようにすることがポイントです。

【注意】 目標心拍数はあくまでも目安です。実際に運動を行う場合は、その日の体調や気分にも十分注意してください。

(3) 優子さんは、年齢が高くなると目標心拍数がどう変わるかを調べたいと思い、安静時心拍数が年齢によらず一定であるとして考えてみました。

このように考えると、目標心拍数は年齢とともに変わることになります。この変わり方について、下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの原因を、前ページの目標心拍数を求める式をもとに説明しなさい。

- ア 年齢が高くなると、目標心拍数は大きくなる。
- イ 年齢が高くなると、目標心拍数は小さくなる。

【正答】 1 (3) イ

例) 安静時心拍数が年齢によらず一定なので、年齢を x 、目標心拍数を y としたとき、 y は x の一次関数であり、 x の係数が負であるから、年齢が高くなると目標心拍数はいつも小さくなる。

	正答率
山口県	24.6%
全国	23.7%

【参考】類似過去問題 平成20年度 全国学力・学習状況調査 中学校数学Bより

1

桃子さんは、堀口一葉のおよその身長が、上腕骨(肩とひじの間の骨)の長さから推定されたことを新聞記事で知り、その内容を下のようまとめました。

桃子さんのまとめ

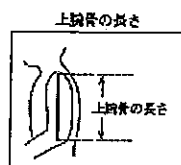
一葉さんの身長は 140cm 台
写真や絵から身長を算出できる

明治時代に活躍した作家・童話作家 堀口一葉 (1872～1896) の身長は 140cm 台だったこと、解剖学と歴史学の研究者が明らかにした。

この研究者らは、堀口一葉の写真を分析し、一葉が身につけていた衣服から、一葉の上腕骨の長さを突き止めたそうだが、男女の身長と上腕骨の長さとの関係から求めた明治時代の頃の成人の身長を推定する式に当てはめて、一葉の身長を推定した。

桃子さんは、明治時代の頃の成人の身長について調べたところ、上腕骨の長さ(cm)から身長(cm)を推定する式があることが分かりました。そして、その式をおよその数を使って、下のよう表しました。

$$\begin{aligned} \text{男性の身長} &= 2.8 \times (\text{上腕骨の長さ}) + 73 \quad \dots\dots \text{①} \\ \text{女性の身長} &= 2.5 \times (\text{上腕骨の長さ}) + 79 \quad \dots\dots \text{②} \end{aligned}$$



(3) 明治時代の成人について、上腕骨の長さの差と身長差の関係を考えます。男性2人の上腕骨の長さの差と女性2人の上腕骨の長さの差が同じとき、男性2人の身長差と女性2人の身長差では、どちらが大きいか考えられますか。下のア、イの中から1つ選びなさい。また、選んだ理由を説明しなさい。

- ア 男性2人の身長差
- イ 女性2人の身長差

【正答】 1 (3) ア

例) 変化の割合で比べると、男性の場合が 2.8、女性の場合が 2.5 で、男性の方が大きいので、男性2人の身長差の方が大きくなる。

	正答率
山口県	17.5%
全国	18.5%

③- (6) 具体的な問題と解答状況 一中学校理科一

○相当数の生徒ができている点

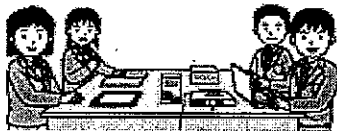
【中学校 理科】

◎ 塩化ナトリウムを化学式で表すことについて、正答率が高い。

1


良子さんたちは、保健だよりの記事に興味をもって、調べたり実験を行ったりしました。

(1) から (6) までの各問いに答えなさい。



保健だより

疲れをとる入浴
～入浴剤の効果～




入浴剤の効果

- 保温
- 保湿

入浴剤の主な原材料

- 塩化ナトリウム
- 炭酸水素ナトリウム
- 硫酸ナトリウム
-

ベーキングパウダーを使って
ふっくら蒸しパンをつくらう



ベーキングパウダーの
主な原材料

- 炭酸水素ナトリウム
- クエン酸
- コーンスターチ
- 小麦粉

蒸しパンのつくり方

-
-

入浴剤の記事に関すること 1

良子：入浴剤の主な原材料には、塩化ナトリウムがあるんだね。

太郎：そうだね。風呂のお湯に溶かすと濃度はどのくらいかな。

(1) 塩化ナトリウムの化学式として正しいものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

ア NaCl イ ClNa ウ Nacl エ Clna

【正答】 1 (1) ア

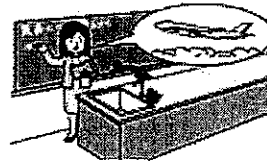
	正答率
山口県	81.2%
全国	79.6%

●課題のある点
【中学校 理科】

● 他者の考えを見直して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することについて、課題が見られる。

2(3)

2 若菜さんの学級では、先生が飛行機に乗ったときに撮影した写真や天気図などの資料をもとに気象について学習しました。
(1)から(4)までの各問いに答えなさい。



資料1 (S島に関すること)

- 図1は、1月24日に南側から撮影したS島の写真。
- 図2は、S島を撮影したときの天気図。
- 図3は、S島を撮影したときの、風の吹く方向に行ったS島の断面図。
- 表は、S島の1月23日から1月25日までの1日の平均気温と1日の平均湿度の記録。

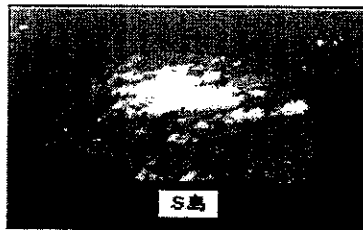


図1

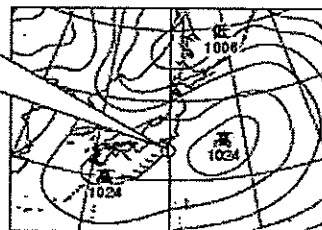


図2

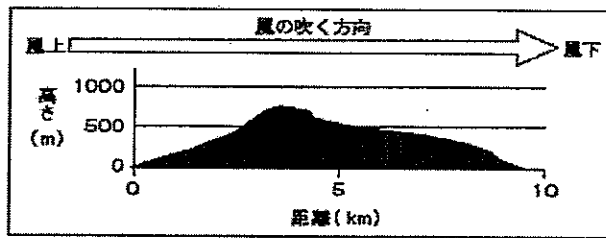


図3

月 日	1月23日	1月24日	1月25日
1日の平均気温(℃)	5.9	9.2	12.6
1日の平均湿度(%)	66	71	64

(3) 若菜さんは、S島の上空だけに雲ができることに疑問をもったので、資料1の図2、図3と表をもとに、その理由を下のアからエのように考えました。その理由を見直したところ、誤りに気づきました。誤りのあるものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。また、選んだものを正しく書き直しなさい。

- ア 水蒸気を比較的多く含む空気のかたまりは、S島の山の斜面に沿って上昇する。
- イ 上昇した空気のかたまりが膨張し、温度が下がる。
- ウ 空気のかたまりの温度が、露点に達する。
- エ 水滴が冷やされて水蒸気になり、雲ができる。

【正答】 2 (3) エ
例) 水蒸気が冷やされて水滴(氷の粒)になり、雲ができる。

	正答率	無答率
山口県	15.2%	6.4%
全国	14.5%	6.7%

【参考】関連過去問題 平成24年度 全国学力・学習状況調査 小学校理科より

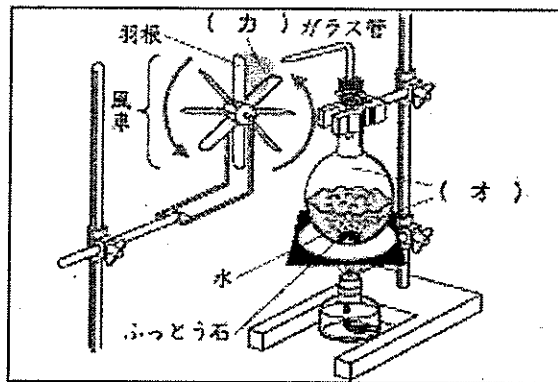
3(5)

(6) 太郎さんは、ものを動かす工夫がほかにはないか考え、下のような装置をつくり、正子さんに説明しました。



太郎さん

フラスコの中の水をふっとうさせると、水は目に見えない(オ)に変わります。姿を変えた水が、ガラス管から勢いよく出て羽根に当たると、風車が回ります。羽根に当たっているあたりが白く目に見えるのは、(オ)が空気中で冷やされて、(カ)に変わったからです。



なるほど。風車が回るのは、水が(キ)によって姿を変える性質を利用しているからだね。



正子さん

太郎さんと正子さんの会話の(オ)・(カ)・(キ)の中に当てはまる言葉を、下の□の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。

- | | | | |
|-------|--------|------|---------|
| 1 空気 | 2 砂けむり | 3 温度 | 4 ふっとう石 |
| 5 水蒸気 | 6 羽根 | 7 湯気 | 8 時間 |

【正答】3(5)

(オ) 5 (カ) 7 (キ) 3

	正答率
山口県	(オ) 62.5% (カ) 41.8% (キ) 42.9%
全国	(オ) 62.1% (カ) 42.4% (キ) 43.5%

● 音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することについて、課題が見られる。

6 (2)

6 葉子さんは、コップに水を注いでいると、聞こえる音の高さがしだいに高くなることに興味をもち、音の高さの変化を調べる実験を行いました。
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

レポートの一部

課題Ⅰ

「目盛りをつけた容器」に水を注ぎ続けると、音の高さはどのように変化するのだろうか。

【方法】

音の波形を調べる(図1)。

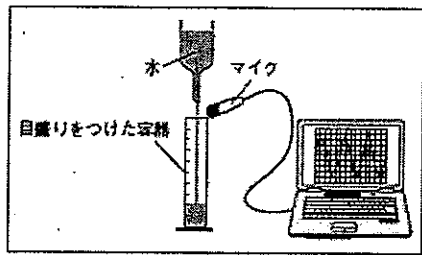


図1

【結果】

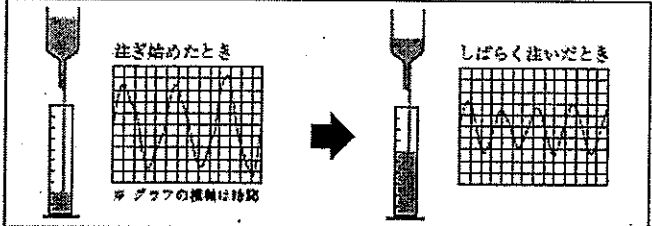


図2

【考察】

図2の2つの波形を比較すると、「注ぎ始めたとき」より「しばらく注いだとき」の方が、 になっているので、音の高さは高くなったと考えられる。

レポートの続き

【説明】

音の高さが高くなったのは、「空気の部分の長さa」が短くなったからか、「水の部分の長さb」が長くなったからか(図3)。

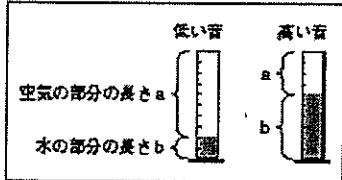


図3

課題Ⅱ

音の高さはaとbのどちらに関係しているのだろうか。

【方法】

同じ太さの4本の容器に水を入れておく(図4)。そして、その容器に水を注ぎ始めたときの音の高さを比較する。

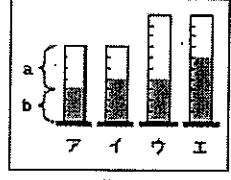


図4

【予想】

音の高さが、「空気の部分の長さa」に関係しているならば、音の高さが最も高いのは で、音の高さが同じものは と のはずである。
音の高さが、「水の部分の長さb」に関係しているならば、.....

【正答】 6 (2)
(X) イ (Y) ア (Z) エ
※ YとZは順不同

	正答率
山口県	30.3%
全国	29.9%

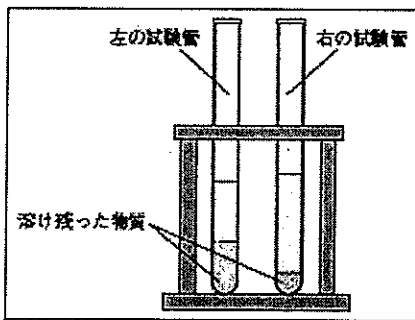
(2) 【予想】の , , に当てはまる最も適切なものを、それぞれ図4のアからエまでの中から1つ選びなさい。

● 実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することについて、課題が見られる。

1(2)

入浴剤の記事に関すること2

良子：炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムは、水に溶ける量に違いがあるのかな。
 太郎：2本の試験管を用意して、一方には炭酸水素ナトリウムを、他方には同じ質量の硫酸ナトリウムを入れて、40℃の同じ量の水を加えて溶かしてみよう。
 次郎：どちらに何を溶かしたのか、わからなくなったよ(図1)。
 良子：40℃での溶解度の表から、溶け残った質量が大きい物質は だね。だから、炭酸水素ナトリウムを溶かした方は の試験管だね。



表

炭酸水素ナトリウム	硫酸ナトリウム
12.7g	48.1g

※ 40℃での溶解度

【正答】 (2)
 (X) ア (Y) ア

(2) 上の , に当てはまる正しいものを、それぞれ下のア、イから1つ選びなさい。

X	ア 炭酸水素ナトリウム	イ 硫酸ナトリウム
Y	ア 左	イ 右

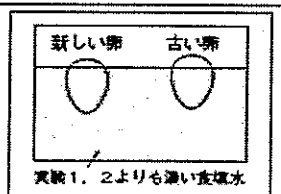
	正答率
山口県	34.1%
全国	32.6%

【参考】類似過去問題 平成24年度 全国学力・学習状況調査 中学校理科より

4(4)

実験3

和宏：姉さん、実験1、2よりもっと濃い食塩水を用意して、卵を入れ直してみたら新しい卵も浮いたよ(図4)。
 この調子で食塩水をどんどん濃くしていけば、卵どころか何でも浮かせることができるかもしれないね。
 翠：無理よ。食塩がたぐさんあっても、いくらでも食塩水を濃くできるわけではないもの。
 和宏：そうか。そうだね。



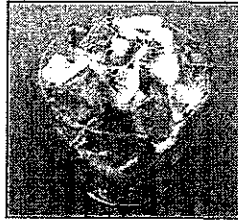
【正答】 (4)
 例) 食塩が溶ける量は限られているから。

(4) 翠さんは、和宏さんの考えが正しくないと指摘しています、下線部の理由を書きなさい。

	正答率
山口県	46.4%
全国	46.6%

● 事象の観察から見いだした新たな疑問を基に、適切な課題を設定することについて、課題が見られる。

- 7 菜月さんは、容器にゼリーとキウイフルーツを入れてデザートをつくりました。冷蔵庫にしばらく入れたところ、ゼリーの形が崩れて液状になっていました。このことに疑問をもち、調べたり実験を行ったりしました。
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



調べてわかったこと

- ゼリーの主な原材料には、ゼラチンや寒天などがある。ゼラチンはタンパク質、寒天は炭水化物である。
- キウイフルーツには、消化酵素のように物質を分解するはたらきがある。

レポートの続き

【新たな疑問】

輪切りにしたキウイフルーツの上に、細長いゼリーを置いてしばらく時間をおいたところ、「皮に近い部分」、「種子の多い部分」、「中心部分」でゼリーの崩れ方に違いが見られて(図2)。不思議に思った。

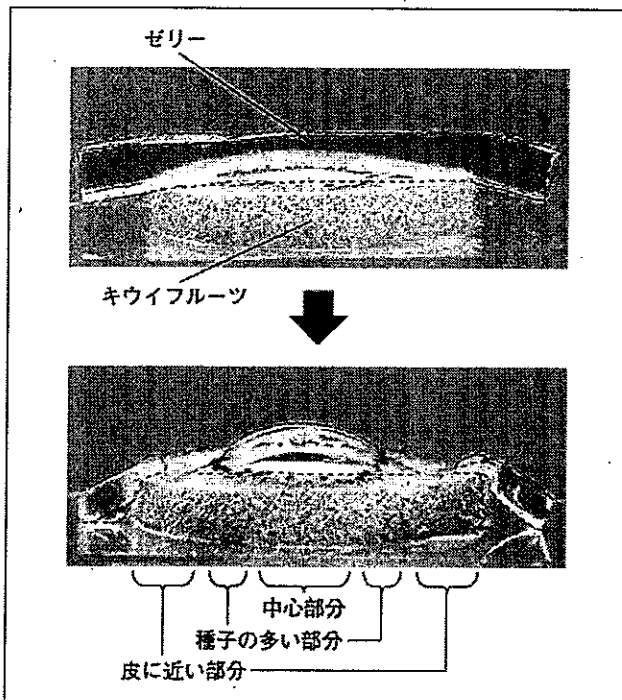


図2

課題Ⅱ

キウイフルーツが物質を分解するはたらきは、
()

【正答例】 7 (3)

キウイフルーツの部分によって、どのように違うのだろうか。

	正答率	無答率
山口県	34.1%	26.0%
全国	32.6%	27.8%

(3) 菜月さんは、【新たな疑問】から **課題Ⅱ** を設定して調べようとしています。

課題Ⅱ の()に入る適切な内容を書きなさい。

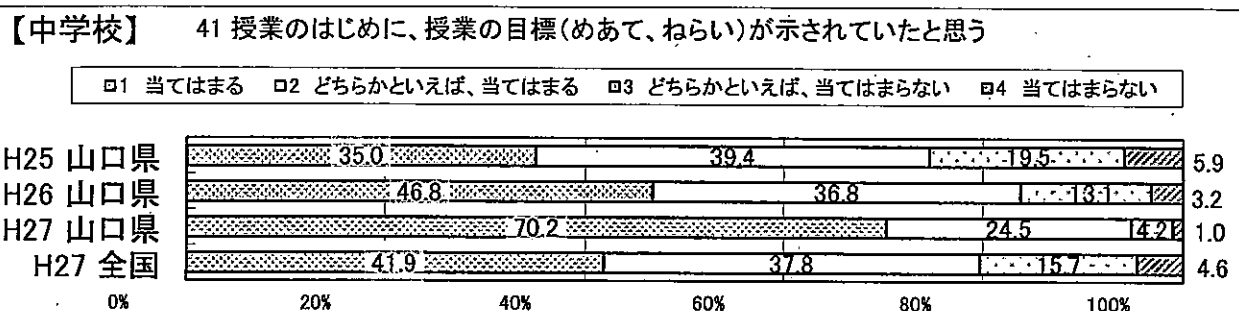
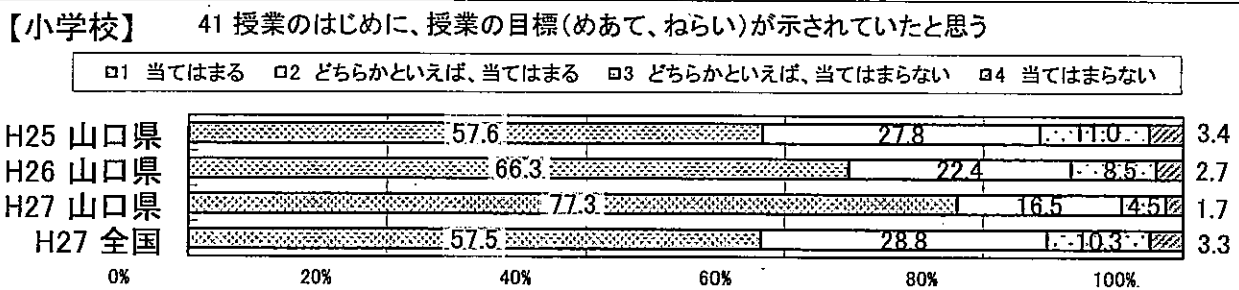
2 質問紙調査の結果

① 授業づくりに関する児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問

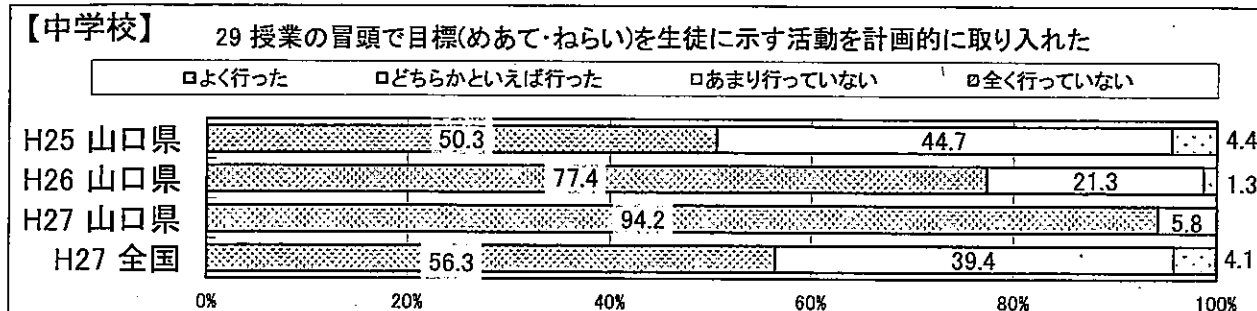
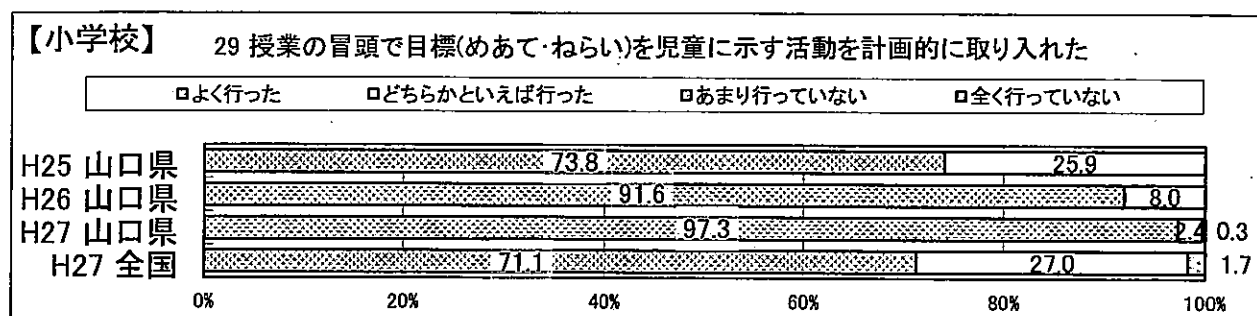
ア 授業の目標(めあて・ねらい)

- 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示すことについて、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに年々増加しており、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、「行った」と回答する児童生徒と学校の割合の差は小さくなりつつあるが、「よく行った」と考えている学校と児童生徒の割合には、まだ開きがある。
- ➡ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒に明確に伝わるよう目標の提示を工夫し、計画的に取り組むことが必要である。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

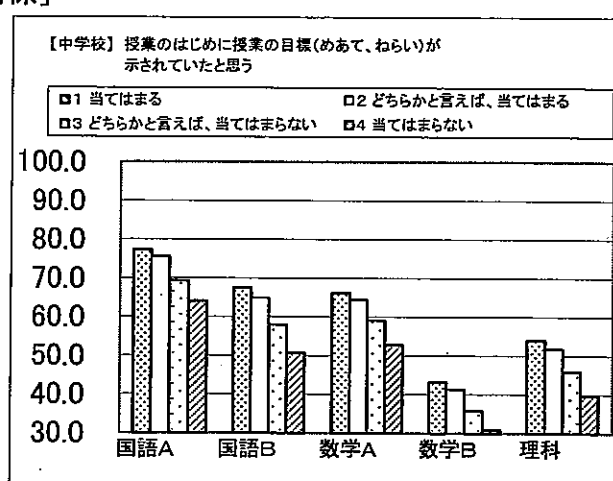
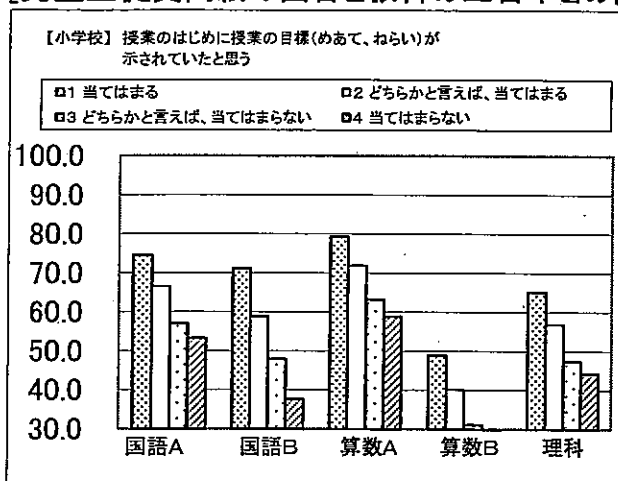
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.7%	85.4%	14.3%
26年度	99.6%	88.7%	10.9%
27年度	99.7%	93.8%	5.9%

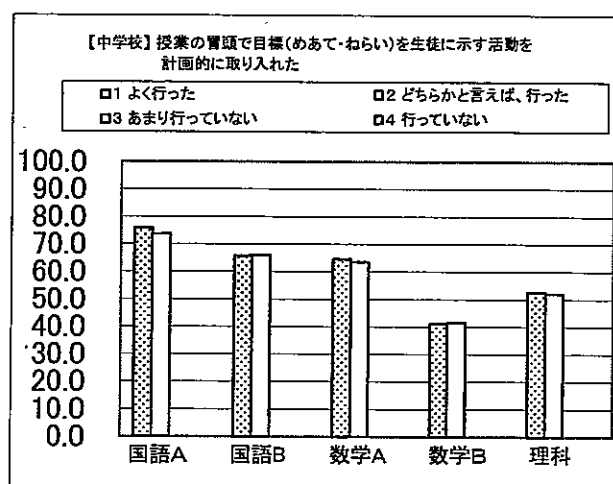
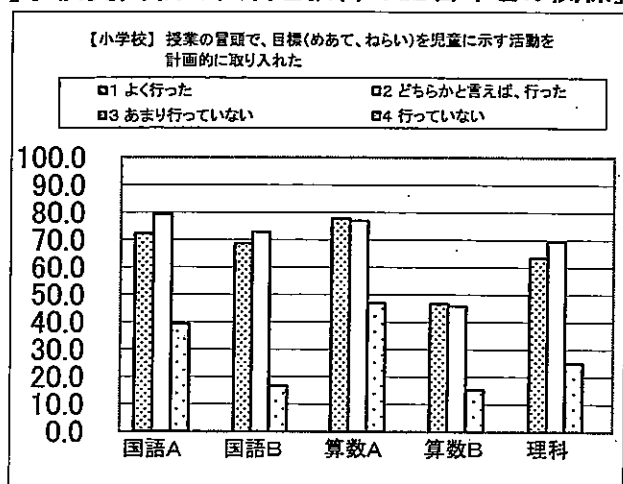
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.0%	74.4%	20.6%
26年度	98.7%	83.6%	15.1%
27年度	100.0%	94.7%	5.3%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



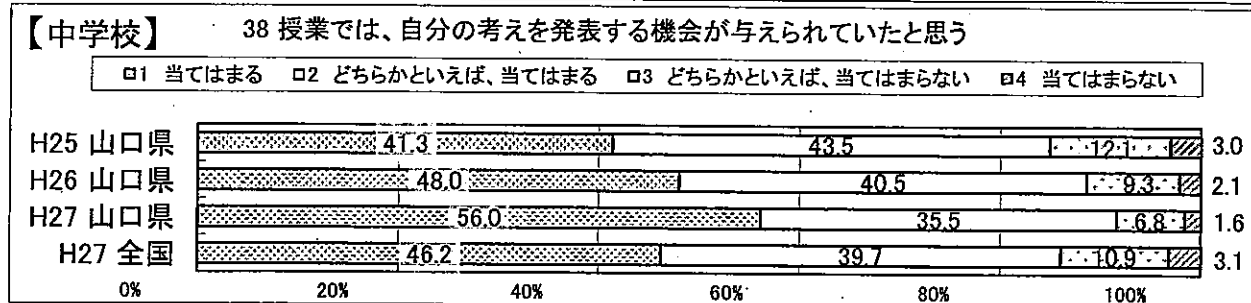
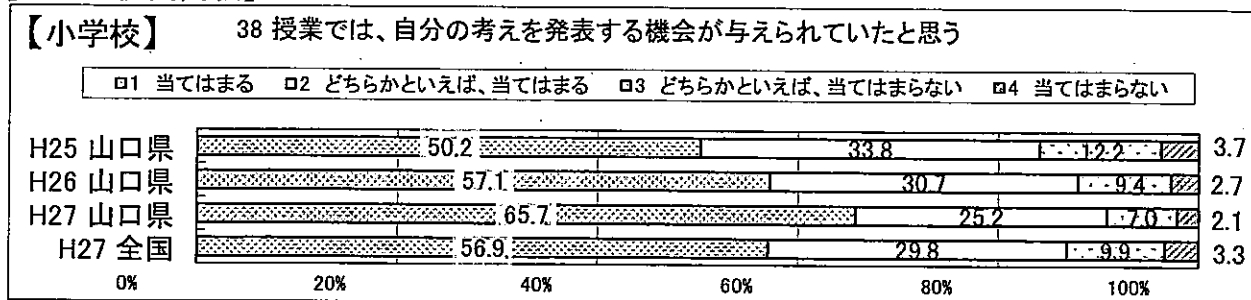
[学校質問紙の回答と教科の正答率との関係]



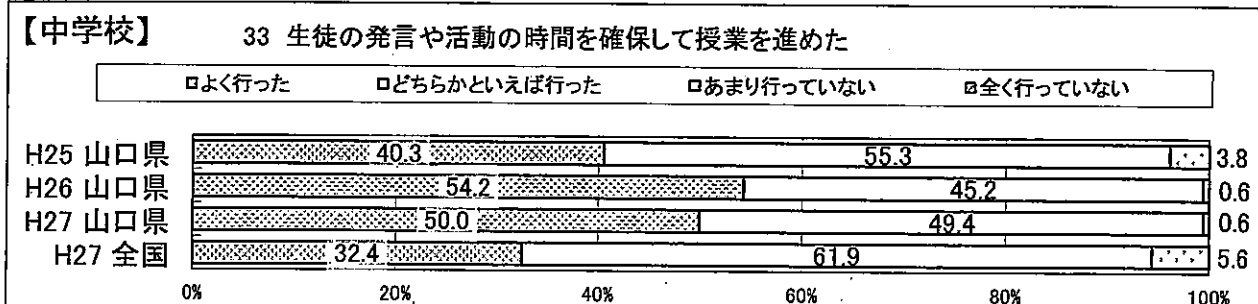
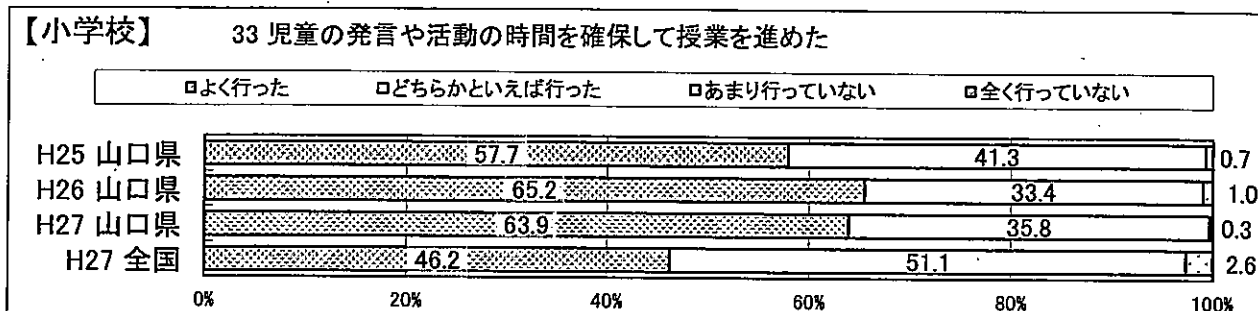
イ 授業で発表する機会

- 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答した児童生徒の割合と、そのような時間を確保して授業を進めた学校の割合は、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が指導を行ったと回答しているものの、そのように受け取っていない児童生徒が1割程度存在する。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒が発言や活動ができた実感できる場の設定を確保することが必要である。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

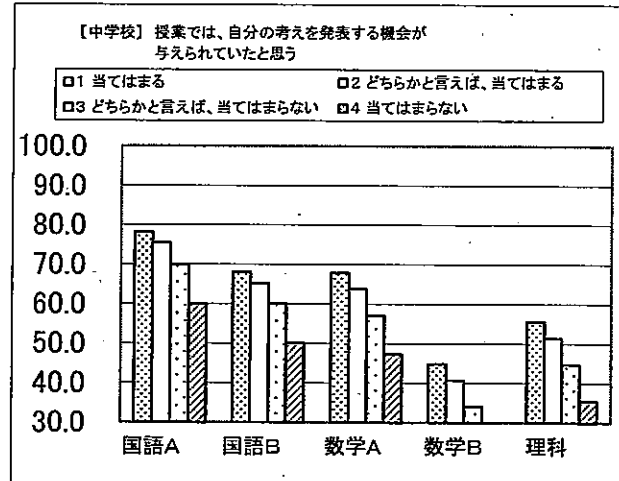
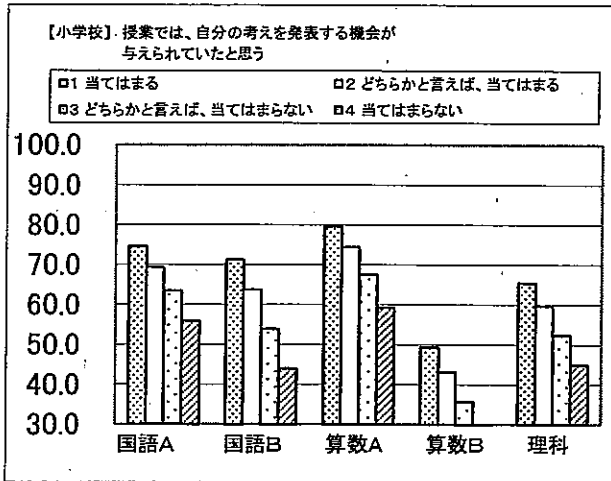
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.0%	84.0%	15.0%
26年度	98.6%	87.8%	10.8%
27年度	99.7%	90.9%	8.8%

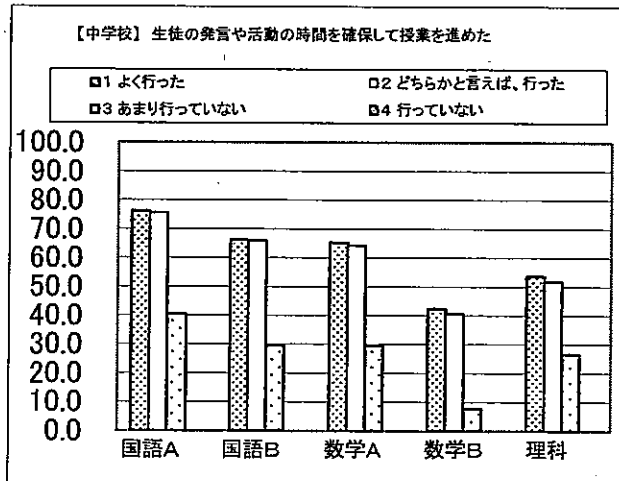
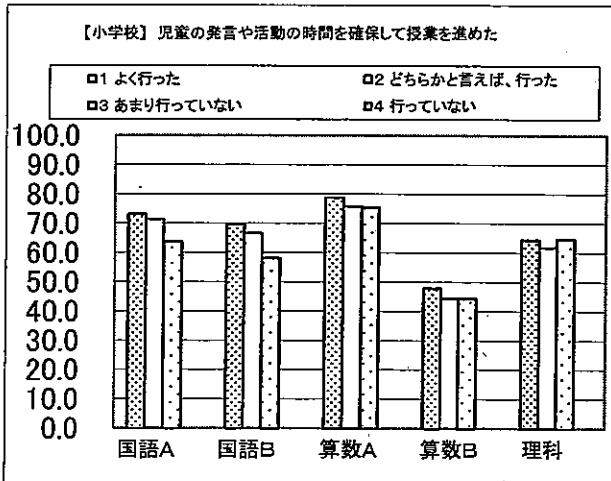
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.6%	84.8%	10.8%
26年度	99.4%	88.5%	10.9%
27年度	99.4%	91.5%	7.9%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



[学校質問紙の回答と教科の正答率との関係]



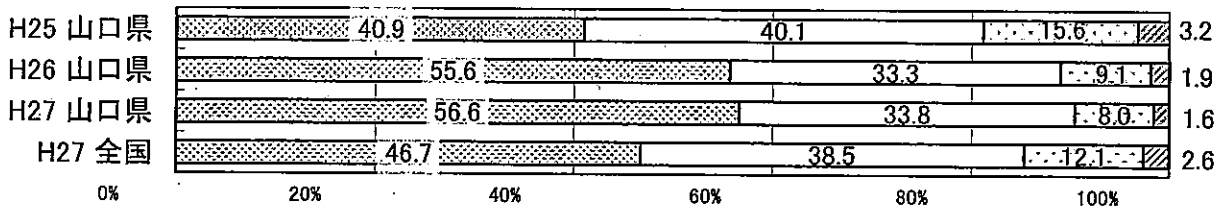
ウ 学級の友達との間で話し合う活動

- 学級の友達との間で話し合う活動を行ったと思うと回答した児童生徒の割合と、そのように考えている学校の割合は、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、多くの学校が指導を行ったと回答しているものの、そのように受け取っていない児童生徒が1割程度いる。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒にとって効果のある話し合い活動の場の設定に取り組む必要がある。

[児童生徒質問紙]

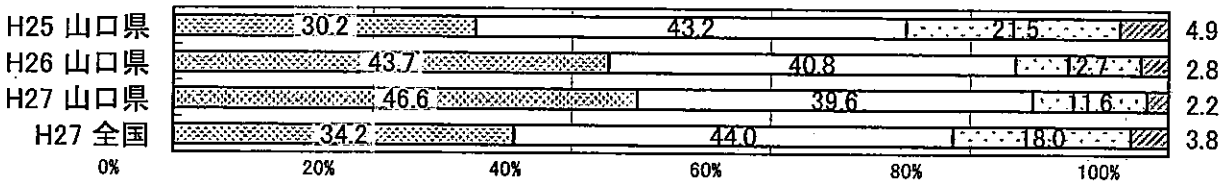
【小学校】 39 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



【中学校】 39 授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思う

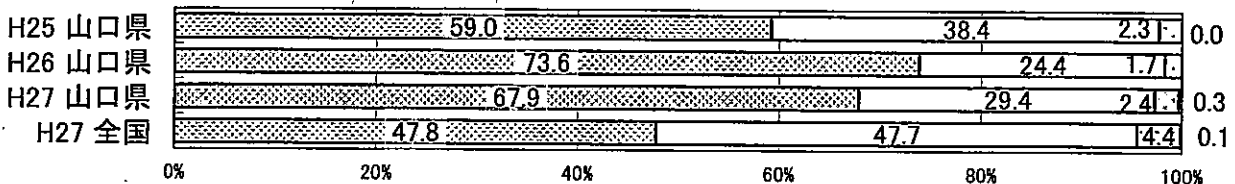
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



[学校質問紙]

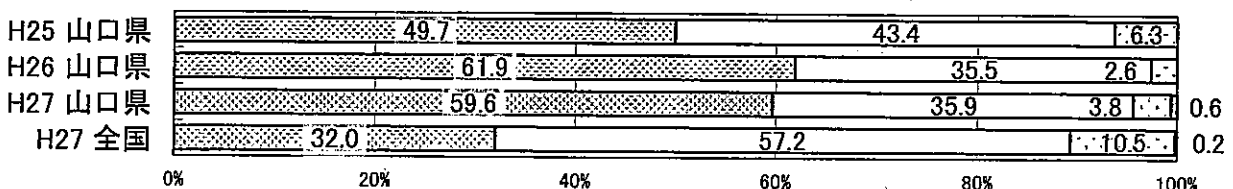
【小学校】 35 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

よく行った どちらかといえば行った あまり行っていない 全く行っていない



【中学校】 35 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

よく行った どちらかといえば行った あまり行っていない 全く行っていない



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

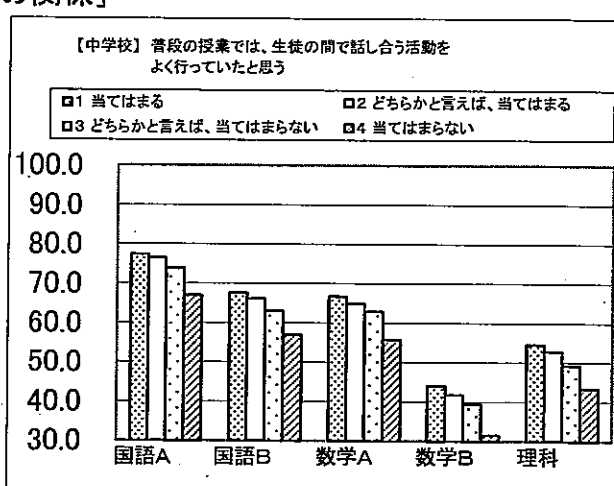
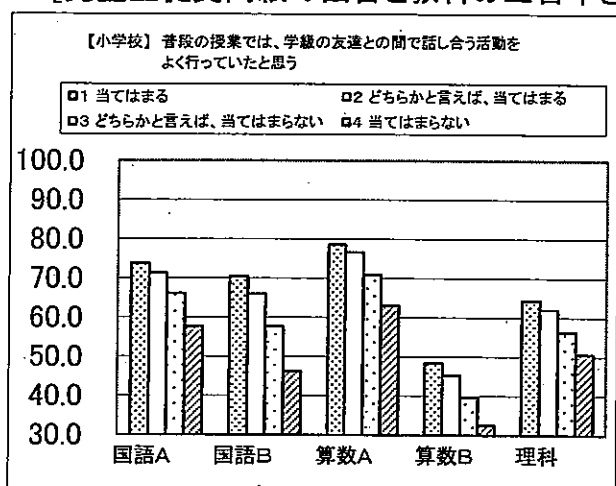
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4%
26年度	98.0%	88.9%	9.1%
27年度	97.3%	90.4%	6.9%

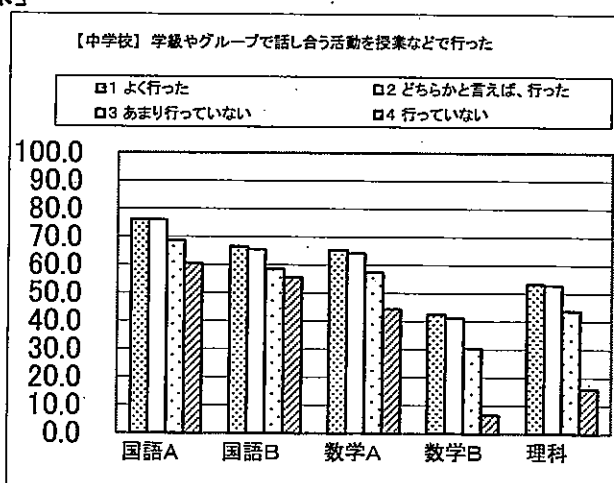
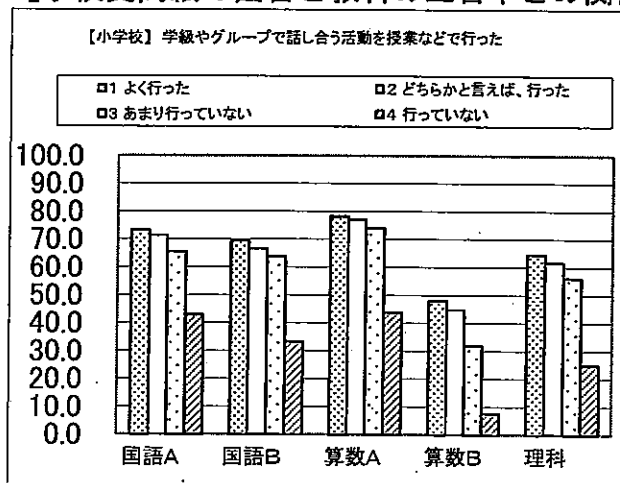
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7%
26年度	97.4%	84.5%	12.9%
27年度	95.5%	86.2%	9.3%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



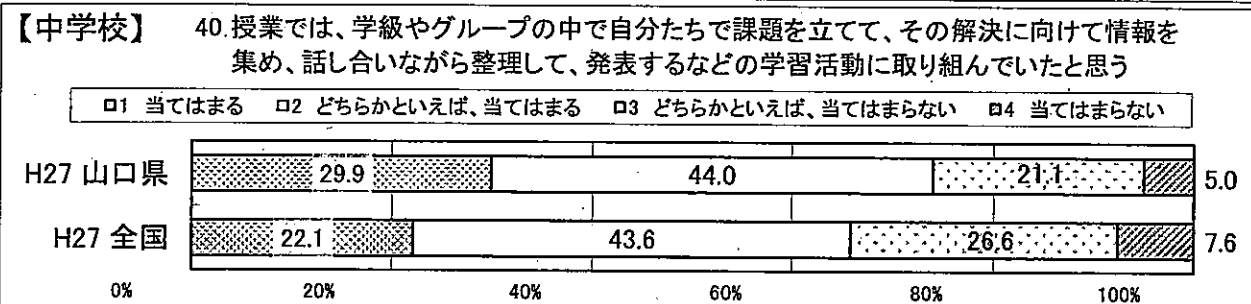
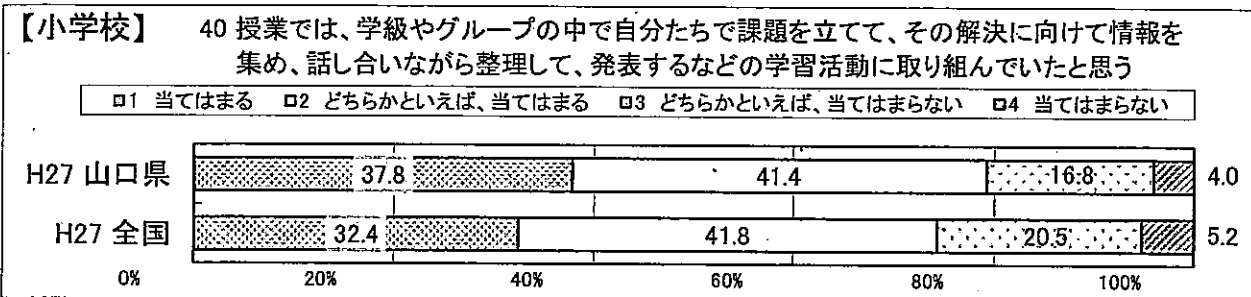
[学校質問紙の回答と教科の正答率との関係]



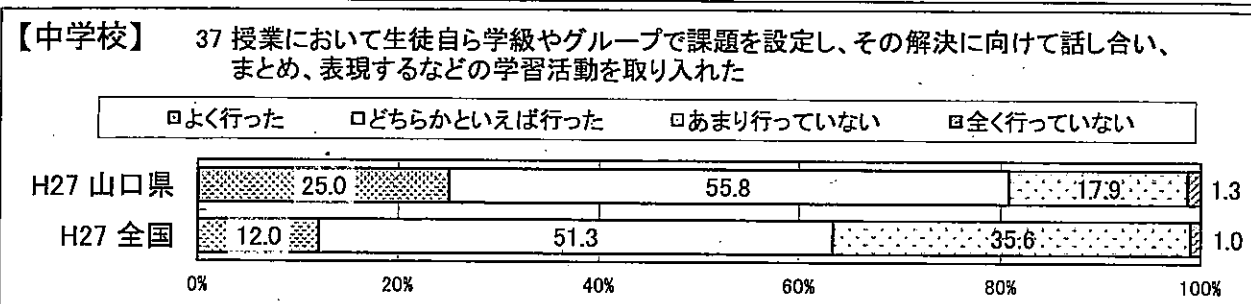
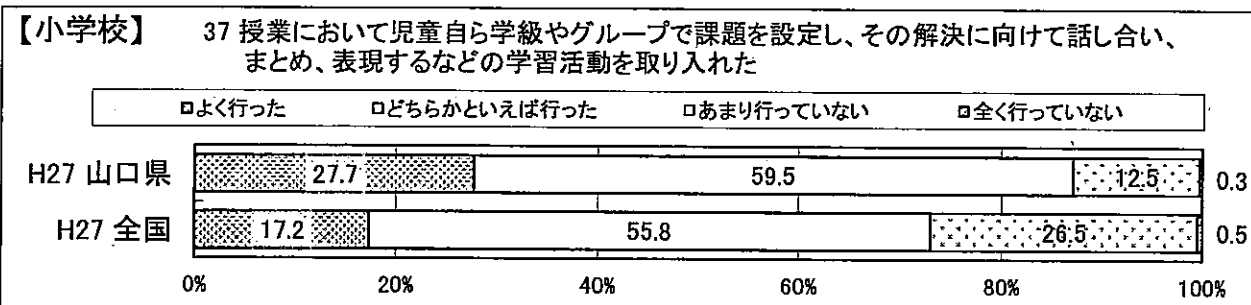
エ 授業における課題解決的な学習<今年度新設問>

- 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うと回答した児童生徒の割合と、そのような活動を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、「よく行った」と考える学校の割合より、「取り組んだ」と思う児童生徒の割合の方が高く、学習活動のとらえ方の違いがうかがえる。
- ☞ 本設問は本年度新設であり、今後求められる「学び方」に関連すると考えられる。今後、このような学習活動の理解を深めるとともに、具体的な実践に取り組んでいく必要がある。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

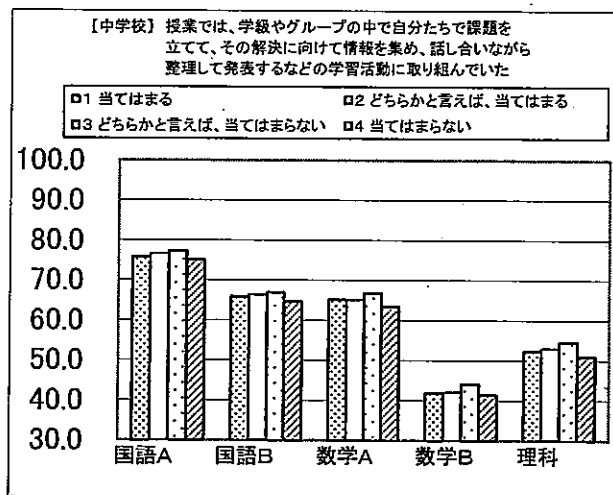
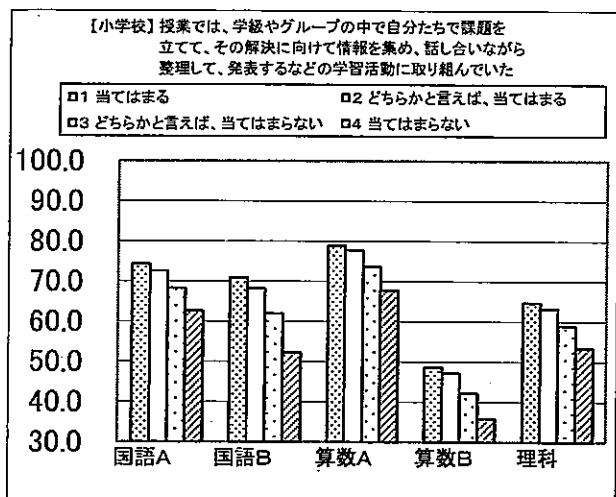
【小学校】

	学校質問紙	児童設問紙	差
		「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	
27年度	87.2%	79.2%	8.0%

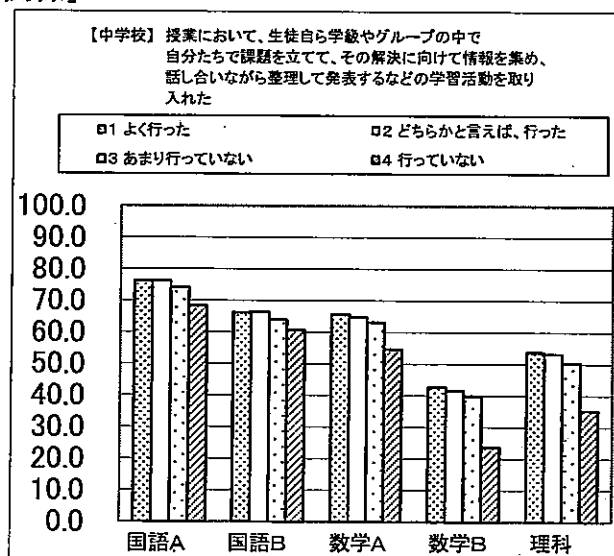
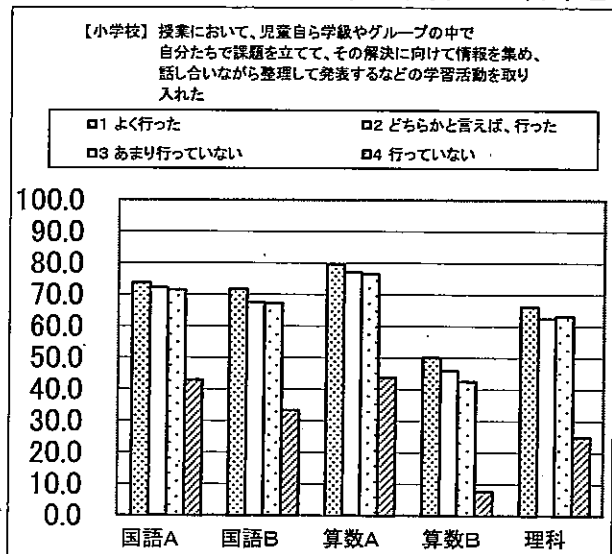
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
		「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	
27年度	80.8%	73.9%	6.9%

[児童生徒問紙の回答と教科の正答率との関係]



[学校質問紙の回答の結果と教科の正答率との関係]



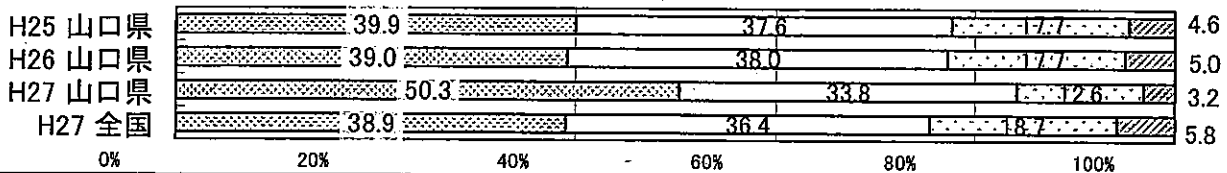
オ 学習内容の振り返り

- 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったと思うと回答している児童生徒の割合と、計画的に取り入れた学校の割合は、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が振り返る活動を取り入れたと回答しているものの、そのように受け取っていない児童生徒が、小学校では15.6%、中学校では25.4%いる。
- ☞ 小学校では、肯定的に回答した児童の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、振り返りの効果は認められる。今後は、振り返りの活動の質の向上を図っていく必要がある。

[児童生徒質問紙]

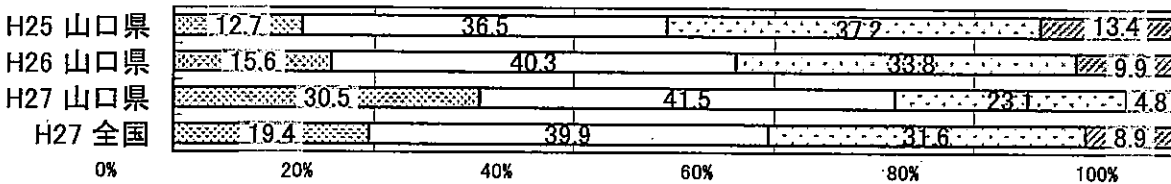
【小学校】 42 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



【中学校】 42 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

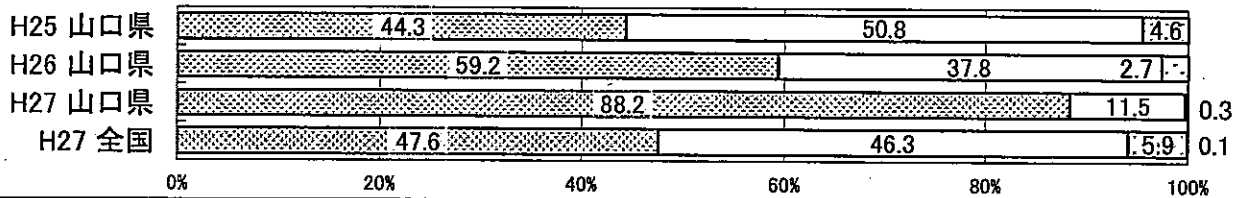
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



[学校質問紙]

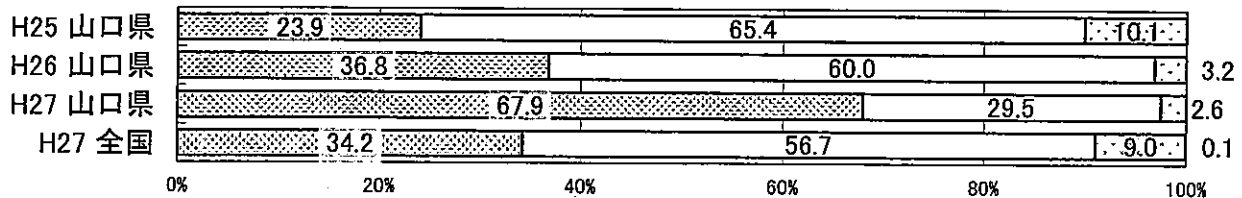
【小学校】 30 授業の最後に、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

よく行った どちらかといえば行った あまり行っていない 全く行っていない



【中学校】 30 授業の最後に、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

よく行った どちらかといえば行った あまり行っていない 全く行っていない



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

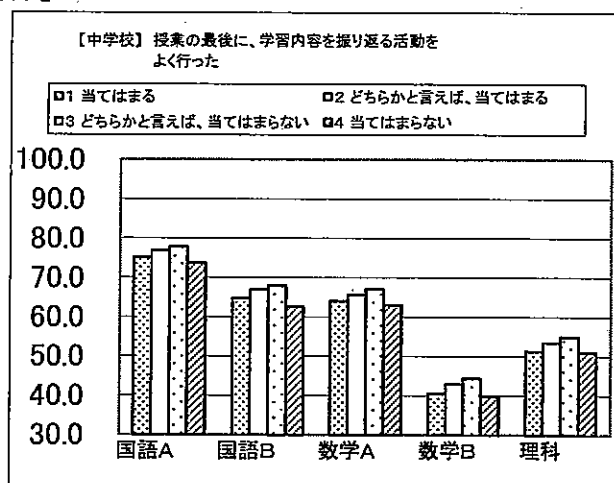
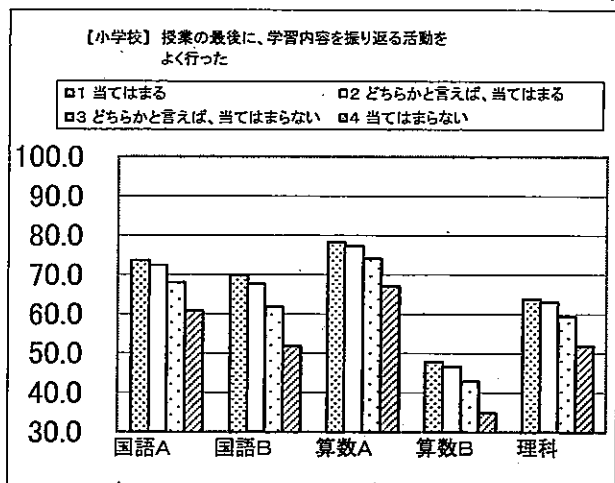
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4%
26年度	98.0%	88.9%	9.1%
27年度	99.7%	84.1%	15.6%

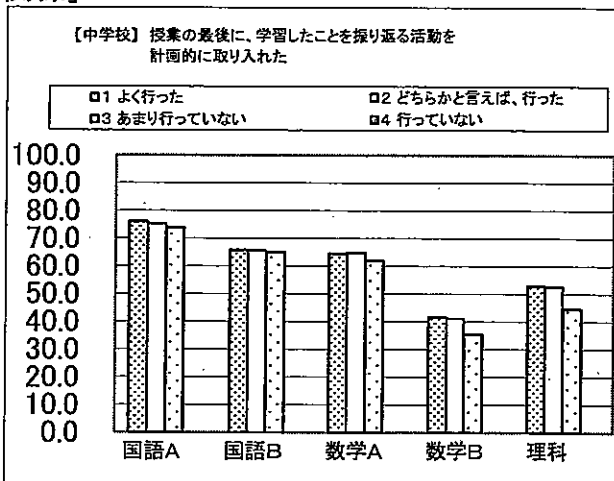
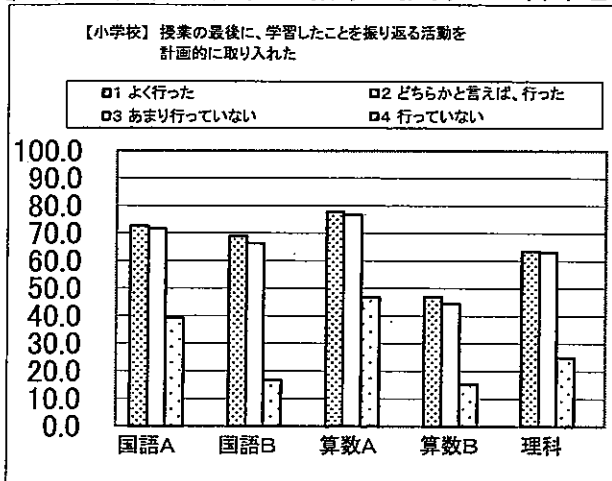
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7%
26年度	97.4%	84.5%	12.9%
27年度	97.4%	72.0%	25.4%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



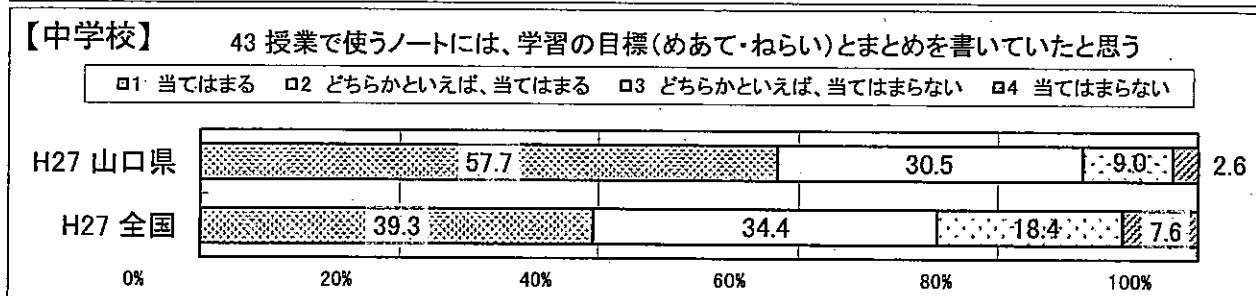
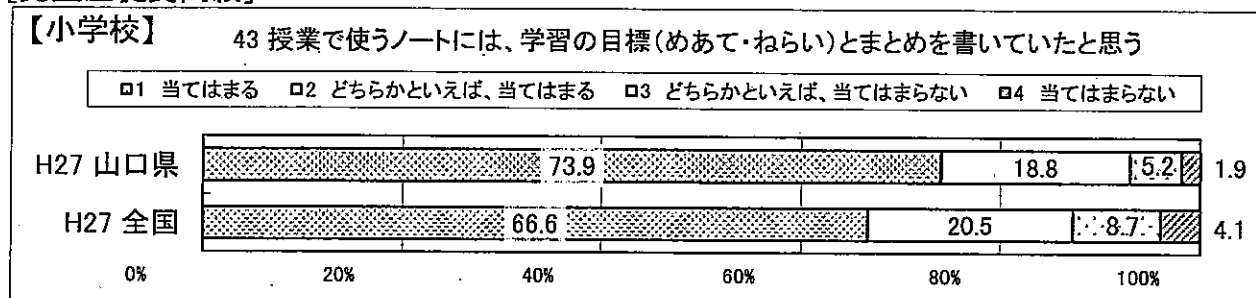
[学校質問紙の回答の結果と教科の正答率との関係]



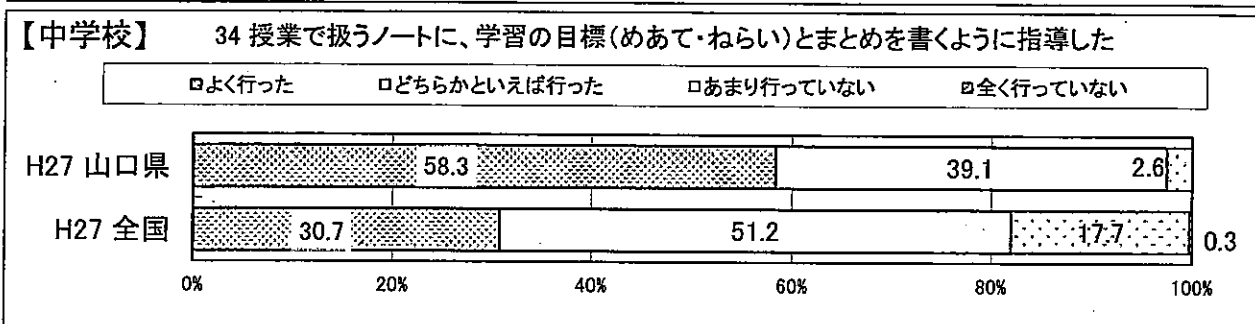
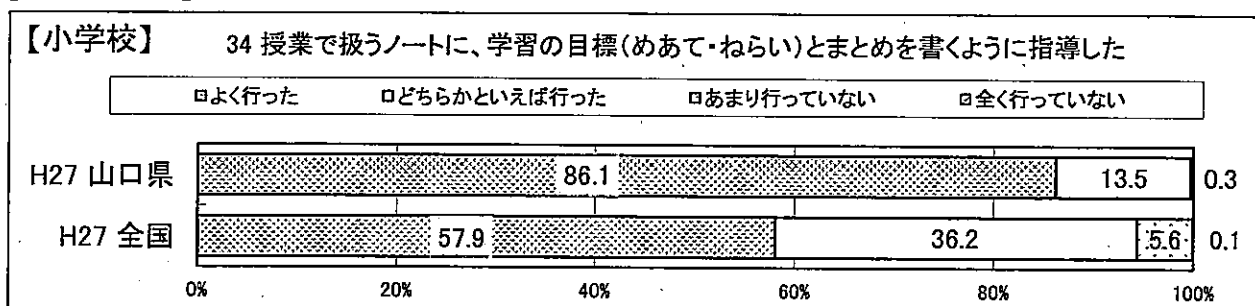
カ ノート指導<今年度新設問>

- 授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いたと思う児童生徒の割合と、そのように指導した学校の割合は、全国と比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が「よく行った・どちらかというに行った」と回答しているが、そのようにとらえていない児童生徒が1割程度いる。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き指導を行うとともに、目標やまとめの記述が意識できるような働きかけや、効果的・機能的なノート指導を行っていく必要がある。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

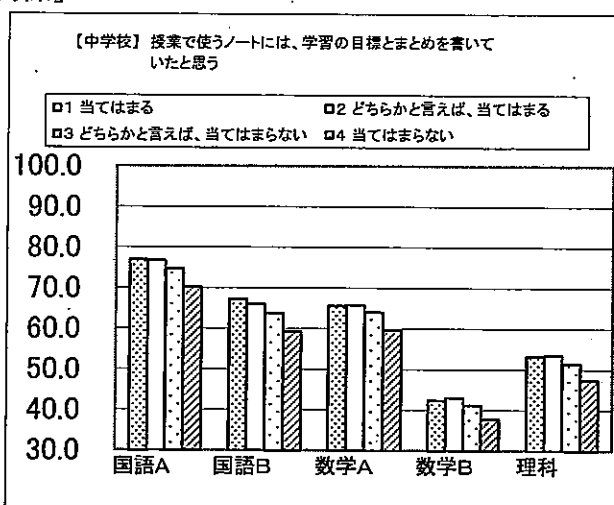
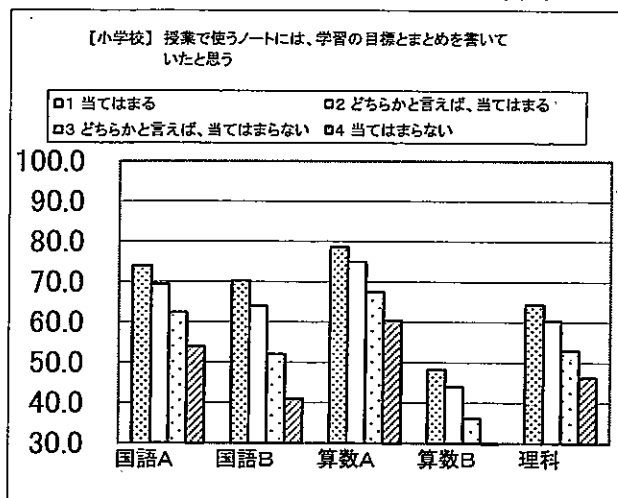
【小学校】

	学校質問紙	児童設問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27年度	99.6%	92.7%	6.9%

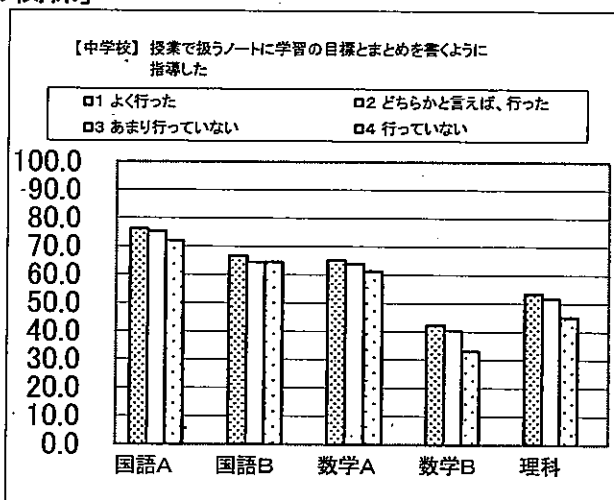
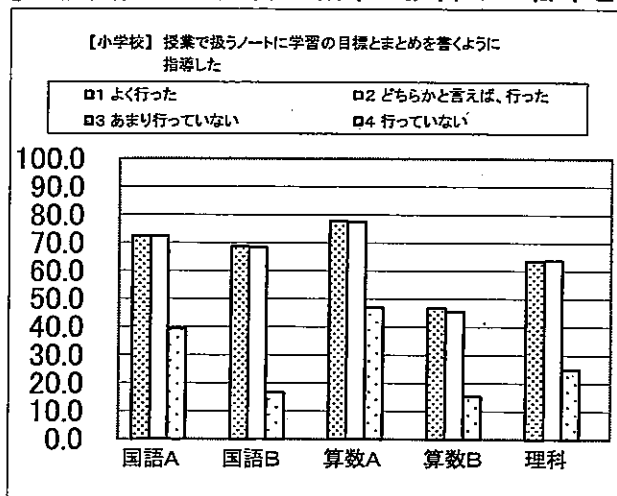
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27年度	97.4%	88.2%	9.2%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



[学校質問紙の回答の結果と教科の正答率との関係]

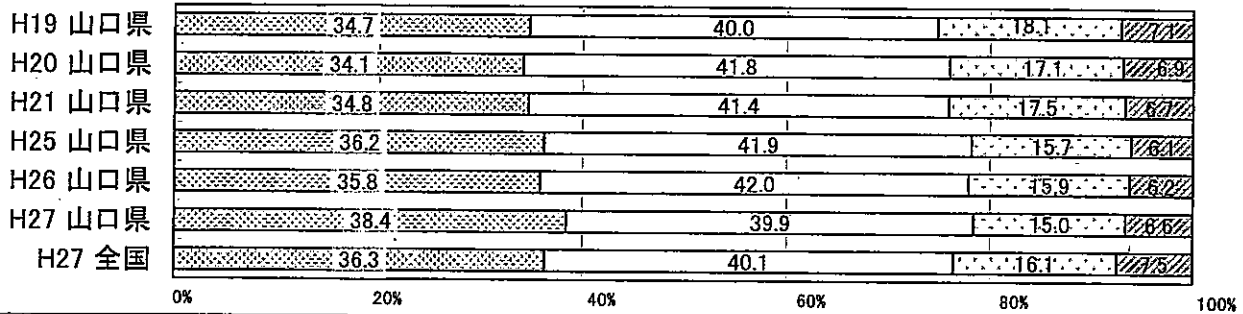


② 児童生徒質問紙
ア 自己肯定感

○ 自分にはよいところがあると思うと回答した児童生徒の割合は、年々増加しており、全国と比べると高い。
☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、児童生徒一人ひとりのよさを具体的に認めたり、適切に評価したりする指導や場の一層の充実が望まれる。

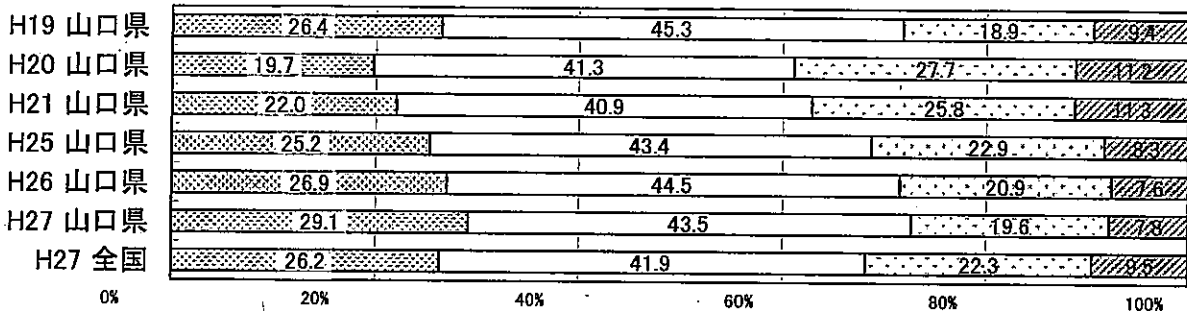
【小学校】 6 自分には、よいところがあると思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 6 自分には、よいところがあると思う

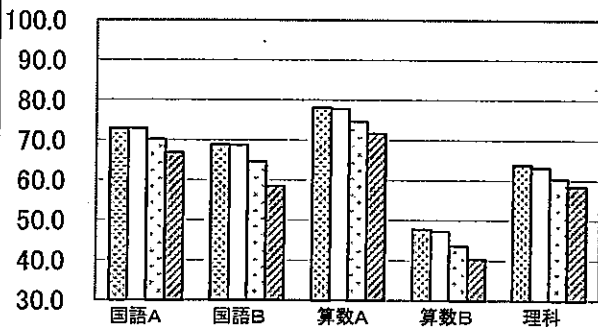
□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【教科の正答率との関係】

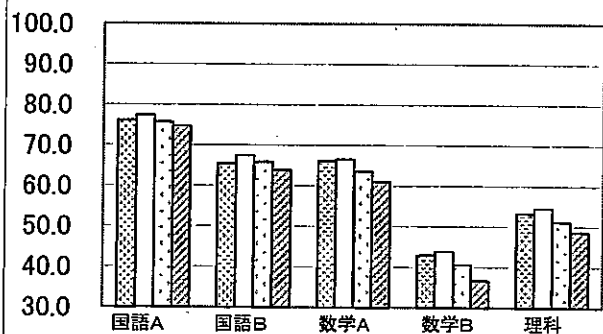
【小学校】 自分には、よいところがある

□そう思う □どちらかといえば、そう思う
□どちらかといえば、そう思わない □そう思わない



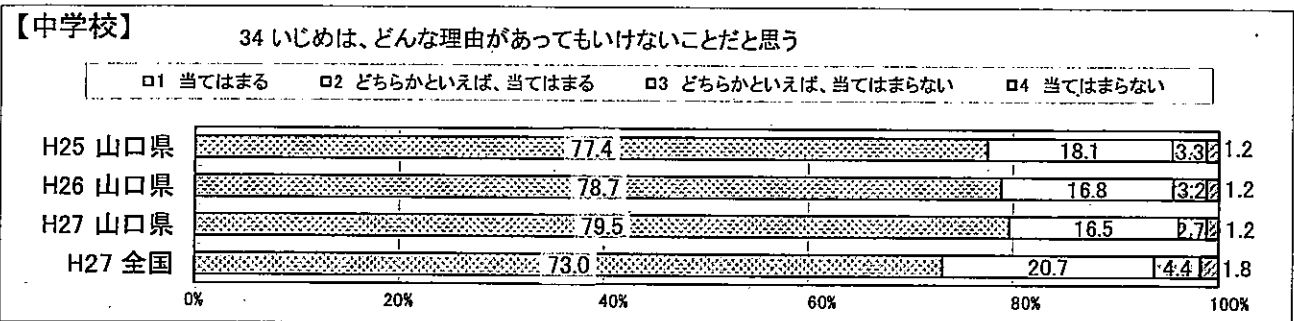
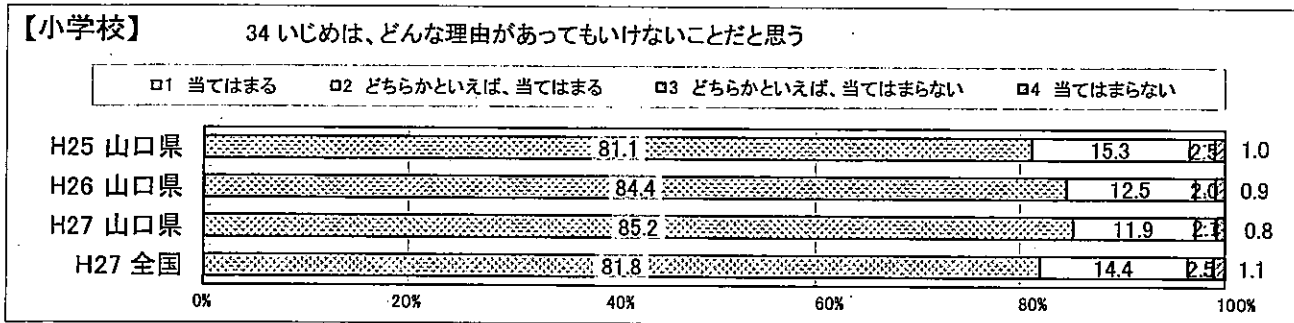
【中学校】 自分にはよいところがある

□そう思う □どちらかといえば、そう思う
□どちらかといえば、そう思わない □そう思わない



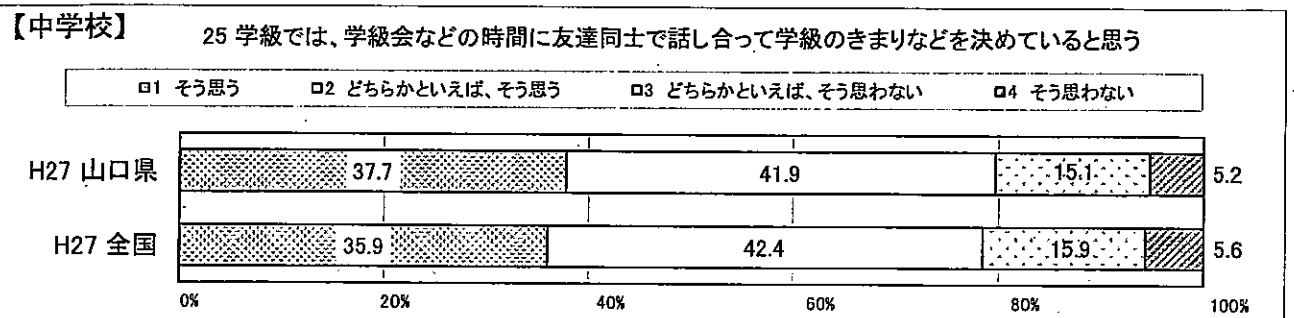
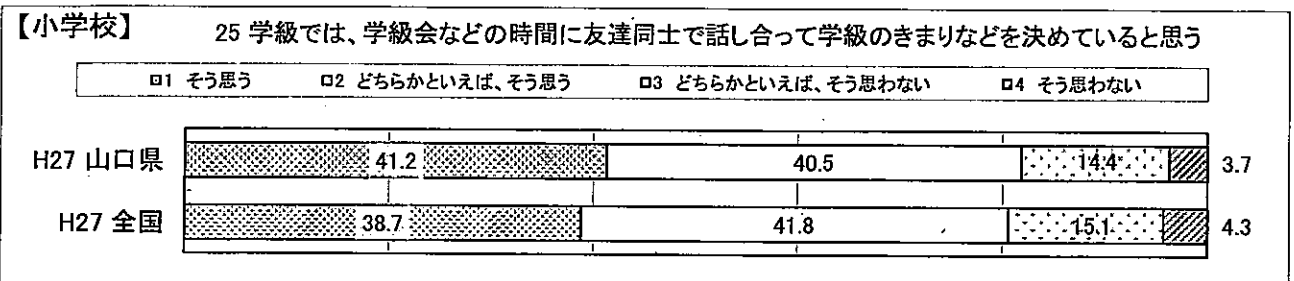
イ いじめはいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。
- ☞ 一方で、そう考えない児童生徒もいることから、今後も継続して心の教育の推進を図る必要がある。



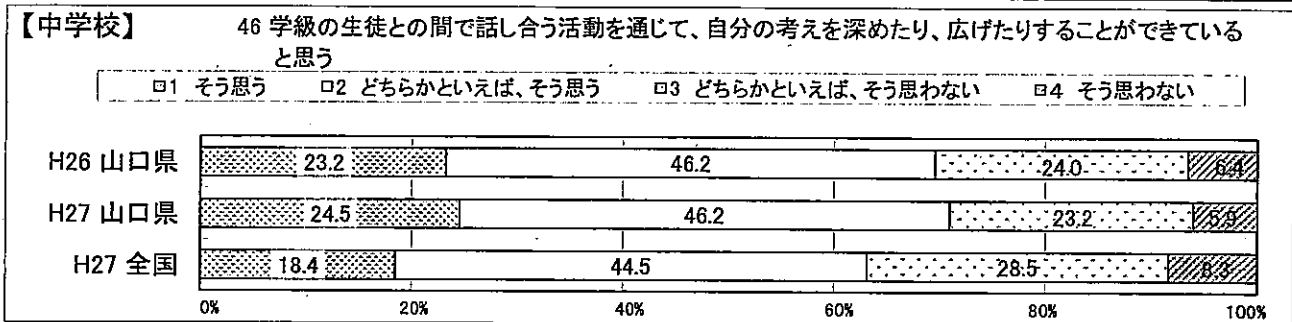
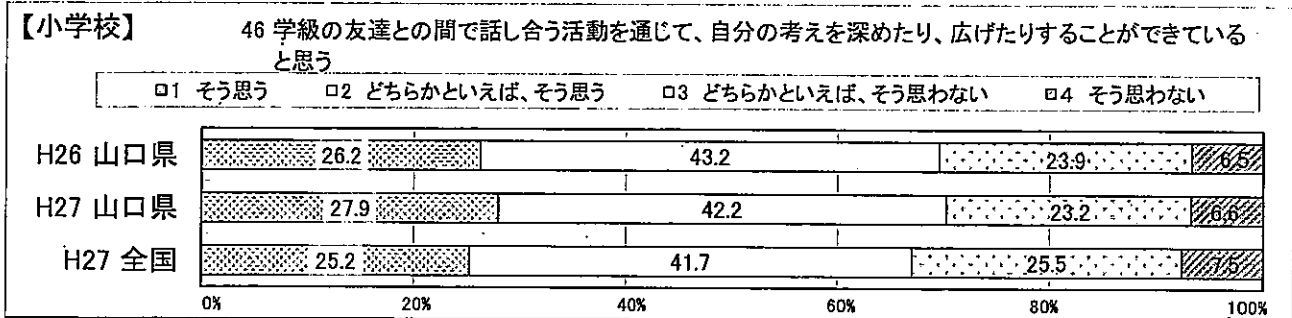
ウ 学級のきまりなどの決定方法

- 学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。
- ☞ 多くの学校で、教科の授業に限らず、児童生徒の話合いが行われ、主体的な学級づくりが推進されていると捉えられることから、今後も話し合い活動の充実に向けた継続した取組が望まれる。

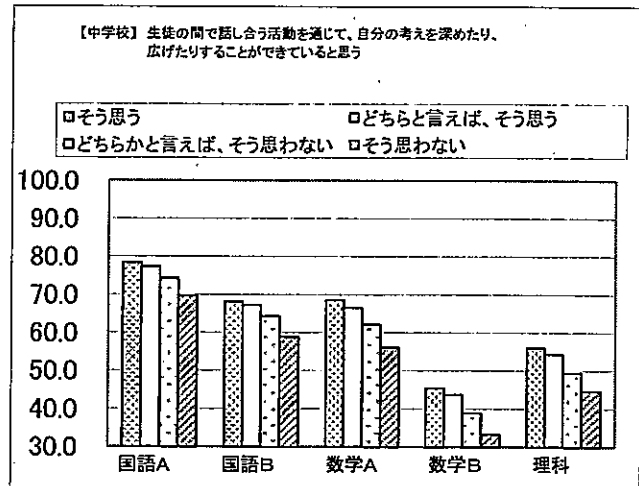
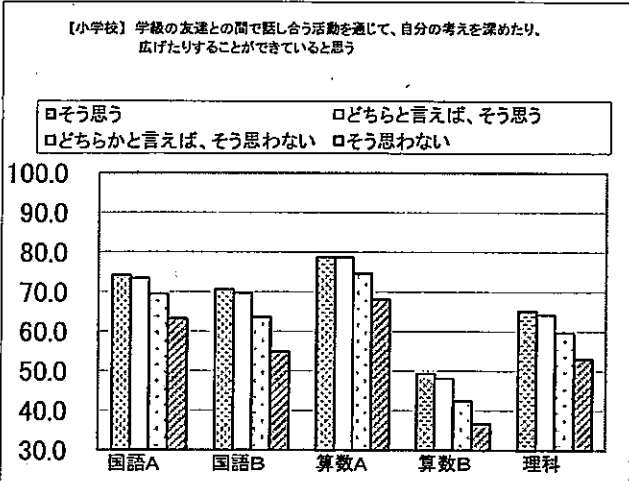


エ 話し合う活動を通じて自分の考えを深める・広げること

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童生徒の割合は、前年度から増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、今後も、児童生徒が考えを深め、広げられるような話し合い活動の機会を設定するなど、取組の充実を図る必要がある。



[教科の正答率との関係]

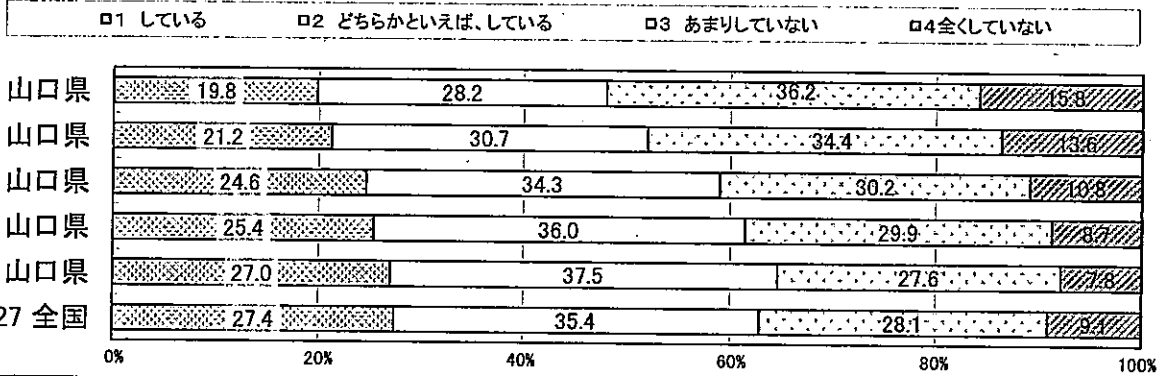


オ 自分で計画を立てて取り組む家庭学習

- 家で、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童生徒の割合は、年々増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、具体的な計画の立て方を示すなどにより、見直しをもって学習する習慣の確立を図ることが必要である。

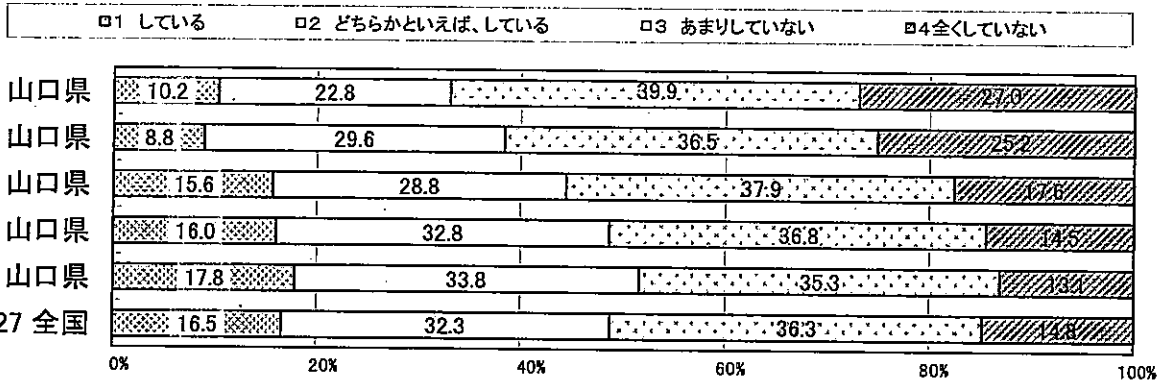
【小学校】

20家で、自分で計画を立てて勉強をしている

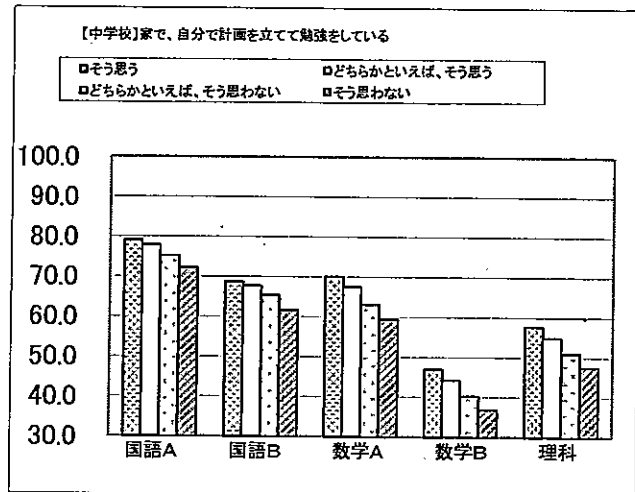
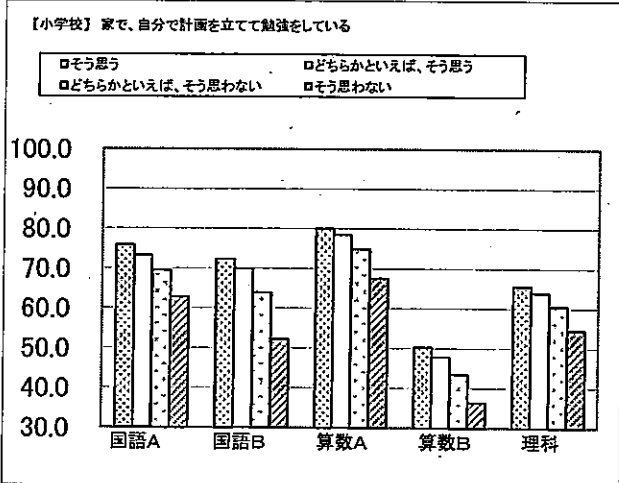


【中学校】

20家で、自分で計画を立てて勉強をしている



【教科の正答率との関係】

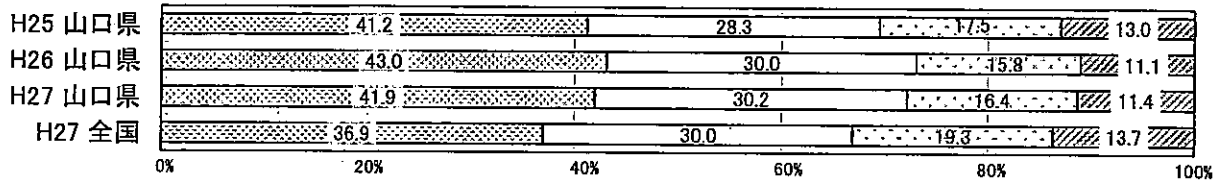


カ 地域行事への参加

- 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高く、特に中学校生徒の割合は年々増加している。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、今後も地域とのつながりを大切にした指導の充実が求められる。

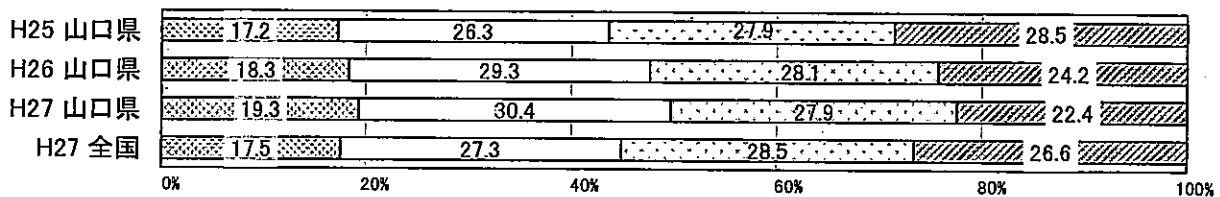
【小学校】 27 今住んでいる地域の行事に参加している

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 27 今住んでいる地域の行事に参加している

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

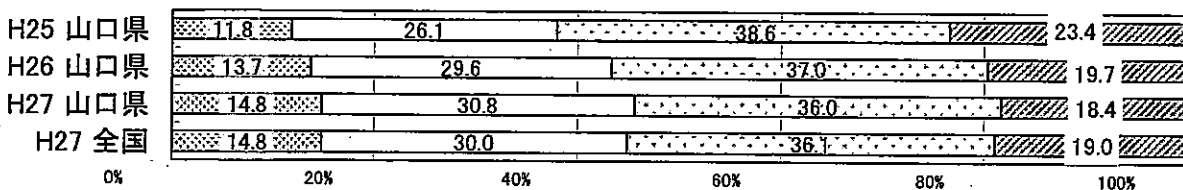


キ 地域や社会をよくするために何をすべきか

- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童生徒の割合は、前年度より増加しており、全国と比べてやや高い。
- ☞ 今後も、地域社会への主体的な参画意識を高める指導に取り組む必要がある。

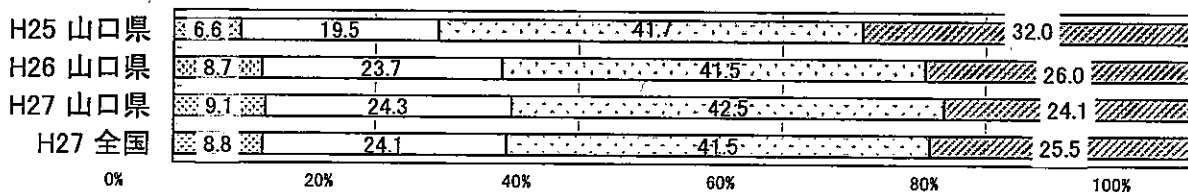
【小学校】 29 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 29 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

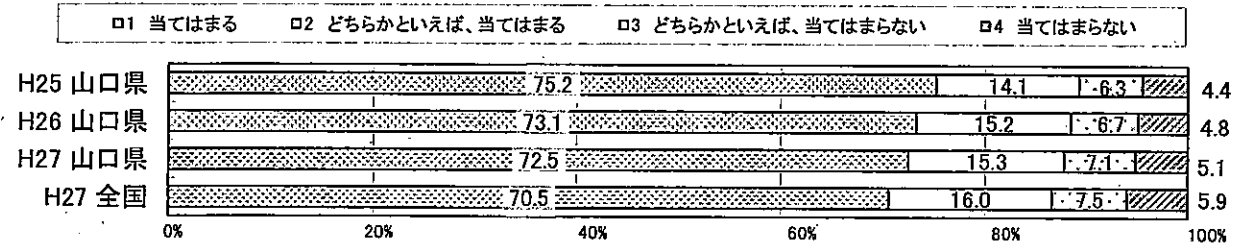
□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



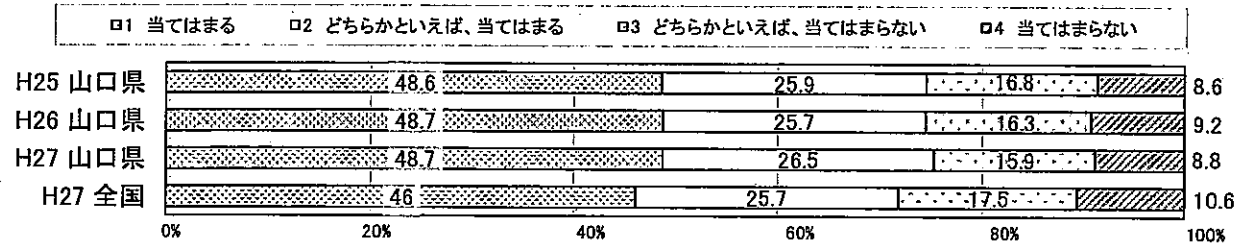
ク 将来の夢や目標

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、小学校については、肯定的に回答した児童の割合は、年々減少しており、夢や目標を持っていない児童は12.2%、生徒は24.7%いる。
- ☞ 今後、「1/2成人式」や「立志式」の取組等を含め、キャリア教育の一層の充実を図ることが必要である。

【小学校】 9 将来の夢や目標を持っている



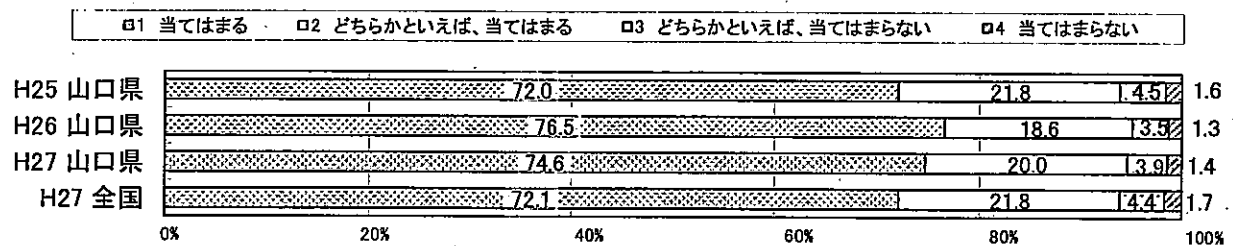
【中学校】 9 将来の夢や目標を持っている



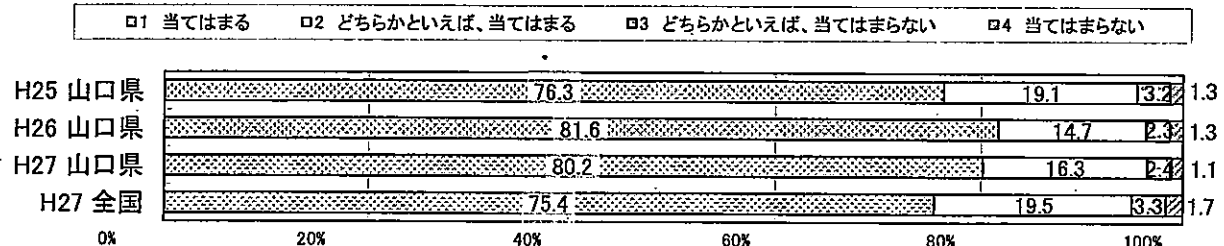
ケ 人の気持ちが分かる人間になりたい

- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思うと回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、児童はやや減少しており、そう思わないと回答した児童は5.3%、生徒は3.5%いる。
- ☞ 今後、道徳科の授業の改善・充実を含め、心の教育の一層の充実を図る必要がある。

【小学校】 33 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う



【中学校】 33 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

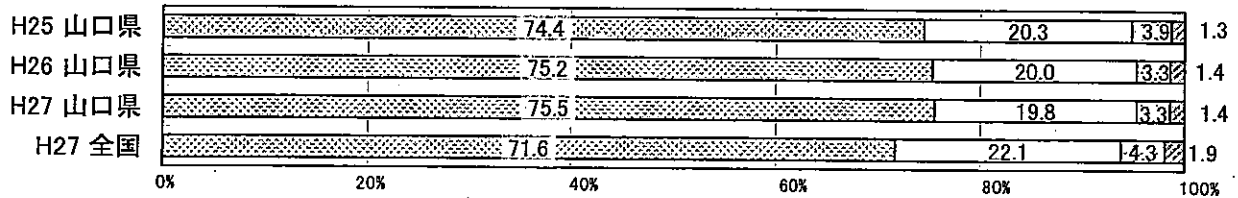


コ 人の役に立つ人間になりたい

- 人の役に立つ人間になりたいと思うと回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、そう思わないと回答した児童は4.7%、生徒は4.3%いる。
- ☞ 今後、道徳科の授業改善や様々な体験活動の充実を含め、心の教育の一層の充実を図る必要がある。

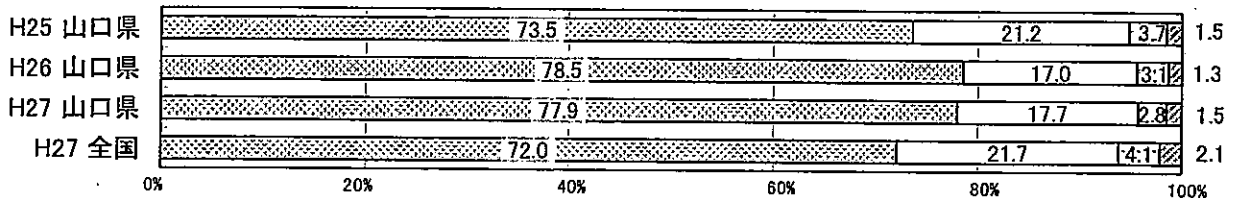
【小学校】 35人の役に立つ人間になりたいと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 35人の役に立つ人間になりたいと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

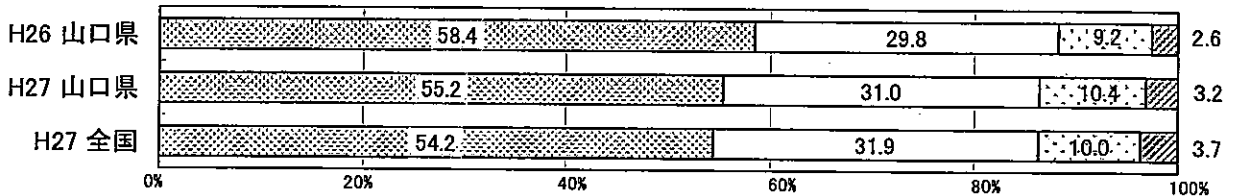


サ 協力して何かをやり遂げ、うれしかったこと

- 協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校・中学校ともに大きな差はないが、前年度より減少している。特に、中学校は全国の割合よりも低い。
- ☞ 今後、計画的・意図的に協働的な活動場面を設定するなどの工夫が求められる。

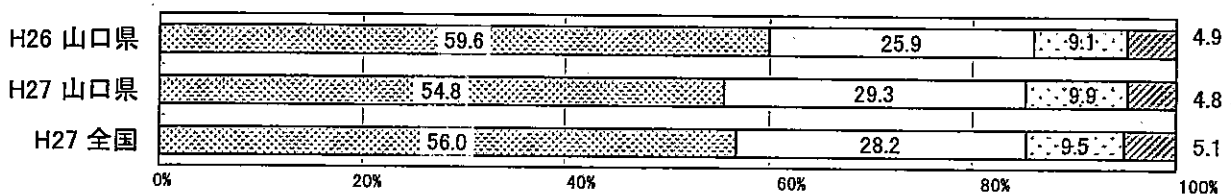
【小学校】 26学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 26学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

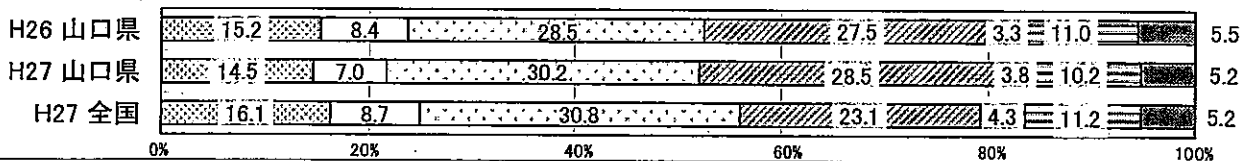


シ 授業で分からないことがあるときの対応

- 授業で分からないことがあったとき、「先生に尋ねる」「友達に尋ねる」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに、全国と比べて低く、「そのままにしておく」と回答した児童は5.2%、生徒は6.5%いる。
- ☞ 自分で調べたり、人に尋ねたりするなどにより、分からないことを解決していく児童生徒の教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、児童生徒が分からないことに直面したとき、適切な解決方法を選択し、最後まで問題を解決していこうとする意識を高める指導を行っていく必要がある。

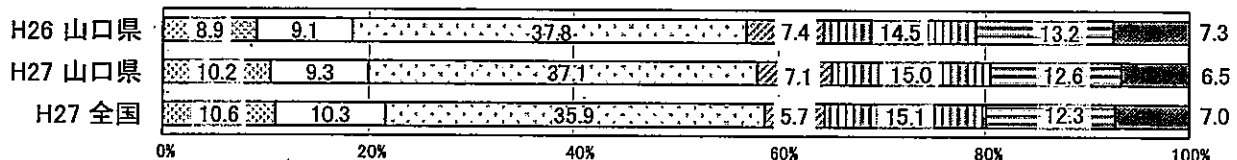
【小学校】 47 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いか

- 1 その場で先生に尋ねる
- 2 授業が終わってから先生に尋ねに行く
- 3 友達に尋ねる
- 4 家の人に尋ねる
- 5 学習塾の先生に尋ねる
- 6 自分で調べる
- 7 そのままにしておく

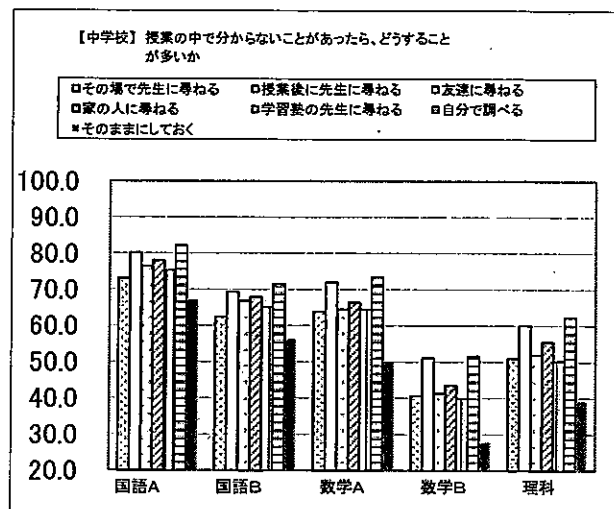
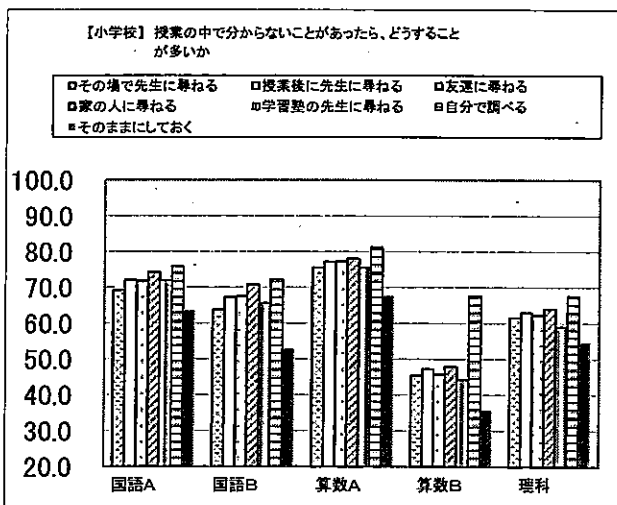


【中学校】 47 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いか

- 1 その場で先生に尋ねる
- 2 授業が終わってから先生に尋ねに行く
- 3 友達に尋ねる
- 4 家の人に尋ねる
- 5 学習塾の先生に尋ねる
- 6 自分で調べる
- 7 そのままにしておく



【教科の正答率との関係】

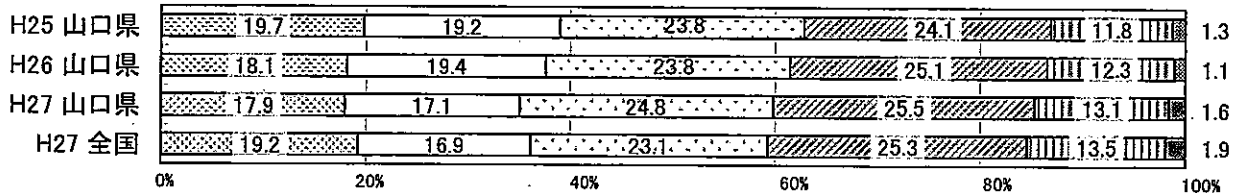


ス テレビなどを見たり聞いたりする時間(1日当たり・平日)

- 平日1日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりすると回答した児童生徒の割合は、年々減少しているが、小学校児童は全国と比べて高く、4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする児童は17.9%、生徒は12.4%いる。
- ☞ テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間が短い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、家庭でのルール作りなど、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

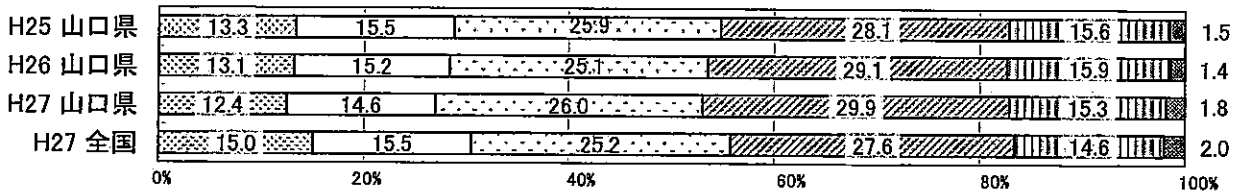
【小学校】 10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり聞いたりするか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



【中学校】 10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり聞いたりするか

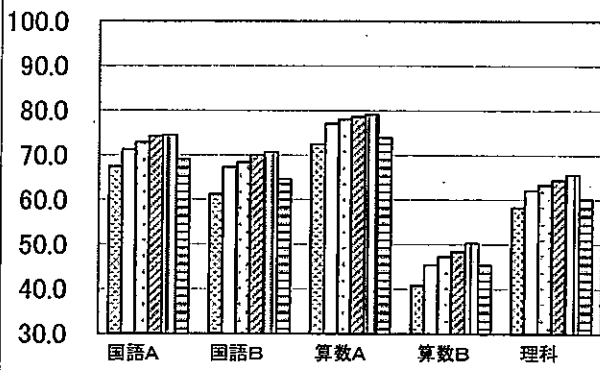
□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



【教科の正答率との関係】

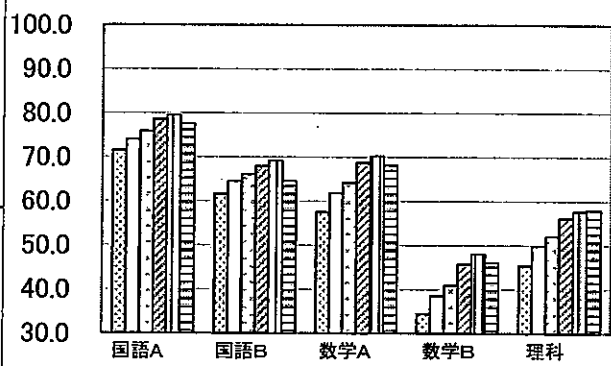
【小学校】 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり聞いたりするか

□4時間以上 □3時間～4時間 □2時間～3時間
□1時間～2時間 □1時間より少ない □全くしない



【中学校】 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり聞いたりするか

□4時間以上 □3時間～4時間 □2時間～3時間
□1時間～2時間 □1時間より少ない □全くしない

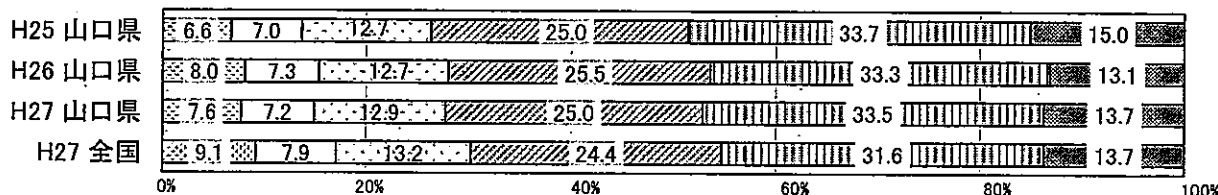


セ テレビゲームをする時間(1日当たり・平日)

- 平日1日当たり1時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全国と比べて低いものの、5割を超えており、特に生徒は年々増加傾向にある。
- ☞ テレビゲームをする時間が短い児童生徒の方が、全ての教科において高い平均正答率が見られることから、家庭でのルール作りなど、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

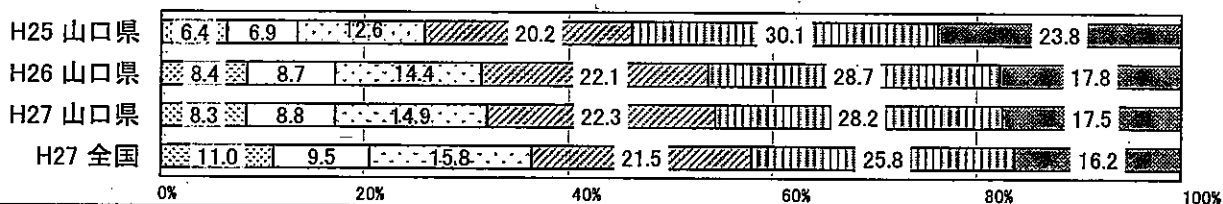
【小学校】 11 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



【中学校】 11 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか

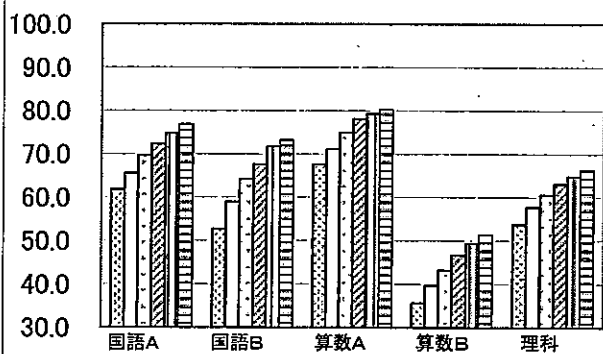
□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



[教科の正答率との関係]

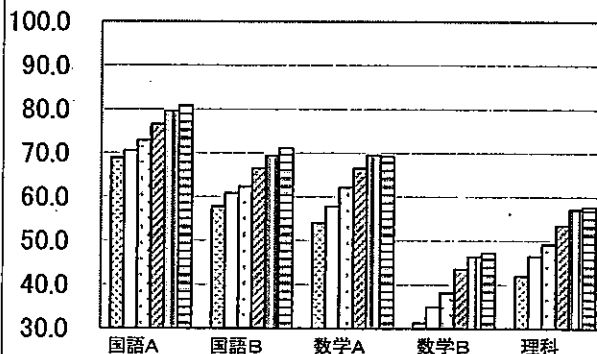
【小学校】 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか

□4時間以上 □3時間～4時間 □2時間～3時間
□1時間～2時間 □1時間より少ない □全くしない



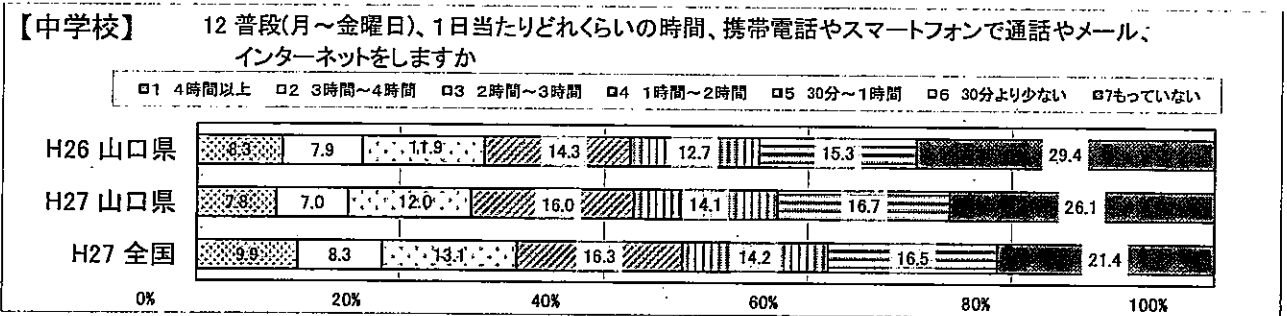
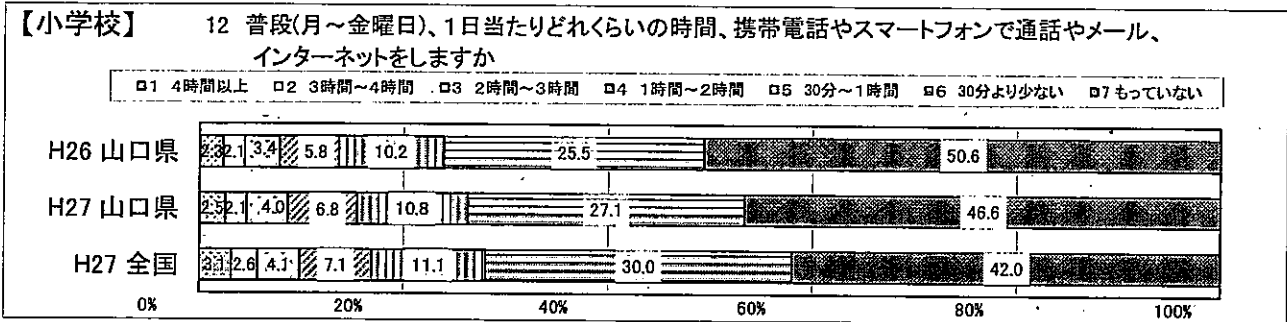
【中学校】 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか

□4時間以上 □3時間～4時間 □2時間～3時間
□1時間～2時間 □1時間より少ない □全くしない

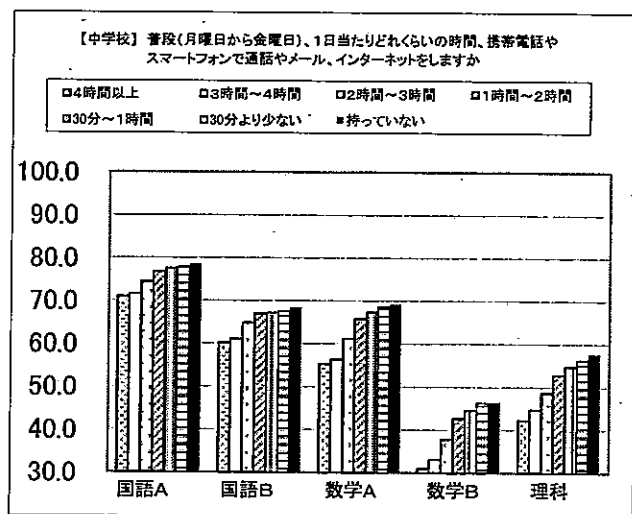
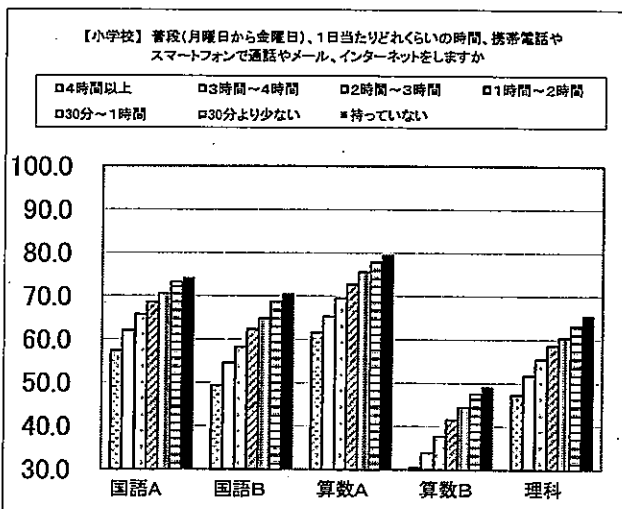


ソ 携帯電話やスマートフォンを使う時間(1日当たり・平日)

- 平日1日当たり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童生徒の割合は、全国と比べて低いものの、4時間以上すると回答した児童は2.5%、生徒は7.8%である。
- ☞ 平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い、あるいは持っていない児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、家庭でのルール作りなど、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。



[教科の正答率との関係]

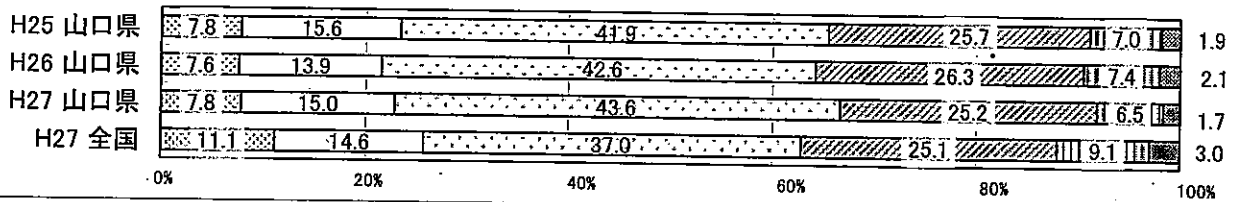


タ 学校以外で勉強する時間(1日当たり・平日)

- 学校の授業時間以外に平日1日当たりに1時間以上学習する中学校生徒は、全国に比べて依然として低い。全く勉強しない小学校児童は1.7%、中学校生徒は3.7%いる。
- ☞ 今後、家庭との連携・協力を密にし、家庭学習習慣の定着を図っていく必要がある。

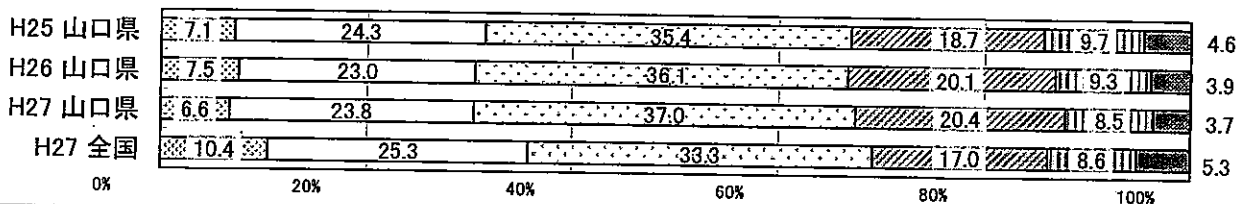
【小学校】 13 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか

□1 3時間以上 □2 2時間～3時間 □3 1時間～2時間 □4 30分～1時間 □5 30分より少ない □6 全くしない



【中学校】 13 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか

□1 3時間以上 □2 2時間～3時間 □3 1時間～2時間 □4 30分～1時間 □5 30分より少ない □6 全くしない

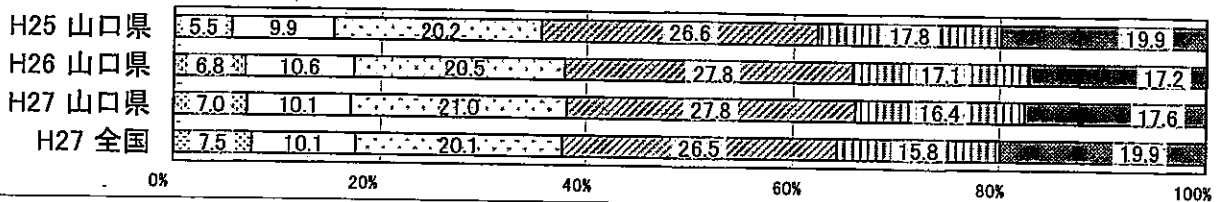


チ 読書をする時間(1日当たり・平日)

- 平日1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合は、年々増加しており、全国と比べて高いが、全く読書をしていない児童生徒が、小学校で17.6%、中学校で31.8%おり、小学校は前年度よりも高くなっている。
- ☞ 朝読書の時間などを活用し、活字に触れ、読書の楽しさを味わわせる取組の工夫が必要である。

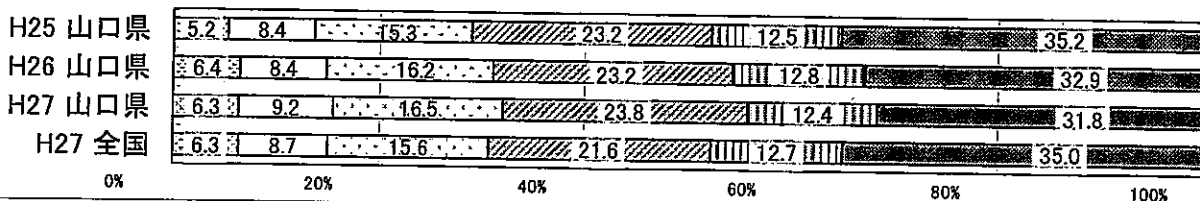
【小学校】 16 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか

□1 2時間以上 □2 1時間～2時間 □3 30分～1時間 □4 10分～30分 □5 10分より少ない □6 全くしない



【中学校】 16 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか

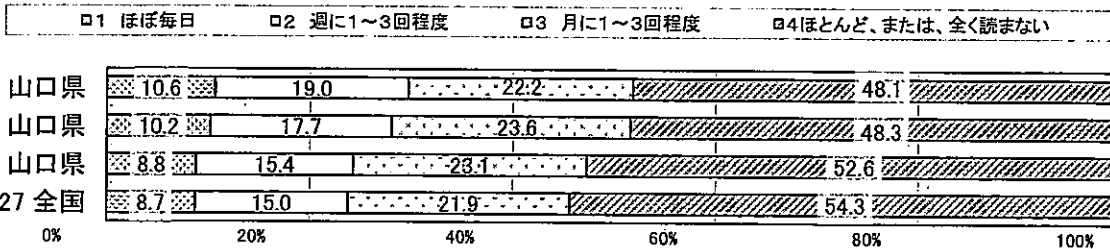
□1 2時間以上 □2 1時間～2時間 □3 30分～1時間 □4 10分～30分 □5 10分より少ない □6 全くしない



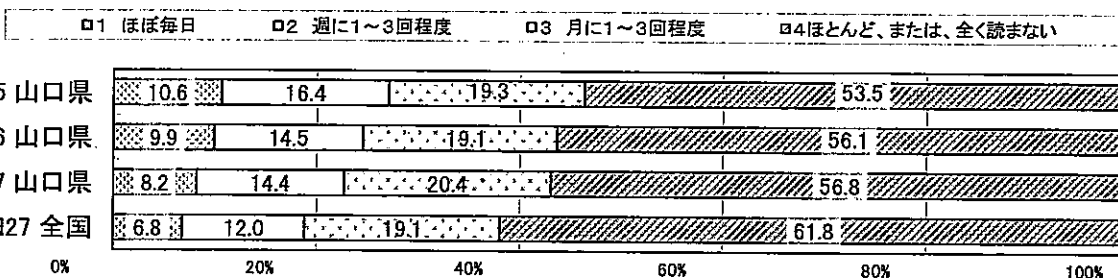
ツ 新聞を読んでいるか

- 新聞を読んでいると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高いが、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童は52.6%、生徒は56.8%である。
- ⇒ 新聞を読んでいる児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、学校においても活字に触れる、情報を選択する、社会の動きに関心を持つなど、新聞の活用を考慮する必要がある。

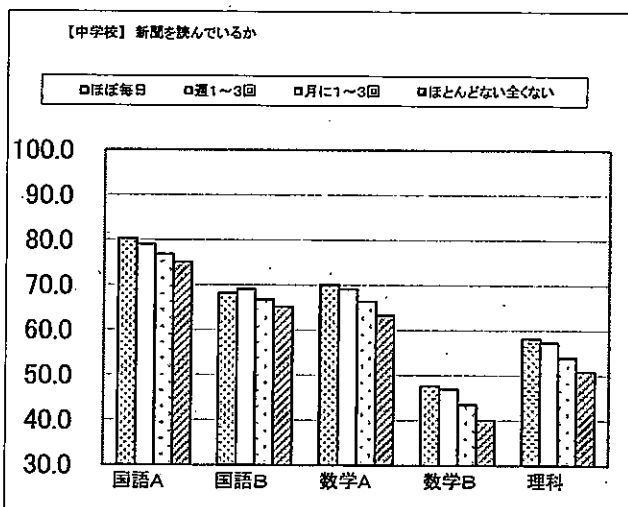
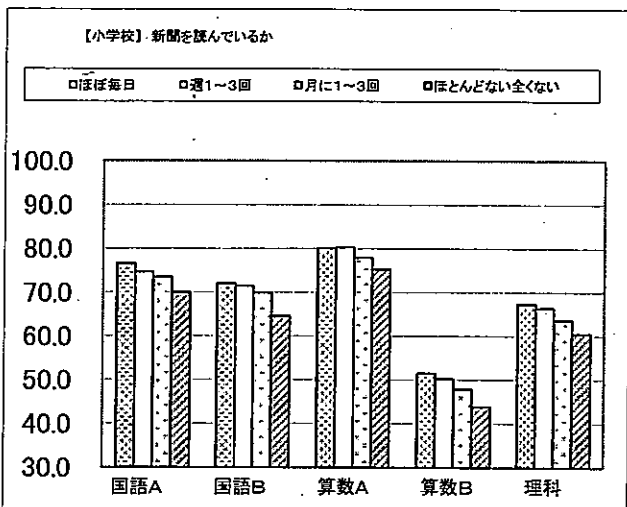
【小学校】 30 新聞を読んでいるか



【中学校】 30 新聞を読んでいるか



【教科の正答率との関係】



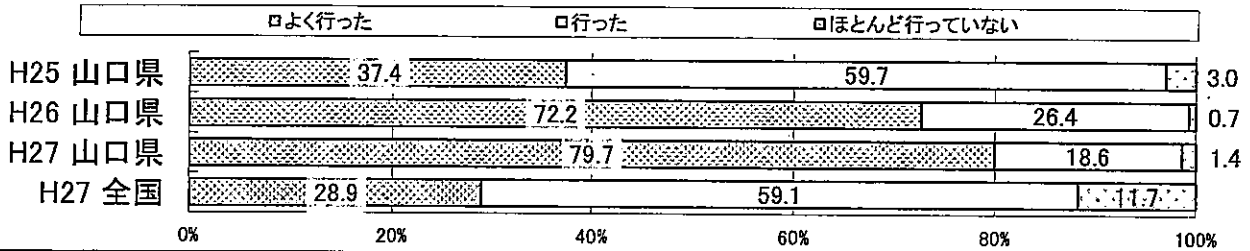
③ 学校質問紙

ア 調査結果の公表・説明

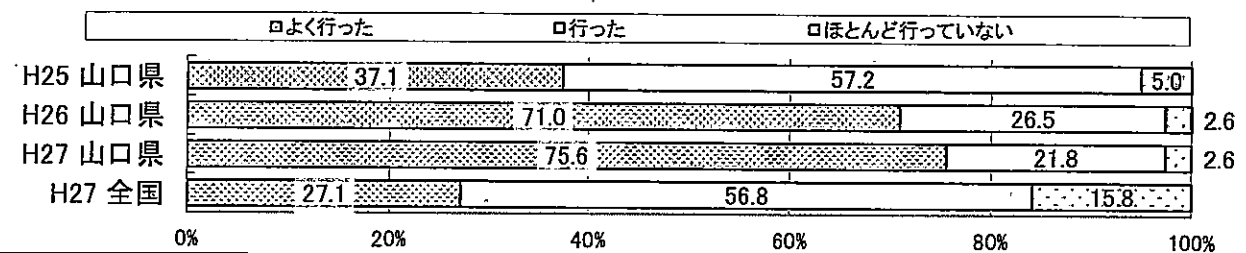
○ 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を、一部の極小規模校と総合支援学校を除き、全ての学校が行っている。「よく行った」と回答する学校の割合は、年々増加しており、全国と比べて高い。

☞ 今後も、学校・地域の実情に応じて、様々な方法により情報を共有する必要がある。

【小学校】 52 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を行った



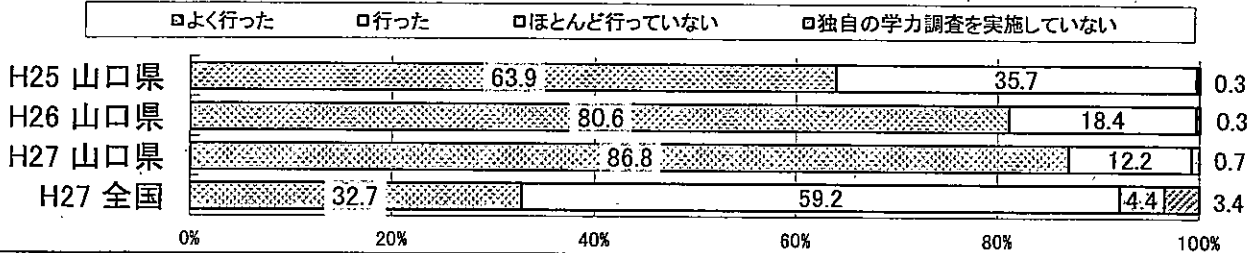
【中学校】 52 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を行った



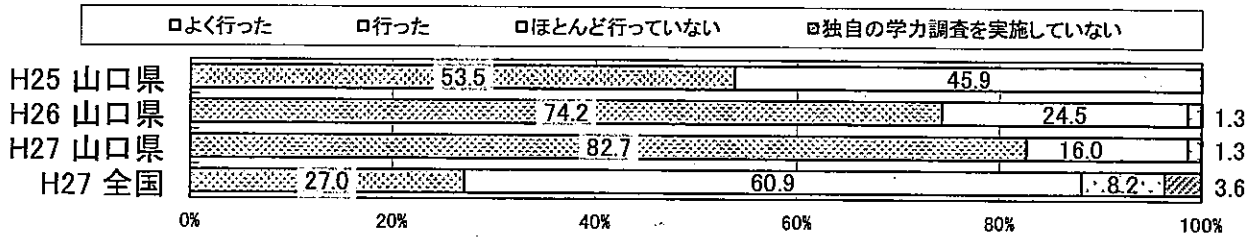
イ 学力調査と県独自調査の結果を合わせた指導

- 全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の結果を併せて分析し、指導の改善や指導計画への反映を行った学校の割合は年々増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 肯定的に回答した学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向があり、今後も年2回の検証改善サイクルを活用して取組の充実を図っていく必要がある。

【小学校】 54 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った



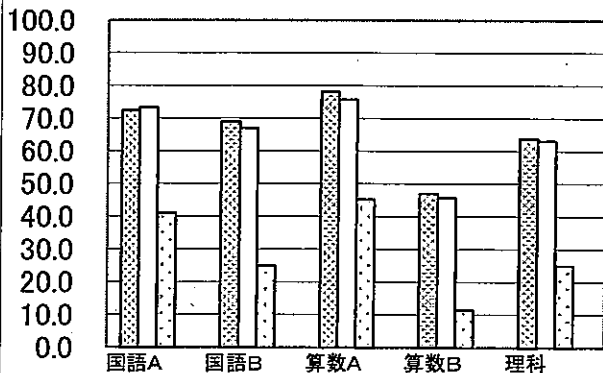
【中学校】 54 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った



[教科の正答率との関係]

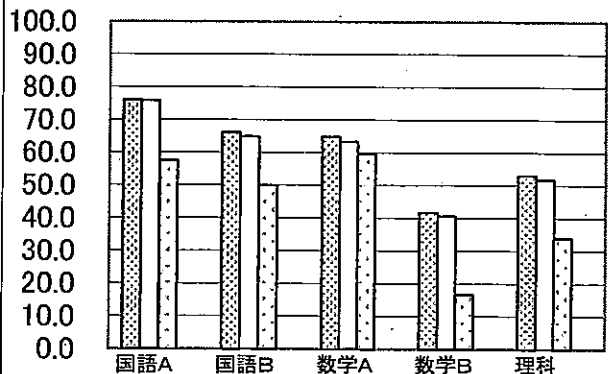
【小学校】 自分には、よいところがある

- よく行っている
- どちらかといえば、行っている
- ほとんど行っていない
- 独自の学力調査を実施していない



【中学校】 自分にはよいところがある

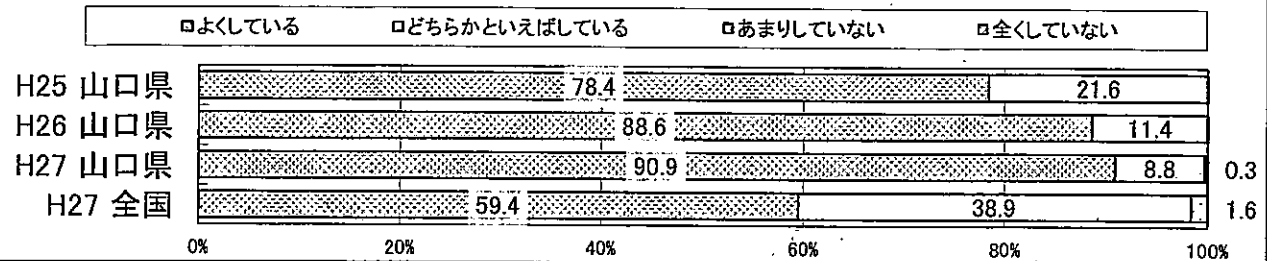
- よく行っている
- どちらかといえば、行っている
- ほとんど行っていない
- 独自の学力調査を実施していない



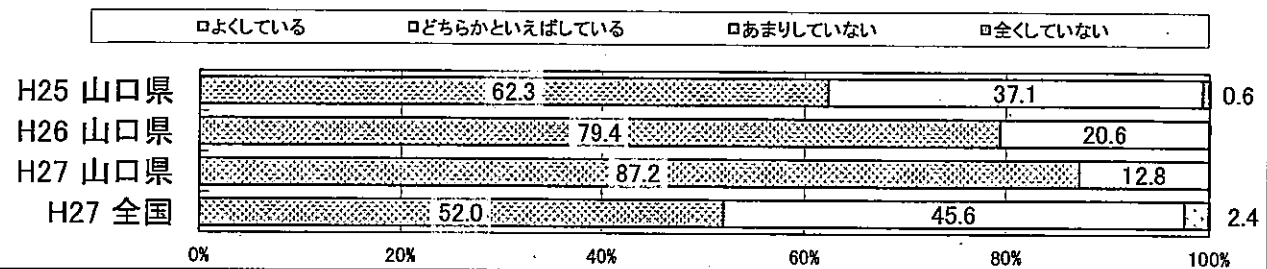
ウ 学力状況についての教員の共通理解

- 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間でよく共有している学校の割合は増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 今後も、学力向上に関する学校の組織的な取組が継続的に行われることが必要である。

【小学校】 110 学校全体の学力傾向や課題について、全職員の間で共有している



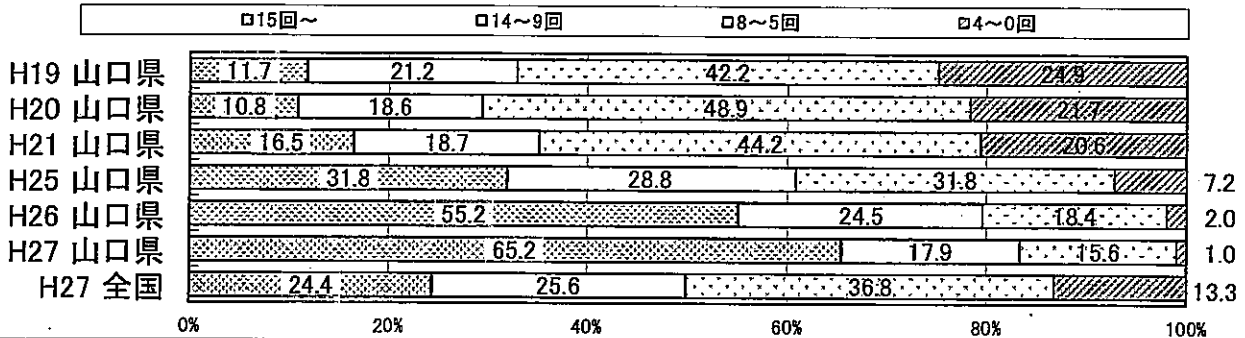
【中学校】 108 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している



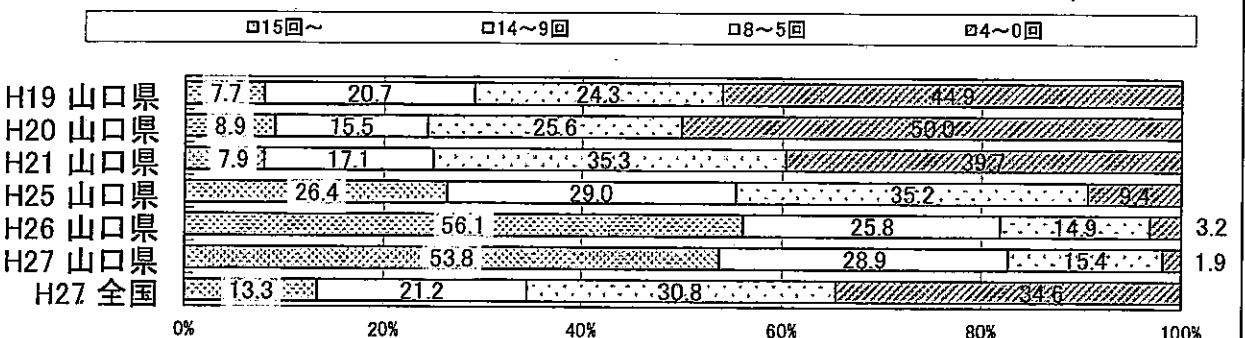
エ 校内研修の実施

- 授業研究を伴う校内研修の年間実施回数は、全国と比べて多く、調査開始期と比較しても増加している。
- ☞ 今後も、学力向上推進リーダー・推進教員を効果的に活用するなど、校内研修が活性化され、日常的な授業改善が図られることが必要である。

【小学校】 103 授業研究を伴う校内研修の回数



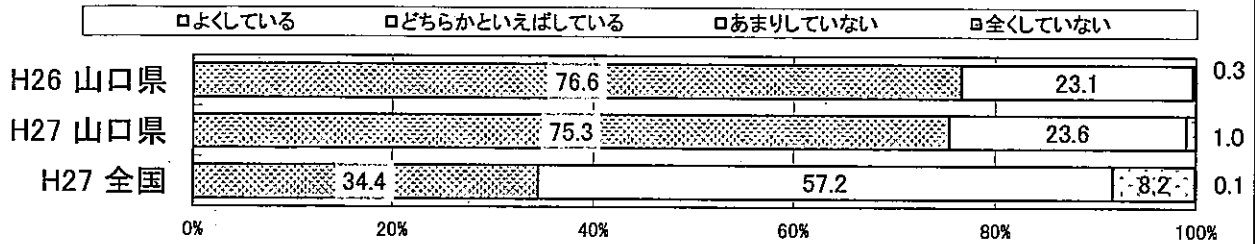
【中学校】 101 授業研究を伴う校内研修の回数



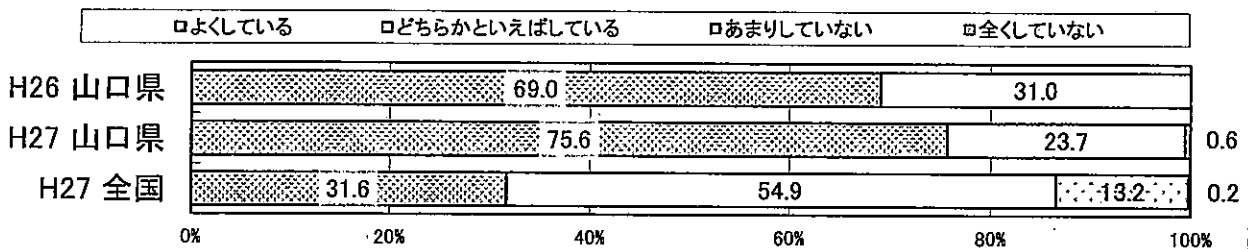
オ 言語活動についての取組

○ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科・領域を通じて、学校全体として取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて高く、特に中学校で「よくしている」と答えている学校の割合が増加している。
 ☞ 今後も、言語活動の充実を校内研修や授業改善の視点の一つとして取り組むことが必要である。

【小学校】 109 言語活動について、国語科だけでなく各教科・領域を通じて学校全体として取り組んでいる



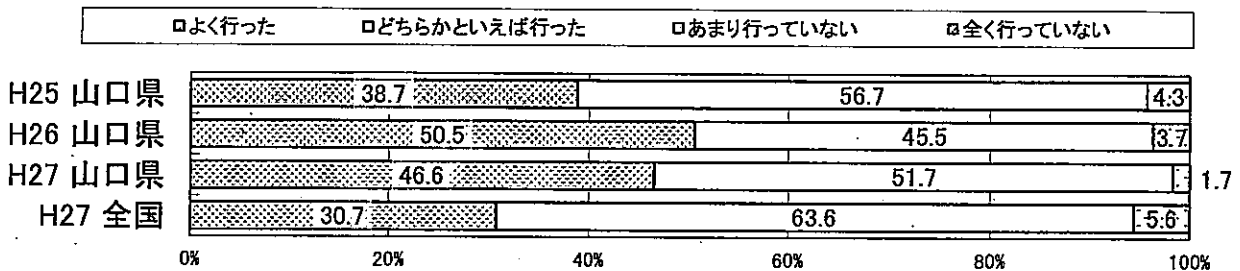
【中学校】 107 言語活動について、国語科だけでなく各教科・領域を通じて学校全体として取り組んでいる



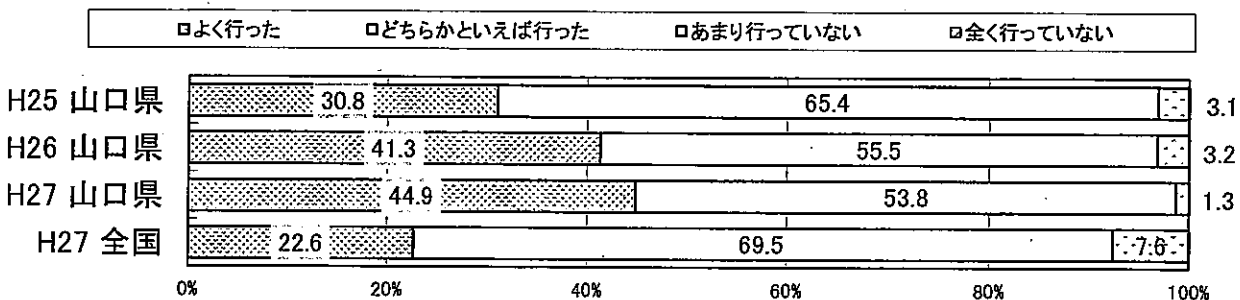
カ 思考を深める指導

○ 児童生徒に対して、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした学校の割合は、全国と比べて高く、特に中学校においては、「よく行った」と答える割合が増加している。
 ☞ 授業改善の意識が高まってきていることが考えられ、今後も指導の工夫改善に取り組むことが必要である。

【小学校】 32 児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行った



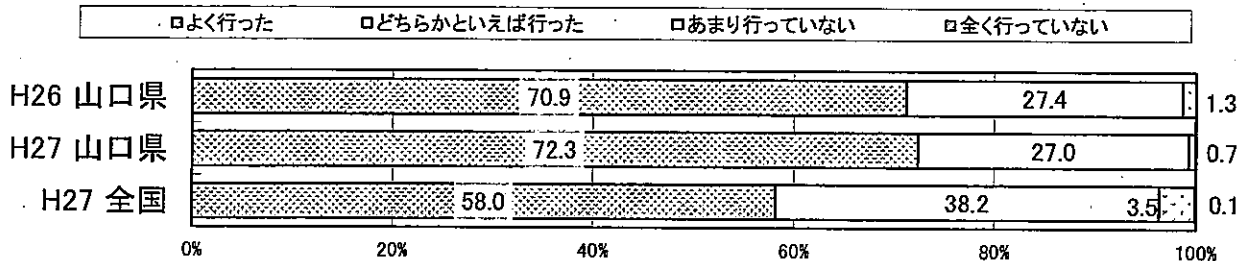
【中学校】 32 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行った



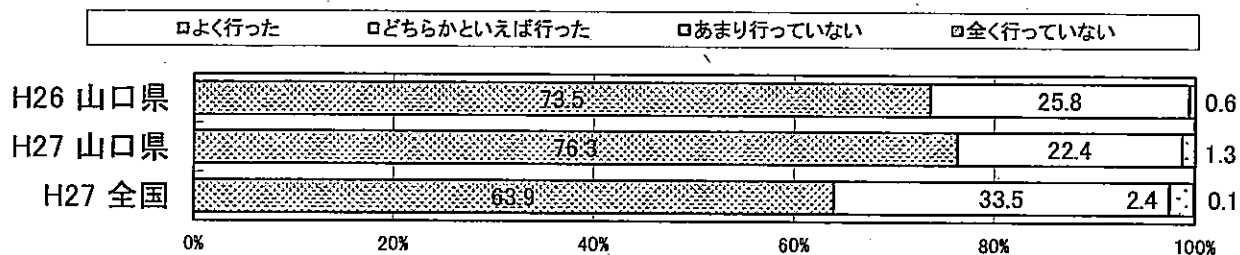
キ 学習規律の維持

- 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、落ち着いた学習環境づくりに努める必要がある。

【小学校】 44 学習規律の維持を徹底した



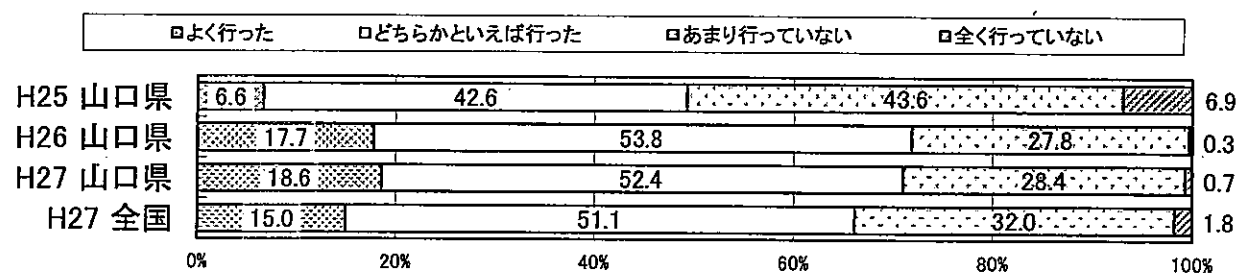
【中学校】 44 学習規律の維持を徹底した



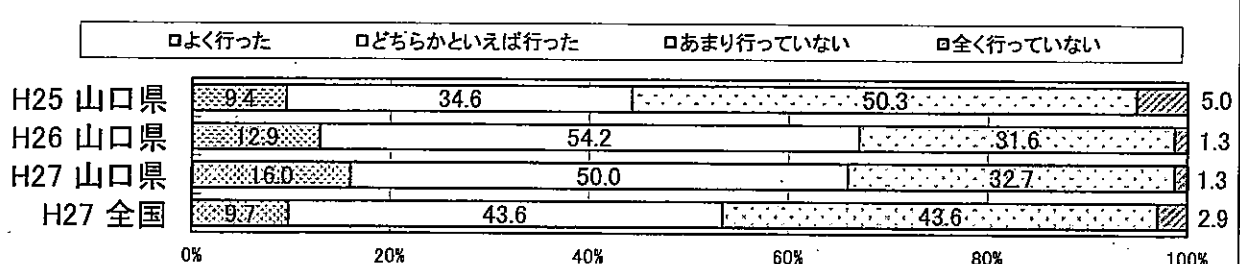
ク ICTの活用

- ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導をよく行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、授業の工夫改善の一方法として積極的に取り組む必要がある。

【小学校】 46 ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行った



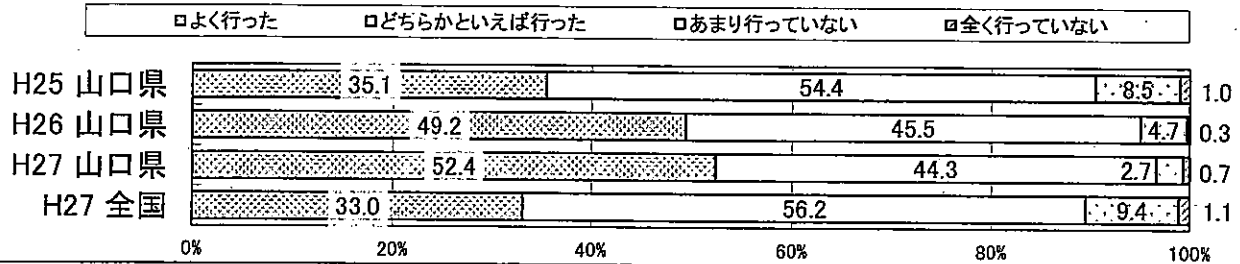
【中学校】 46 ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行った



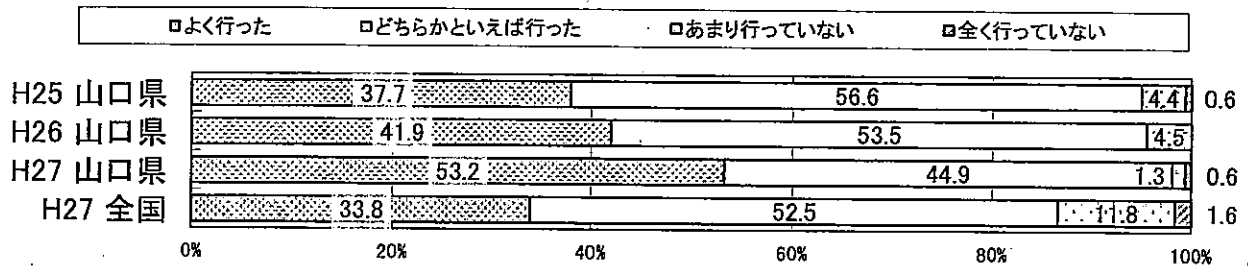
ケ 児童・生徒の特性に応じた指導

- 特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、児童生徒一人ひとりを十分理解し、それぞれの特性に応じた指導の工夫に努めていく必要がある。

【小学校】 79 特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行った



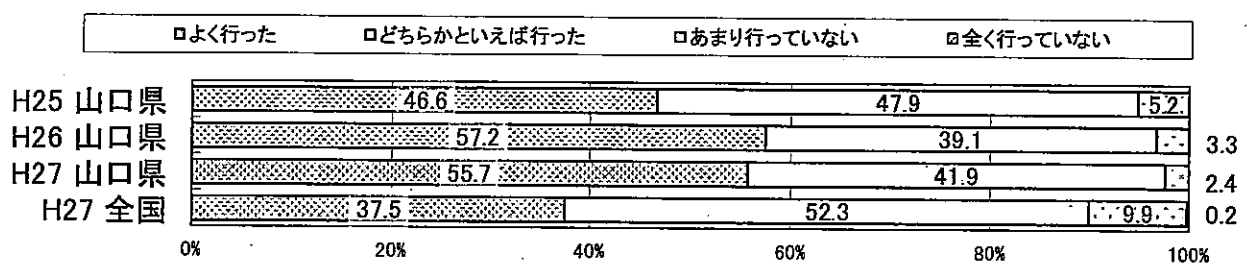
【中学校】 78 特別支援教育について理解し、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った



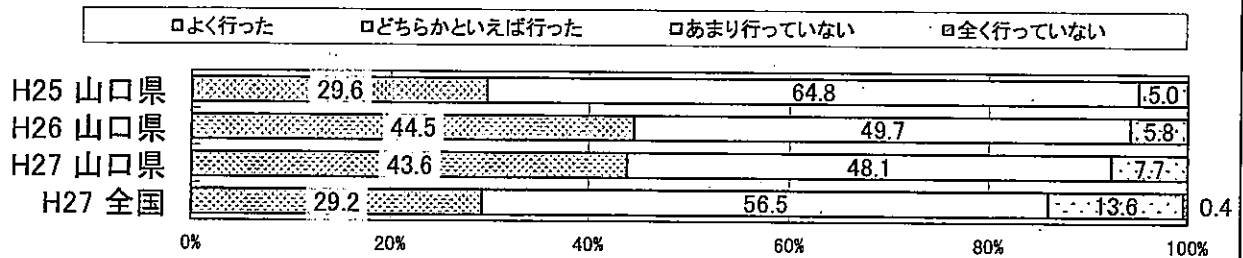
コ 家庭学習の定着に向けた取組

- 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、家庭と積極的な情報共有を行い、連携を図っていく必要がある。

【小学校】 96 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた



【中学校】 94 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習法等を具体的な例を挙げながら教えた

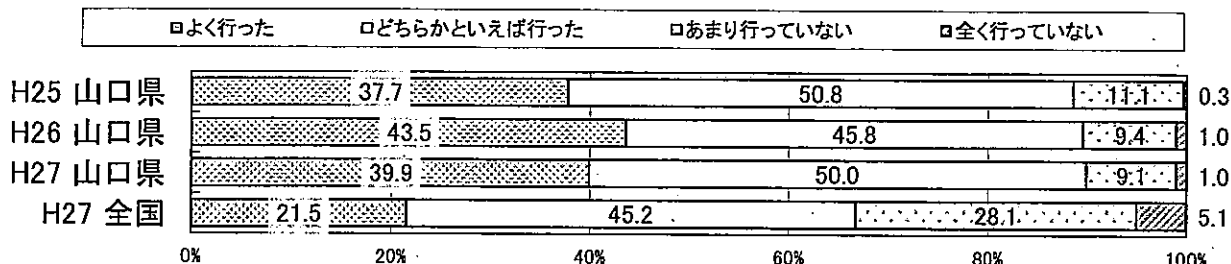


サ 小中連携

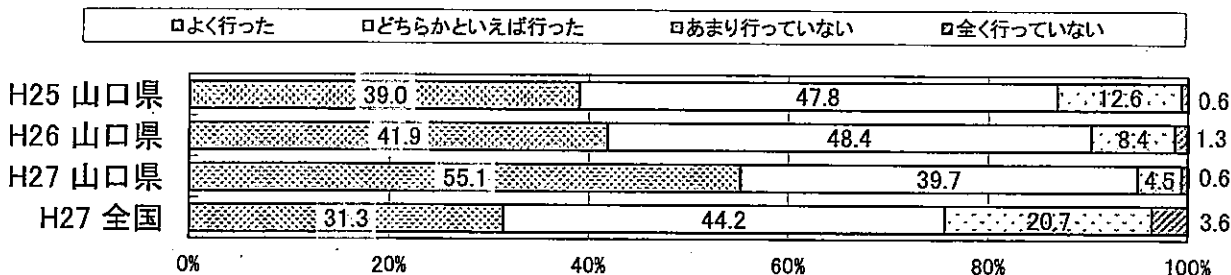
○ 教科の指導内容や指導方法について近隣の学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 今後も、小中連携カリキュラムの活用などにより、教科の指導等に関する連携を強めていく必要がある。

【小学校】 80 教科の指導内容や指導方法について、近隣の中学校と連携を行っている



【中学校】 79 教科の指導内容や指導方法について、近隣の小学校と連携を行っている

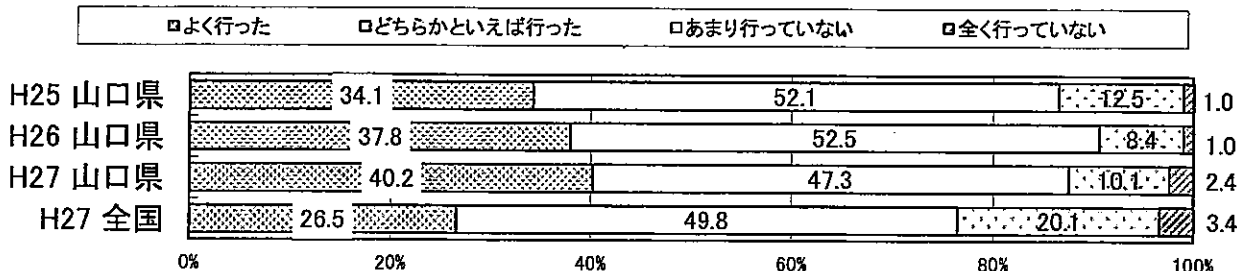


シ 地域人材の授業での活用

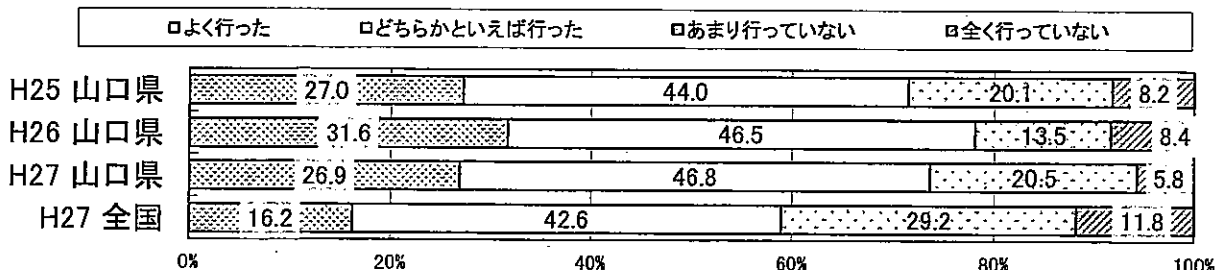
○ 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、様々な分野における地域人材の発掘と効果的な活用を図っていく必要がある。

【小学校】 81 地域人材を外部講師として招聘した授業を行った



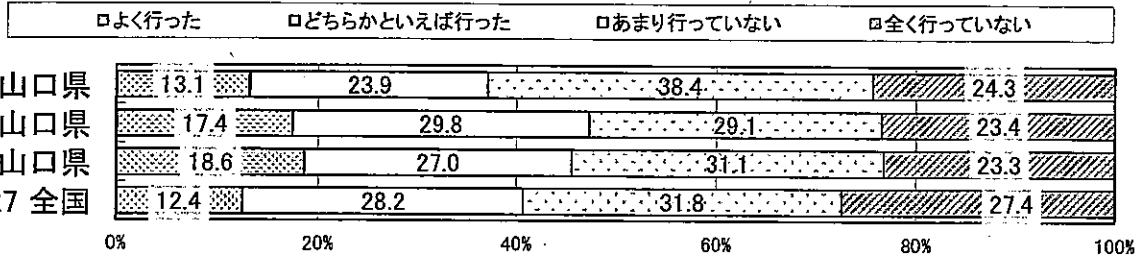
【中学校】 80 地域人材を外部講師として招聘した授業を行った



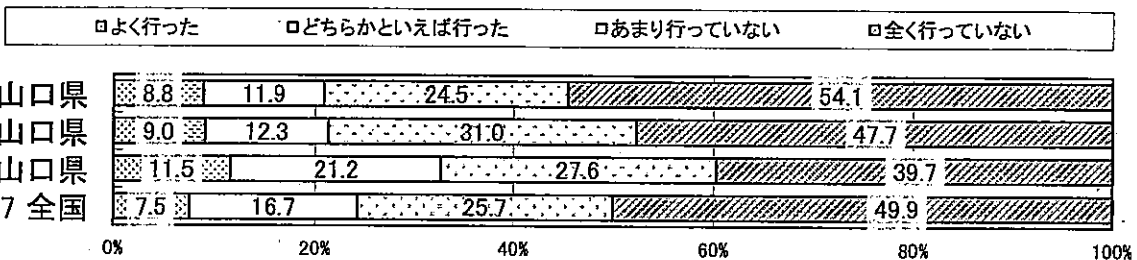
ス ボランティアによる授業サポート

- ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、地域人材の効果的な活用を図っていく必要がある。

【小学校】 82 ボランティア等による授業サポートを行った



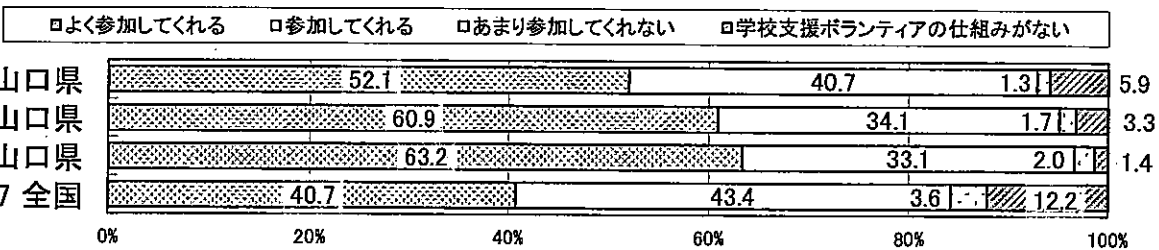
【中学校】 81 ボランティア等による授業サポートを行った



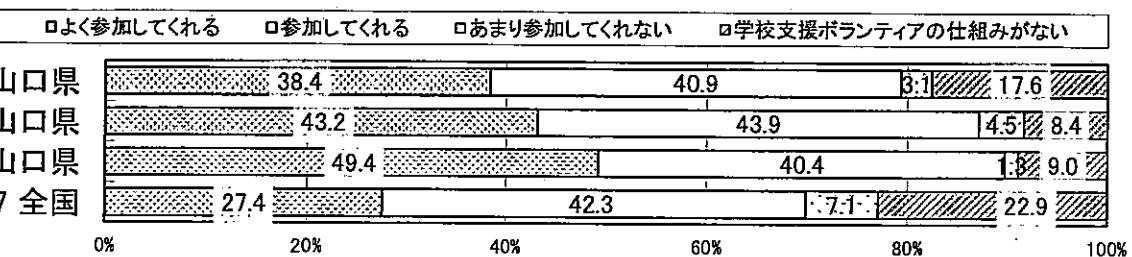
セ 保護者や地域の人による教育活動への参加

- 学校支援ボランティアの仕組み等により、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加している学校の割合は年々増加しており、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、保護者や地域人材の教育活動への積極的な参加を呼びかける等の取組を行っていく必要がある。

【小学校】 87 学校ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校の教育活動や様々な活動に参加してくれる



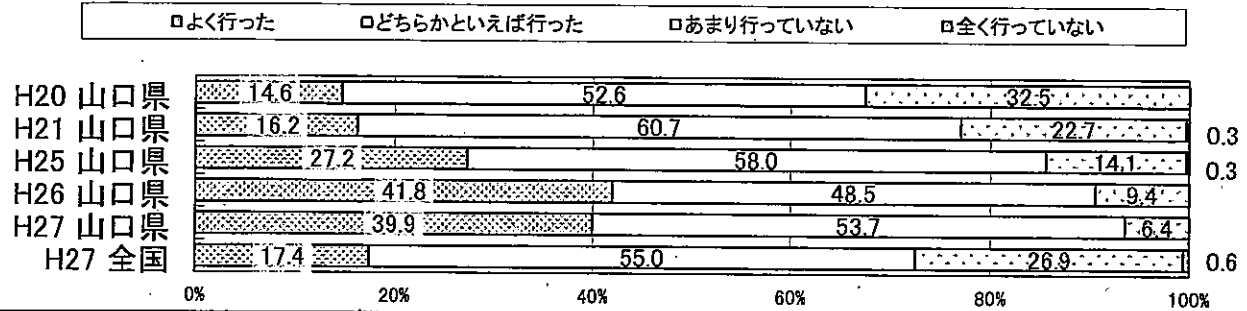
【中学校】 85 学校ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校の教育活動や様々な活動に参加してくれる



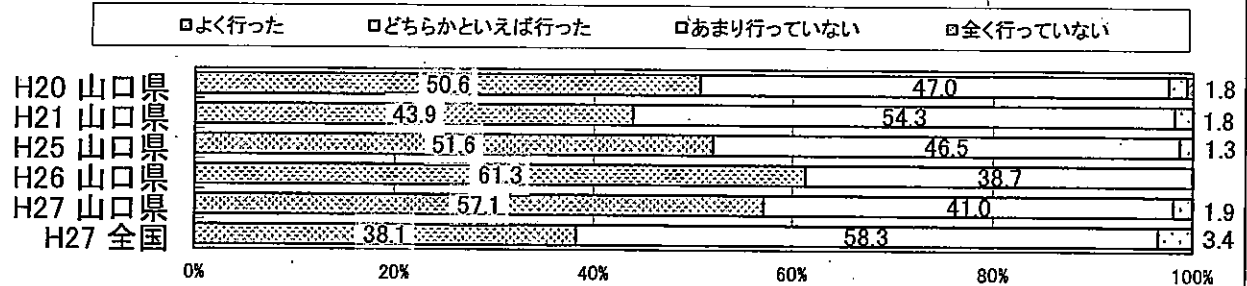
ソ 将来の夢

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は、全国と比べて高いが、「よく行った」と回答する割合が、小学校・中学校ともに昨年度より減少している。
- ☞ 今後、各学校で実施している「職場見学・職場体験」や「1/2成人式・立志式」等の取組を中心として、キャリア教育の充実を一層図っていく必要がある。

【小学校】 41 児童に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



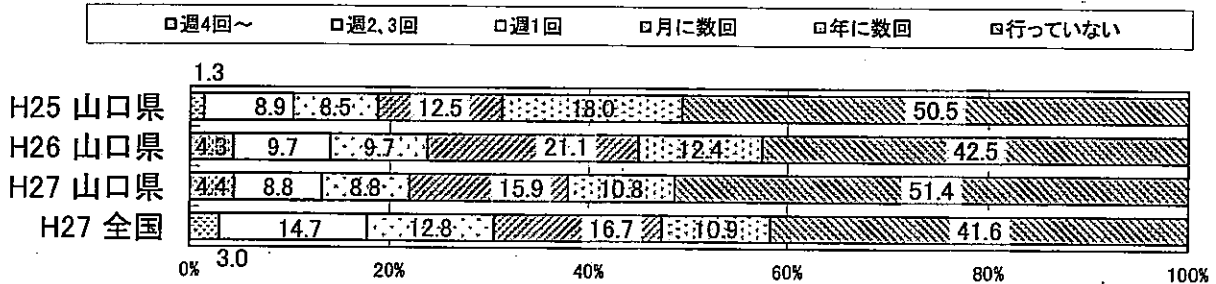
【中学校】 41 生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



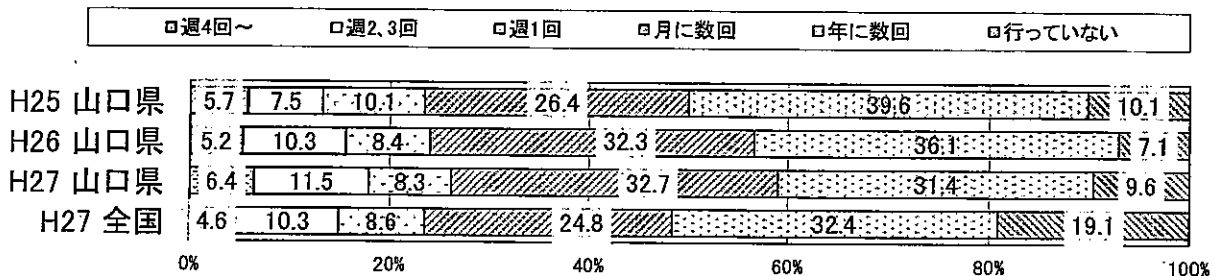
タ 放課後の補充学習

- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した小学校の割合は、全国と比べて低い。
- ☞ 放課後に限らず、各学校の実情に応じて、補充学習の充実を図っていく必要がある。

【小学校】 26 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した

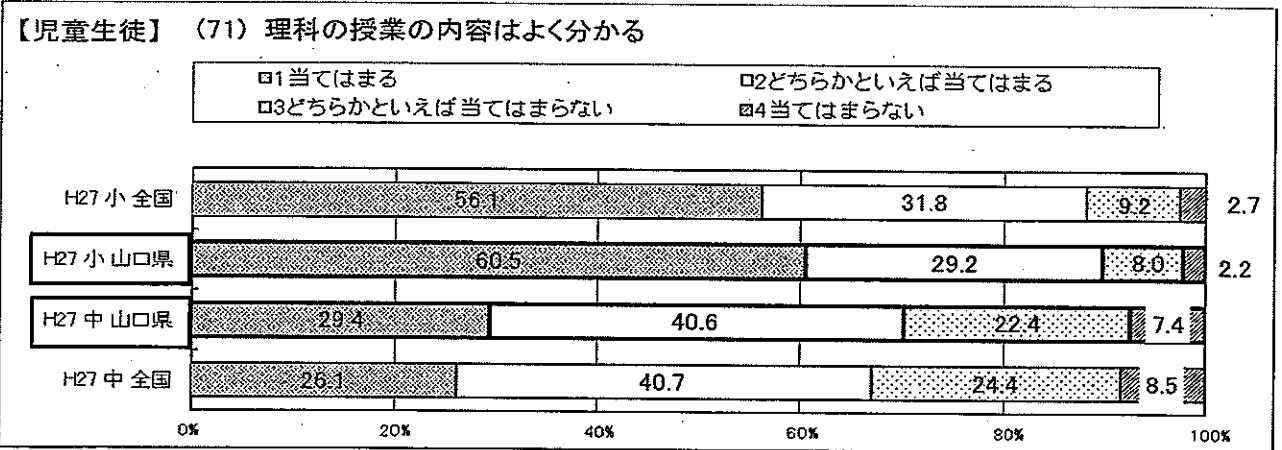
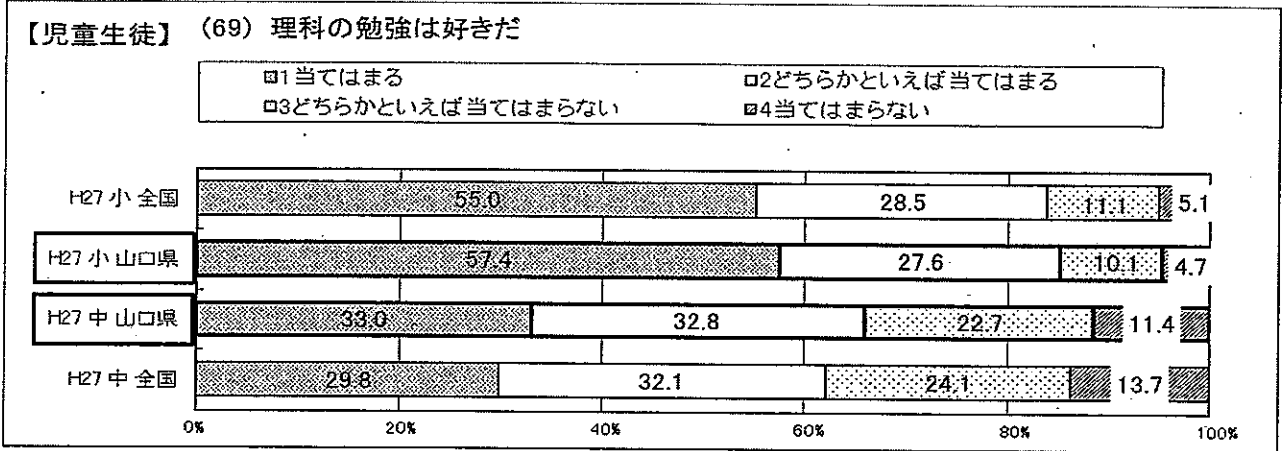


【中学校】 26 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した

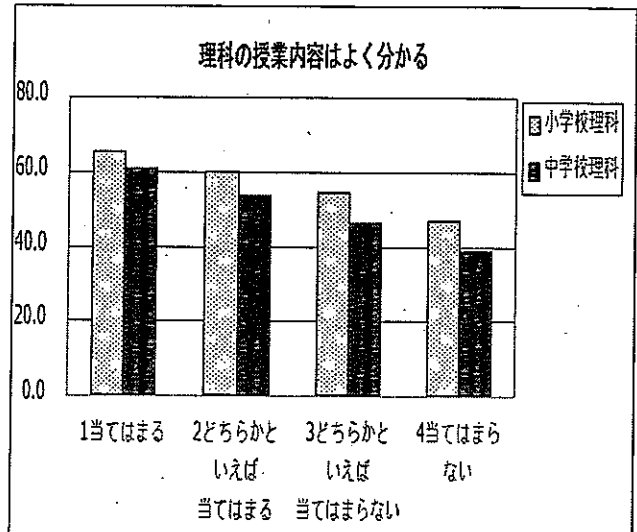
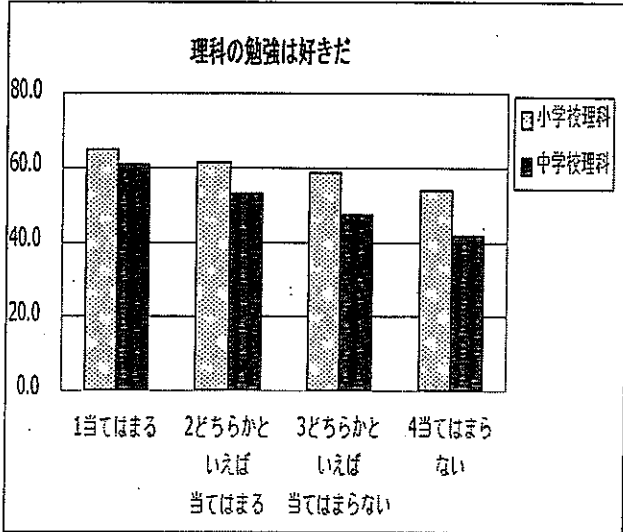


④ 理科の指導に関すること
 ア 理科への興味関心と理解

○ 「理科の勉強が好きだ」「理科の授業内容がよく分かる」に対して肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小学校から中学校へ上がると20%近く減少している。
 ○ 特に、「当てはまる」と回答する児童生徒は、小学校で6割前後、中学校では3割前後であり、児童生徒の興味関心を高める指導の工夫改善に努める必要がある。



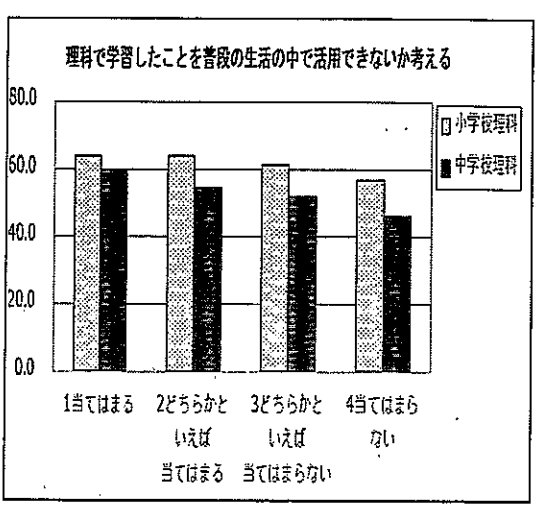
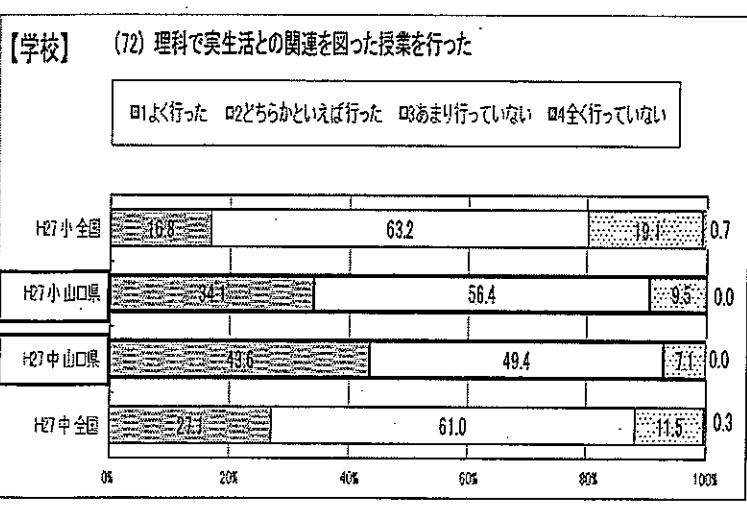
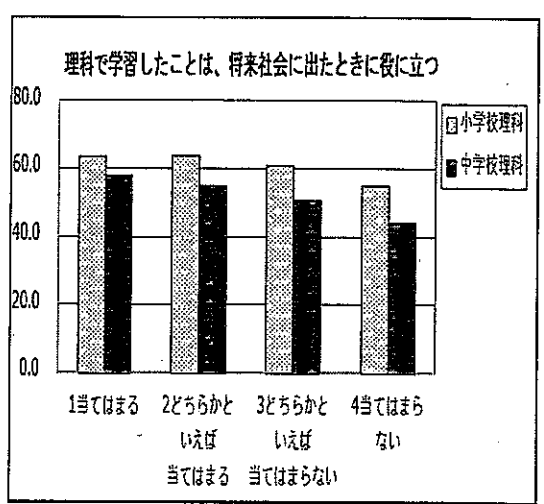
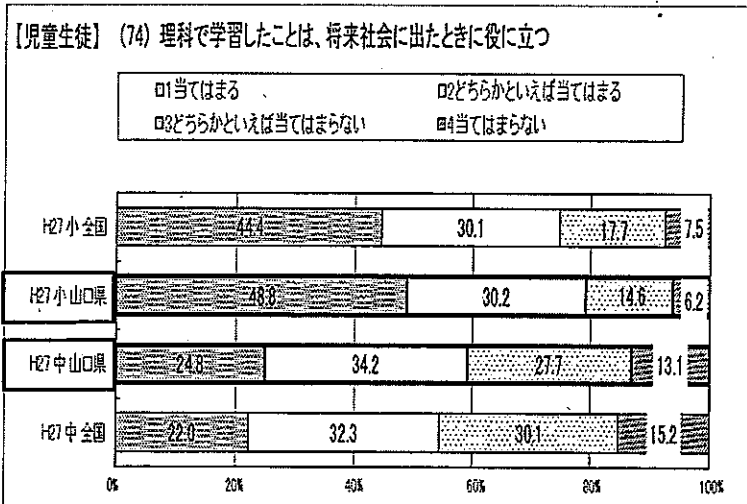
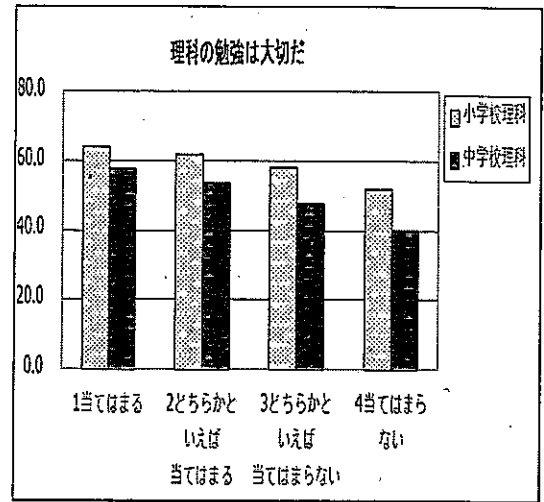
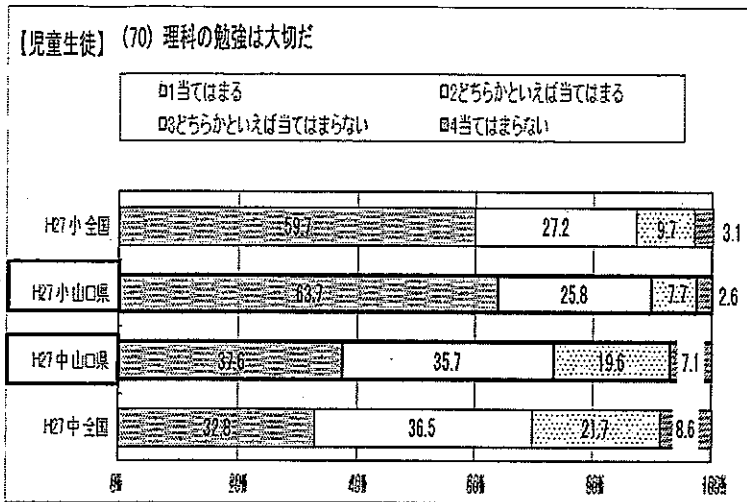
[児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係]



イ 理科を学ぶ意義

- ◎ 「理科の勉強は大切だ」「将来社会へ出たときに役に立つ」など、理科の有用性を感じている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。
- ☞ 実生活における事象と学習内容を関連させる、身近な素材を活用するなど、理科と生活とのつながりや、理科を学ぶ意義を感じさせる指導の工夫を図っていくことが必要である。

[児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係]



ウ 観察や実験の実施

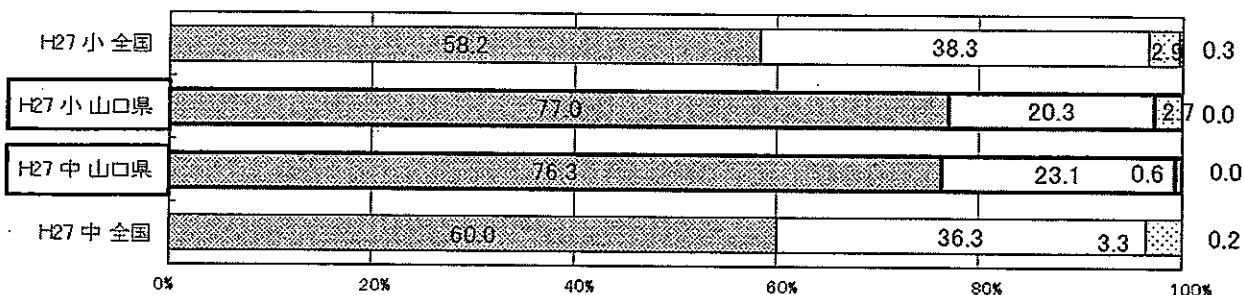
◎ 理科室での観察や実験をよく行った学校の割合は、小学校・中学校とも全国と比べて高く、児童生徒の観察や実験に対する意欲も高い。

㊦ 観察や実験が好きだと回答した児童生徒は正答率が高い傾向が見られ、今後も観察や実験を十分取り入れた授業を実施し、児童生徒の関心・意欲を高めていくことが必要である。

【学校】

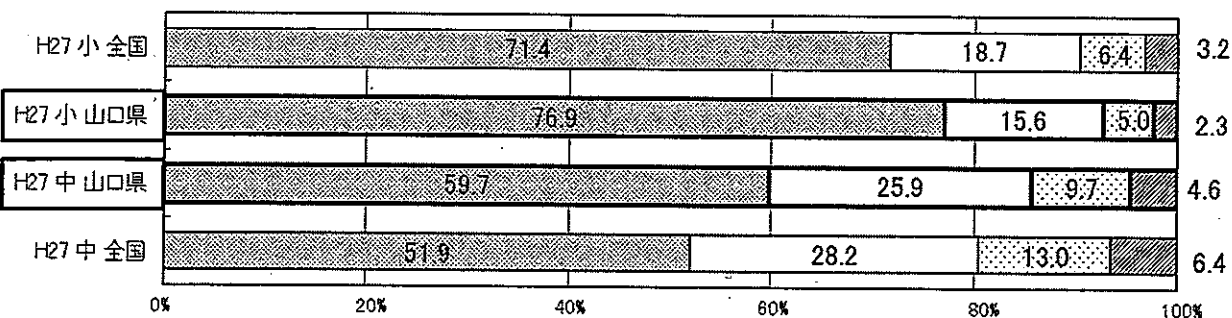
(78/77) 理科室で児童生徒が観察や実験を行う授業をどのくらい行ったか

□1 週1回以上 □2 月1回以上 □3 学期に1回以上 □4 ほとんど又は全く行ってない

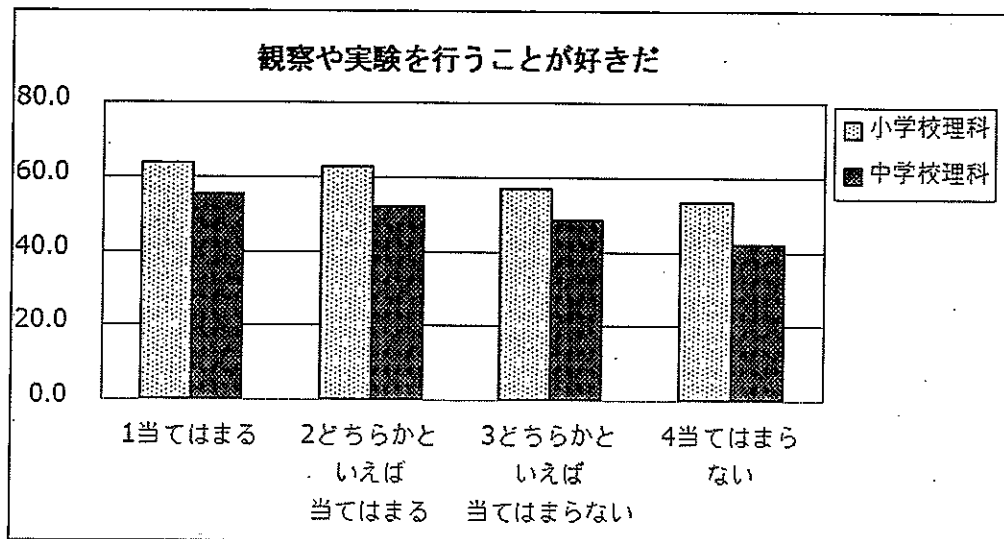


【児童生徒】 (78) 観察や実験を行うことは好きだ

□1 当てはまる □2 どちらかといえば当てはまる
□3 どちらかといえば当てはまらない □4 当てはまらない



[児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係]

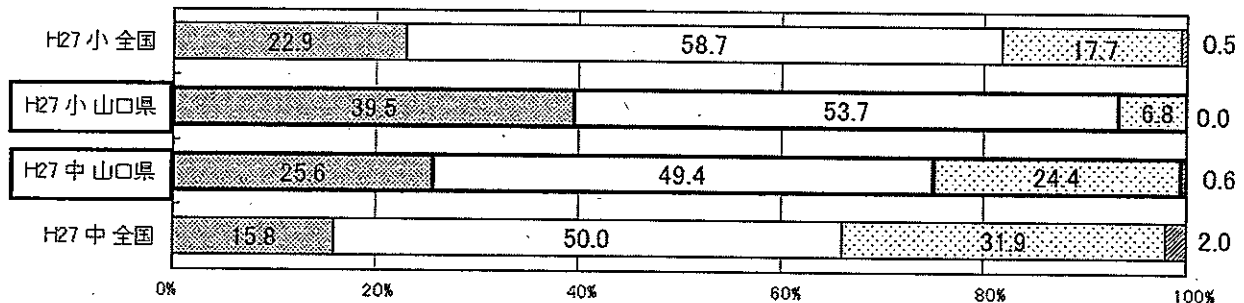


エ 児童生徒の仮説をもとにした観察や実験の計画

- ◎ 児童生徒の仮説をもとに観察や実験の計画を立てさせる指導を行った学校の割合は、小学校・中学校とも全国と比べて高く、同様の設問に肯定的な回答をした児童生徒は、平均正答率が高い傾向が見られる。
- ☞ 今後も、児童生徒が主体的に考え取り組む学習を、積極的に仕組むことが必要である。

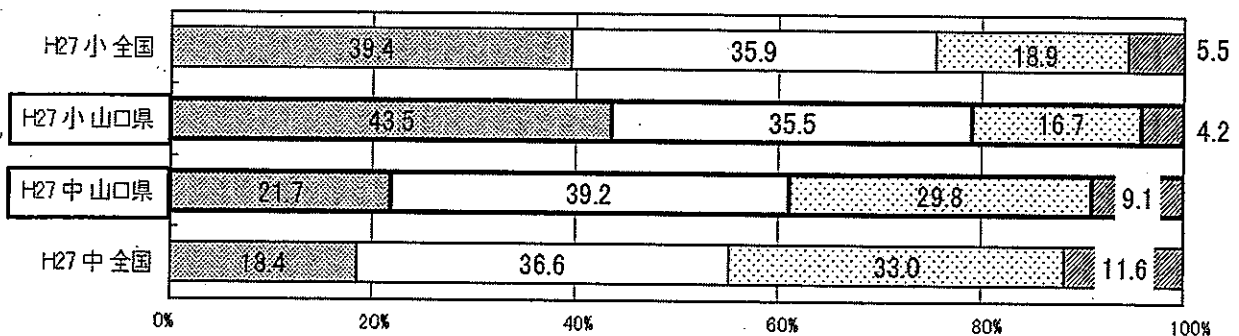
【学校】 (74/73) 児童生徒の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てさせる指導を行った

☐1よく行った ☐2どちらかといえば行った ☐3あまり行っていない ☐4全く行っていない

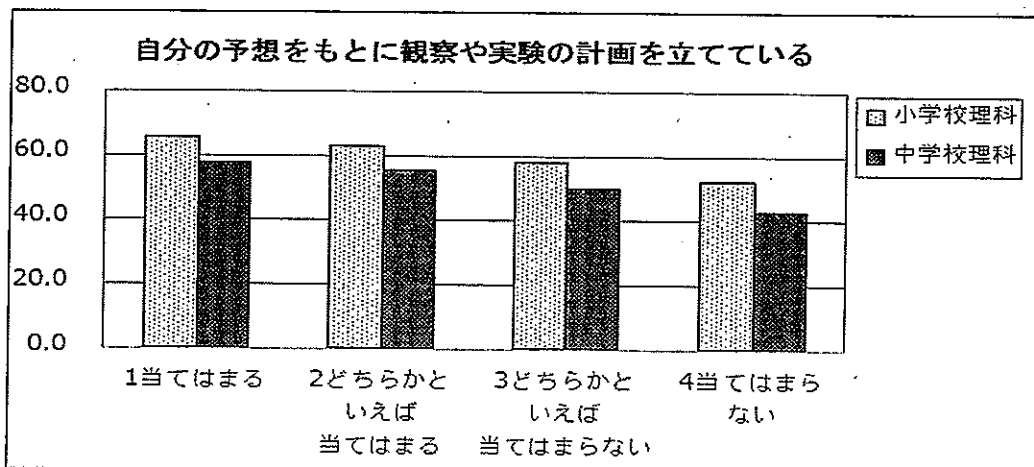


【児童生徒】 (79) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている

☐1当てはまる ☐2どちらかといえば当てはまる
☐3どちらかといえば当てはまらない ☐4当てはまらない



《児童生徒質問紙の回答と正答率との関係》

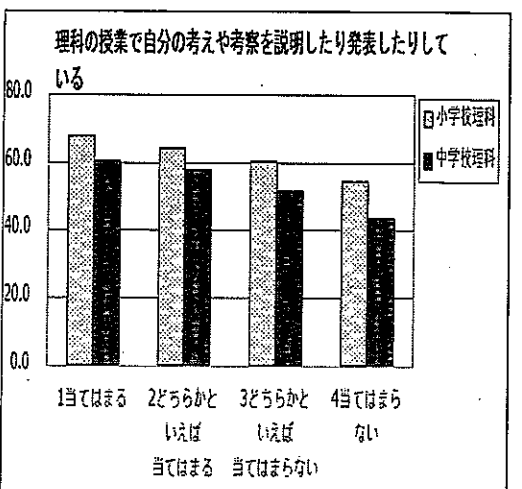
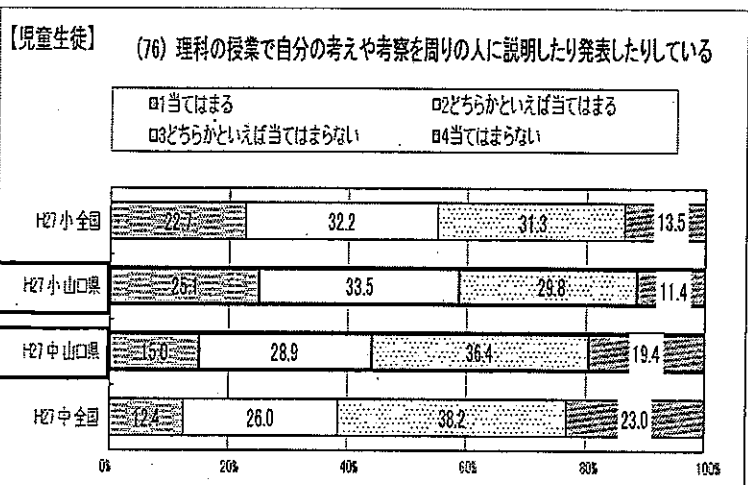
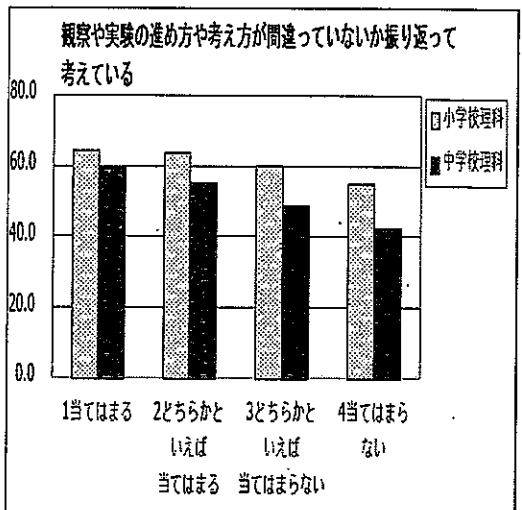
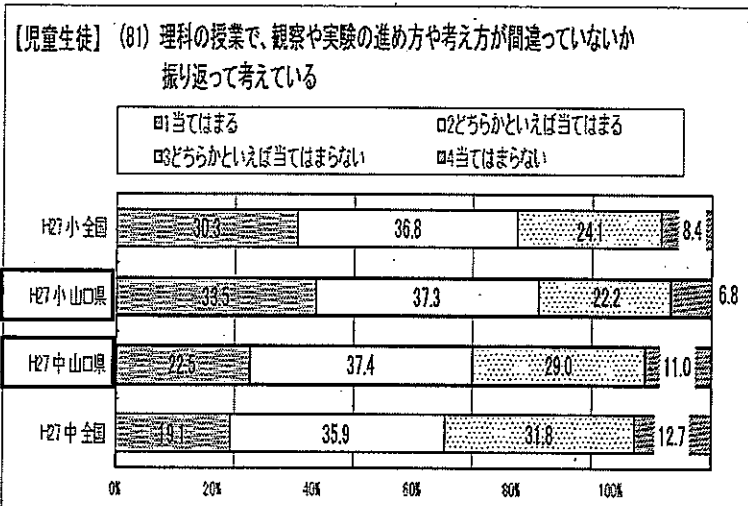
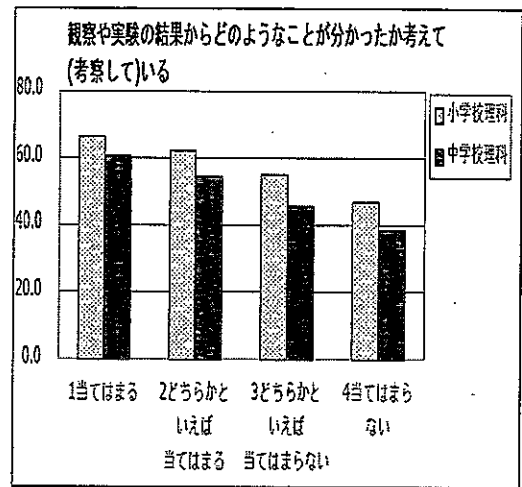
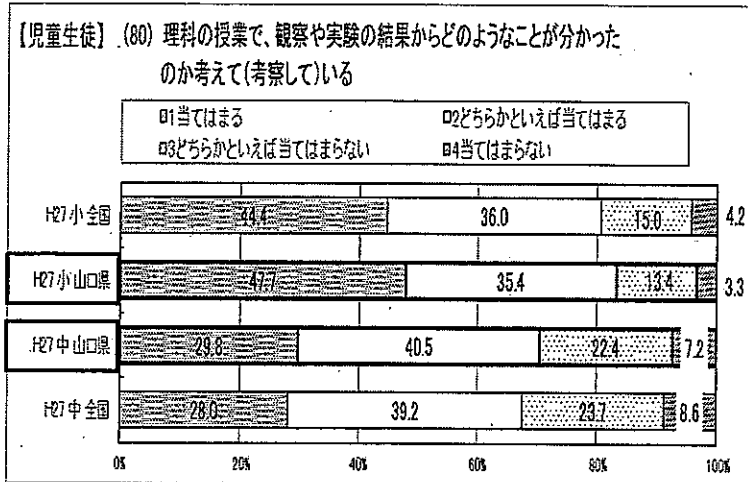


オ 観察や実験の考察や発表

◎ 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返って考えたり、結果からどのようなことが分かったか考えたりする児童生徒や、自分の考えや考察を説明したり発表したりする児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。

⇒ 今後は、観察や実験の結果をもとに各自の考えをまとめさせる指導や、言語活動と関連付けた指導の充実が必要である。

〔児童生徒質問紙の回答と正答率との関係〕



学力向上に向けた今後の取組【案】

各学校、市町教委、県教委の連携を一層強化するとともに、コミュニティ・スクール等の取組による、学校、家庭、地域との連携・協力を基盤とし、調査結果等から明らかとなった成果と課題を踏まえ、4つの重点取組事項を柱に、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」の定着・向上に向けた取組を引き続き全力で取り組む。

【課題】

- 基礎的・基本的な内容の一層の定着
- 活用する力（思考力、判断力、表現力等）の育成
- 望ましい学習習慣の確立

【4つの重点取組事項】

- ① 学校の組織的な取組
 - ② 指導方法の工夫改善
 - ③ 学習環境の整備
 - ④ 学習習慣の確立
- ☆ 家庭・地域との連携・協働

山口県学力向上
キャッチフレーズ

わかる喜び できる楽しさ 学び続けるやまぐちっ子
～高めよう授業力 育てよう学習力～

学 校

- ① 学校の組織的な取組
 - 全国学力・学習状況調査、山口県学力状況確認問題による全校体制での年2回の検証改善サイクルを活用した取組の充実
 - ・ 学力分析支援ツールによるきめ細かな分析と共有・活用
 - ・ 各調査結果を踏まえた関連資料の活用
 - ・ 「学力向上プラン」の検証改善
 - 教科・学年・学級の枠を越えた組織的な指導体制づくり
 - 研究指定校及び加配校の効果的取組の活用
 - 全教職員が関わる人材育成1000日プランの取組
 - ② 指導方法の工夫改善
 - PDCAサイクルによる授業改善等、教科・学年・学級を越えた校内研修の推進
 - ・ 課題の提示、話し合い活動、授業の振り返りを明確に位置付け、定着を確認して、分からないことを分かるまで徹底する指導
 - ・ 授業交換、授業評価を活用した取組
 - ・ 学力向上推進リーダー・推進教員、教育力向上指導員、授業アドバイザー、県市町教委指導主事の効果的な活用
 - 「活用する力を高める研究協議会」「授業づくり拠点校研修会」等の研修会の成果の活用
 - 「やまぐち学習支援プログラム」の積極的な活用
 - ③ 学習環境の整備
 - 学習規律（きまり、けじめ、規範意識）の確立・徹底
 - 学びを促す学習環境づくり（学級・校内掲示、ノート指導、教材教具（ワークシート）整備等）
 - コミュニティ・スクールの仕組みを活用した、地域人材による学習支援体制づくり
 - 幼保・小、小・中、中・高連携の取組
 - ④ 学習習慣の確立
 - 一人ひとりの課題に応じた補充学習の実施
 - 学校の取組や家庭学習の充実に向けた積極的な情報発信
 - ・ 全国学力・学習状況調査と県学力定着状況確認問題の結果と取組方策の情報提供（学力分析支援ツール個人票の活用）
 - 読書習慣を育成する取組（学校図書館の活用促進）
- ☆ 学力向上をテーマとした熟議の実施と学習支援

家庭・地域

- ☆ 生活・学習習慣の確立
- 「早寝、早起き、朝ごはん、本を読んで外遊び」等、規則正しい生活リズムの定着
 - 携帯電話・スマートフォンの利用、テレビの視聴、ゲーム等に関するルールづくり
 - 計画を立てて、決めた時間・場所で勉強するなど、家庭学習の習慣化
 - 「やまぐち学習支援プログラム」家庭版の活用
- ☆ 学校との連携
- 子どもの学習の様子等についての積極的な相談や情報共有
 - 授業参観や授業評価、懇談会等への積極的な参加
 - 学力分析支援ツールの個人票をもとにした子どもの学力傾向の把握と家庭学習の充実
 - コミュニティ・スクール等を生かした学習支援ボランティアなどへの積極的な参加

市町教委

① 学校の組織的な取組

- 全国学力・学習状況調査、山口県学力状況確認問題による年2回の検証改善サイクルを活用した取組の充実
- ・学力分析支援ツールの活用によるきめ細かで効率的な分析と課題解決に向けた取組支援

② 指導方法の工夫改善

- 指導主事の学校担当制による継続的な学校訪問と、校内研修や指導案作成での指導助言など教員の授業力向上の支援
- 継続的な学校訪問による授業改善支援を行う学力向上推進リーダー・推進教員の効果的な活用
- 教務・研修主任、学力向上担当教諭等を対象とした「学力向上プラン」の改善方法等、課題に応じた研修の充実
- 「やまぐち学習支援プログラム」の一層の活用促進
- 先進校の取組や優れた授業実践事例等の情報収集・提供

③ 学習環境の整備

- 各学校の課題解決に向けた加配教員・支援員の効果的な配置と取組の進行管理
- 幼保・小、小・中、中・高の円滑な接続に向けた各学校の取組の支援

④ 学習習慣の確立

- 生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等に向けた保護者への啓発
- コミュニティ・スクール等における学力に関する情報提供や取組の協議、地域人材による学習支援等の各学校の取組支援

県教委

① 学校の組織的な取組

- 全国学力・学習状況調査、山口県学力状況確認問題による年2回の検証改善サイクルを活用した取組の充実
- 学力分析支援ツールの活用促進によるきめ細かで効率的な分析と課題解決に向けた取組支援
- コミュニティ・スクール等を活用した学力向上の取組支援と成果の普及
- 研究指定校の取組支援と成果の普及

② 指導方法の工夫改善

- 学校の課題に応じ、市町教委と連携した重点的・継続的な学校訪問と取組支援
- 学力向上推進リーダー・推進教員の配置と、効果的な取組の情報共有
- やまぐち総合教育支援センター等との連携による、課題の解決に向けた研修機会の充実
- 「やまぐち学習支援プログラム」問題の改訂と活用促進
- 「やまぐちっ子学力向上だより」等による調査結果の分析や学力向上に向けた取組等の情報提供

③ 学習環境の整備

- 全小・中学校の35人学級化及び学校の実情に応じた課題解決型の少人数指導の一層の充実
- 幼保・小、小・中、中・高の円滑な接続に向けた学校・市町教委の取組の支援

④ 学習習慣の確立

- 「やまぐち学習支援プログラム」家庭版の活用促進
- 学力分析支援ツールの個人票による学校と家庭との情報共有の支援
- 生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等のための保護者への啓発
- ・県教育広報誌「ふれあい夢通信」、「やまぐちっ子学力向上だより～家庭版」、「やまぐち総合教育支援サイト」(Web)等による家庭学習の効果的な取組事例の紹介、教材提供

☆ コミュニティ・スクールや地域協育ネットを活用した地域ぐるみでの学力向上の取組の促進

☆ 「学力向上推進フォーラム」の開催を通じた社会総がかりによる学力向上の気運醸成